

工事番号												(様式 - 1)			
市長		副市長		部長		課長		係長		係員		検算		担当	

令和 7 年度

(交付金)下水道施設統廃合事業
明科幹線第6工区管路工事

閲覧設計書

安曇野市明科中川手

設 計 大 要				施 工 方 法	請 負
管路施設工 管路布設工 管布設工 管推進工 人孔設置工 付帯工	L=72.2m	(交付金)	(市単)	施 工 期 間	258 日間
	DIP-GX 200mm	L= 33.0m	-	起工予定年月日	令和 年 月 日
	PRP 250mm	L= 10.0m	-	竣工予定年月日	令和 年 月 日
	VU 250mm	L= 29.2m	-	契約保証方法	金銭的保証
	1号マンホール(組立式)	1 個所	-	・別途指定する建設機械については排出ガス対策型の使用を原則とする。 ・この設計書で施工機械・仮設材の規格、調査条件等の記載及び「人、h、L、%、日、時、工数、空m ³ 、掛m ² 、日・回、日回、供用日、月」の単位により見積りのための参考数量を示したものは任意扱いです。したがって、内訳書の作成や契約を拘束するものではありません。ただし、指定した場合は除きます。	
1号マンホール(レジン組立式)	2 個所	-			
3号マンホール(レジン組立式)	1 個所	-			
3号マンホール(レジン塗装工)	-	1 個所			
1 式	-				

総括情報表

事務所名 変更回数 適用単価区分 単価適用地区 実施設計単価表等の適用日	61 市町村設計積算 0 1 実施単価 50 1 1 中信(2) 07.11.01	
	当 世 代	前 世 代
	前払率(%) 40 消費税率(%) 10 % 工種 31 下水道(2) 施工地域区分(共通仮設) 06 一般交通影響有り(2)-2 施工地域区分(現場管理) 06 一般交通影響有り(2)-2 現場環境改善費率計上分 02 上記以外 契約保証方法 01 金銭的保証 緊急工事区分 00 補正なし 時間的制約 00 時間的制約無し 豪雪割増 02 豪雪割増無し 週休2日補正 09 週単位(土日) 冬期補正(現管) 384 点在工事等区分 02 附帯工事費等	

(工事費内訳書)

*** 本工事費 (交付金) ***

頁0-0003

費目・工種・種別・細別・施工名称など	数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
*** 本工事費 (交付金) ***										
管路										
管きょ工 (開削)										
管路土工										
管路掘削										
	1			式						工種 第0001号表
管路埋戻										
	1			式						工種 第0002号表
発生土処理										
	1			式						工種 第0003号表
管布設工										
ダクタイル鋳鉄管 呼び径200mm										
	30			m						科目 第0001号表

(工事費内訳書)

*** 本工事費 (交付金) ***

頁0-0006

費目・工種・種別・細別・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
鋼製さや管ホ-リング式一重ケーシング方式 さや管径400mm 本管径250mm					
立坑工	27	m			科目 第0013号表
ライナープレート式土留工及び土工 円形ライナープレート 2500 t=2.7mm 発進立坑	1	箇所			科目 第0014号表
ライナープレート式土留工及び土工 円形ライナープレート 2500 t=2.7mm マンホールポンプ立坑	1	箇所			科目 第0015号表
ライナープレート式土留工及び土工 円形ライナープレート 1500 t=2.7mm 到達立坑	1	箇所			科目 第0016号表
* 処分費等 *					
残土処分工					
明科建材(株)	50	m ³			
コンクリート廃材処理費 コンクリート無筋					
共和リテック(株)	4	t			
* 全ての諸経費の対象額に含めない *					

(工事費内訳書)

*** 本工事費 (交付金) ***

頁0-0007

費目・工種・種別・細別・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
スクラップ 配合 可鍛コロ (旧配合くず A)					
	0.02	t			
薬液注工					
薬液注工					
薬液注工					
付帯工	34	本			科目 第0017号表
舗装撤去工					
舗装版取壊工					
	1	式			工種 第0004号表
舗装復旧工					
舗装工					
	1	式			工種 第0005号表

*** 本工事費 (交付金) ***

(工事費内訳書)

費目・工種・種別・細別・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
仮設工					
安全費					
安全費					
	1	式			工種 第0006号表
*** 直接工事費 ***					
運搬費					
仮設材等の運搬 製品長 1.2 m以内 運搬距離 7 km (搬入) ライナープレート	3	t			施工 第0 -0112号表
仮設材等の運搬 製品長 1.2 m以内 運搬距離 7 km (搬出) ライナープレート	0.7	t			施工 第0 -0113号表
仮設材等の積込み, 取卸し費 基地積込み, 現場取卸し (片道分) ライナープレート	3	t			施工 第0 -0114号表
仮設材等の積込み, 取卸し費 現場積込み, 基地取卸し (片道分) ライナープレート	0.7	t			施工 第0 -0115号表

***** 本工事費 (交付金) *****

(工事費内訳書)

費目・工種・種別・細別・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
仮設材等の運搬 製品長 1 2 m以内 運搬距離 7 k m (× 往復) 建込簡易土留	15	t			施工 第0 -0116号表
仮設材等の積込み, 取卸し費 積込み, 取卸し (往復分) 建込簡易土留	15	t			施工 第0 -0117号表
技術管理費					
通水試験工 既設管と連絡せず給水車で注水	33	m			施工 第0 -0118号表
修正 C B R 試験 刊行物単価	1	試験			
*** 現場環境改善費 (率分) ***					
率 0.0123					
*** 共通仮設費率計算額 ***					
補正無の率 0.1022		補正後の率	0.1251		

*** 本工事費 (交付金) ***

(工事費内訳書)

費目・工種・種別・細別・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
*** 共通仮設費計 ***						
*** 純工事費 ***						
*** 現場管理費 *** 補正無の率 0.3332				補正後の率 0.3822		
*** 工事原価 ***						
*** 一般管理費等 *** 補正無の率 0.1851				前払率補正 1.0000 契約保証補正 0.0004		
*** 工事価格 ***						
*** 消費税等相当額 *** 率 0.1000						
*** 工事費 ***						

工種明細表

工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
機械掘削工（バックホウ） クローラ型山積0.28m ³ （平積0.2m ³ ）	70	m ³			施工 第0 -0016号表
掘削 土砂 現場制約あり	20	m ³			施工 第0 -0103号表
*** 単位当り ***	1	式			

工種明細表

工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
機械投入埋戻工 BH山積0.28m ³ (平積0.2) 礫質土	60	m ³			施工 第0 -0019号表
機械投入埋戻工 BH山積0.28m ³ (平積0.2) 砂	10	m ³			施工 第0 -0104号表
*** 単位当り ***	1	式			

工種明細表

工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
発生土運搬工 DT4t積み 運搬距離1.3km 良好 BH山積0.28m ³ (平積0.2m ³)積込	30	m ³			施工 第0-0021号表
処分費等					
残土処分工 明科建材(株)	30	m ³			
*** 単位当り ***	1	式			

工種明細表

工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
舗装版切断 アスファルト舗装版 15cm以下	140	m			施工 第0 -0105号表
舗装版破碎 アスファルト舗装版 障害等なし	70	m ²			施工 第0 -0106号表
殻運搬 舗装版破碎 DID区間なし 11.5km以下 機械積込(騒音対策不要、舗装版厚15cm以下) 現場～共和リテック8.2km	3	m ³			施工 第0 -0107号表
処分費等					
アスファルト廃材処理費 アスファルト掘削廃材 共和リテック(株)	6	t			
*** 単位当り ***	1	式			

工種明細表

工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
表層(車道・路肩部) 1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mm以下) 平均仕上り厚30mm	69	m ²			施工 第0 -0108号表
上層路盤(車道・路肩部) 粒度調整碎石 全仕上り厚110mm	69	m ²			施工 第0 -0109号表
下層路盤(車道・路肩部) 全仕上り厚200mm 1層施工	69	m ²			施工 第0 -0110号表
*** 単位当り ***	1	式			

*** 本工事費 (市単) ***

(工事費内訳書)

費目・工種・種別・細別・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
*** 本工事費 (市単) ***						
管路						
マンホール工						
組立マンホール工						
組立3号レジン塗装マンホール						
	1		箇所			科目 第0011号表
** 直接工事費 **						
** 現場環境改善費 (率分) **						
率 0.0123						
** 共通仮設費率計算額 **						

ダクティル鑄鉄管

科目内訳表

頁0-0020

科目 第0001号表

呼び径200mm

30

m

施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
下水道用ダクティル鑄鉄管 直管 呼び径200mm S種 GX形					
刊行物単価	7	本			
下水道用ダクティル鑄鉄管 呼び径200mm GX形 45°曲管					
刊行物単価	1	個			
下水道用ダクティル鑄鉄管 呼び径200mm GX形 22 1/2°曲管					
刊行物単価	2	個			
下水道用ダクティル鑄鉄管 呼び径200mm GX形 継ぎ輪					
刊行物単価	2	個			
ダクティル鑄鉄管 短管1号 呼び径200mm GX形					
調査単価	1	個			
下水道用ダクティル鑄鉄管 呼び径200mm GX形 受挿シフトソール仕切弁					
刊行物単価	1	基			
仕切弁 75~200 DP2.00m以下用					
調査単価	1	基			
伸縮可とう管 呼び径200mm U×S GX形 沈下量100mm					
調査単価	2	個			
フランジ接合材 呼び径200mm GF型 SUS304 7.5K					
刊行物単価	1	組			

ダクティル鋳鉄管

科目内訳表

科目 第0001号表

頁0-0021

呼び径200mm

30

m

施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
下水道用接合材 呼び径200mm 異形管用 GX形					
刊行物単価	5	個			
下水道用接合材 呼び径200mm GX形 G-Link					
刊行物単価	6	個			
下水道用接合材 呼び径200mm GX形 ライナ					
刊行物単価	3	個			
鋳鉄管布設工 吊込み据付工(機械) 200mm					
	30	m			施工 第0 -0001号表
鋳鉄管切断工 200mm(エンジンカッター)					
	5	口			施工 第0 -0003号表
GX形継手工(直管) 200mm					
	7	口			施工 第0 -0004号表
GX形継手工(異形管) 200mm					
	5	口			施工 第0 -0005号表
GX形継手工(G-Link) 200mm 異形管継手工60%増					
	6	口			施工 第0 -0006号表
フランジ継手工 200mm 7.5K					
	1	口			施工 第0 -0007号表

ダクティル鋳鉄管

科目内訳表

科目 第0001号表

頁0-0022

呼び径200mm

30

m

施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
鋳鉄製仕切弁設置工 200mm (機械設置)	1	基			施工 第0 -0008号表
仕切弁筐(ねじ式弁筐)設置工 A形 1号	1	箇所			施工 第0 -0009号表
伸縮可とう管設置工 200mm U×S接合	2	基			施工 第0 -0010号表
ポリエチレンスリーブ被覆工 200mm	33	m			施工 第0 -0011号表
管明示テープ工 100・200・250mm	30	m			施工 第0 -0012号表
管明示シート工	32	m			施工 第0 -0013号表
*** 合計 ***	30	m			
*** 単位当り ***	1	m			

リブ付硬質塩化ビニル管

科目内訳表

科目 第0002号表

頁0-0023

呼び径250mm

9

m

施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
リブ付硬質塩化ビニル管設置工	9	m			施工 第0 -0014号表
可とう継手 リブ付管用 250mm 刊行物単価	1	個			
*** 合計 ***	9	m			
*** 単位当り ***	1	m			

硬質塩化ビニル管

科目内訳表

科目 第0003号表

頁0-0024

呼び径250mm

既設管接続

1

式考

施工名称など	数量	単位	単価	金額	備
硬質塩化ビニル管設置工	1	m			施工 第0 -0015号表
接続バンド レジン - V U 250mm用	2	個			
調査単価 可とう継手 塩ビ管用 250mm	2	個			
刊行物単価 機械掘削工 (バックホウ) クローラ型山積0.28m3 (平積0.2m3)	5	m3			施工 第0 -0016号表
砂基礎工	0.9	m3			施工 第0 -0018号表
洗滌砂	1	m3			
機械投入埋戻工 BH山積0.28m3 (平積0.2) 礫質土	4	m3			施工 第0 -0019号表
発生土運搬工 DT4t積み 運搬距離1.3km 良好 BH山積0.28m3 (平積0.2m3) 積込	1	m3			施工 第0 -0021号表
鋼材切断工	5	m			施工 第0 -0023号表

硬質塩化ビニル管

科目内訳表

科目 第0003号表

頁0-0025

呼び径250mm

既設管接続

1

式考

施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
たて込み簡易土留（建込工） ク-ラ型 山積0.28m ³ （平積0.2m ³ ）	2	m			施工 第0 -0024号表
たて込み簡易土留（引抜工）	2	m			施工 第0 -0026号表
たて込み簡易土留機材賃料 供用日数分 深さ2.5 m掘削幅3.0 m未満	1	式			施工 第0 -0027号表
既設管撤去工 呼び径250mm	3	m			施工 第0 -0028号表
*** 単位当り ***	1	式			

硬質塩化ビニル管

科目内訳表

科目 第0004号表

頁0-0026

呼び径250mm

仮排水

1

式考

施工名称など	数量	単位	単価	金額	備
硬質塩化ビニル管・ゴム輪受口 径250mm 厚7.8mm 長4.0m	3	本			
塩ビ管45°曲管 250	4	個			
調査単価 暗渠排水管 据付 直管	12	m			施工 第0 -0030号表
機械掘削工 (バックホウ) クローラ型山積0.28m3 (平積0.2m3)	30	m3			施工 第0 -0016号表
機械投入埋戻工 BH山積0.28m3 (平積0.2) 礫質土	30	m3			施工 第0 -0019号表
発生土運搬工 DT4t積み 運搬距離1.3km 良好 BH 山積0.28m3 (平積0.2m3) 積込	0.1	m3			施工 第0 -0021号表
たて込み簡易土留 (建込工) クローラ型 山積0.28m3 (平積0.2m3)	13	m			施工 第0 -0031号表
たて込み簡易土留 (引抜工)	13	m			施工 第0 -0032号表
たて込み簡易土留機材賃料 供用日数分 深さ2.5m掘削幅3.0m未満	1	式			施工 第0 -0033号表

砕石基礎

科目内訳表

科目 第0005号表

頁0-0028

呼び径250mm

9

m

施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
砕石基礎工					
再生クラッシャーラン 40mm以下	4	m ³			施工 第0 -0034号表
*** 合計 ***	9	m			
*** 単位当り ***	1	m			

建込簡易土留工

科目内訳表

科目 第0006号表

頁0-0029

ダクティル鉄管

33

m

施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
たて込み簡易土留(建込工) ク型 山積0.28m ³ (平積0.2m ³)	7	m			施工 第0 -0035号表
たて込み簡易土留(引抜工)	7	m			施工 第0 -0036号表
たて込み簡易土留機材賃料 供用日数分 深さ3.0m掘削幅3.0m未満	1	式			施工 第0 -0037号表
たて込み簡易土留(建込工) ク型 山積0.28m ³ (平積0.2m ³)	23	m			施工 第0 -0038号表
たて込み簡易土留(引抜工)	23	m			施工 第0 -0039号表
たて込み簡易土留機材賃料 供用日数分 深さ2.5m掘削幅3.0m未満	1	式			施工 第0 -0040号表
たて込み簡易土留(建込工) ク型 山積0.28m ³ (平積0.2m ³)	3	m			施工 第0 -0041号表
たて込み簡易土留(引抜工)	3	m			施工 第0 -0042号表
たて込み簡易土留機材賃料 供用日数分 深さ2.0m掘削幅3.0m未満	1	式			施工 第0 -0043号表

建込簡易土留工

科目内訳表

科目 第0006号表

頁0-0030

ダクティル鉄管

33

m

施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
たて込み簡易土留機材賃料 修理費及び損耗費分 深さ2.5m掘削幅3.0m未満	1	式			施工 第0 -0044号表
*** 合計 ***	33	m			
*** 単位当り ***	1	m			

建込簡易土留工

科目内訳表

科目 第0007号表

リブ付硬質塩ビ管

10

m

施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
たて込み簡易土留（建込工） 加ラ型 山積0.28m ³ （平積0.2m ³ ）	10	m			施工 第0 -0045号表
たて込み簡易土留（引抜工）	10	m			施工 第0 -0046号表
たて込み簡易土留機材賃料 供用日数分 深さ2.0m掘削幅3.0m未満	1	式			施工 第0 -0047号表
*** 合計 ***	10	m			
*** 単位当り ***	1	m			

施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
安曇野市型マンホール鉄蓋(T-25) 径600mm 不法投棄防止 除雪対応型					
調査単価	1	組			
転落防止梯子					
刊行物単価	1	個			
1号マンホール 底版 外径1100mm有効高 130mm					
	1	個			
底部工(組立1号) 1号(インバートのみ)					
	1	箇所			施工 第0 -0048号表
1号マンホール く体ブロック 内径900mm 有効高1500mm					
	1	個			
1号マンホール 斜壁 上径600下径900高600					
	1	個			
マンホール 調整リング 径600mm 有効高 50mm					
	1	個			
マンホール 調整金具 調整高45mm まで					
	1	組			
削孔代 0号・1号 VU管用 250mm用					
	5	箇所			

科目内訳表

施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
組立マンホール工 1号(内径900mm) 3m以下	1	箇所			施工 第0 -0052号表
鋳鉄管切断工 250mm(エンジンカッター)	1	m			施工 第0 -0053号表
*** 単位当り ***	1	箇所			

組立1号レジンマンホール

科目内訳表

科目 第0009号表

頁0-0034

2

箇所
考

施工名称など	数量	単位	単価	金額	備	考
安曇野市型マンホール鉄蓋(T-25) 径600mm 不法投棄防止 除雪対応型 1+1 調査単価	2	組				
転落防止梯子 刊行物単価	1	個				
レジンマンホール 底盤ブロック 径1060mm 有効高90mm 1+1 調査単価	2	個				
底部工(組立1号) 1号	1	箇所				施工 第0 -0054号表
底部工(組立1号) 1号(インバートのみ)	1	箇所				施工 第0 -0055号表
レジンマンホール く体ブロック 径900mm 有効高1200mm 調査単価	1	個				
レジンマンホール く体ブロック 径900mm 有効高1500mm 調査単価	1	個				
レジンマンホール 直壁ブロック 径900mm 有効高1200mm 調査単価	1	個				
レジンマンホール 直壁ブロック 径900mm 有効高1500mm 調査単価	1	個				

組立1号レジンマンホール

科目内訳表

科目 第0009号表

頁0-0035

2 箇所

施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
レジンマンホール 頂版ブロック 径900mm 有効高120mm 1+1 調査単価	2	個			
レジンマンホール 調整リング 径600mm 有効高50mm 調査単価	1	個			
レジンマンホール 調整リング 径600mm 有効高100mm 調査単価	2	個			
マンホール 調整金具 調整高25mm まで 1+1	2	組			
削孔代 1号レジン用 削孔径206mm~252mm 調査単価	1	箇所			
削孔代 1号レジン用 削孔径252mm~304mm 調査単価	1	箇所			
組立マンホール工 1号(内径900mm) 3m以下	1	箇所			施工 第0 -0052号表
組立マンホール工 1号(内径900mm) 4m超~5m以下	1	箇所			施工 第0 -0056号表
*** 合計 ***	2	箇所			

組立3号レジンマンホール

科目内訳表

科目 第0010号表

頁0-0037

1

箇所
考

施工名称など	数量	単位	単価	金額	備	考
安曇野市型マンホール親子蓋 (T - 2 5) 径900mm×600mm 不法投棄防止 除雪対応型						
調査単価	1	組				
転落防止梯子						
刊行物単価	1	個				
レジンマンホール 底盤ブロック 径1660mm 有効高160mm						
調査単価	1	個				
レジンマンホール 直壁ブロック 径1500mm 有効高900mm						
調査単価	1	個				
レジンマンホール 直壁ブロック 径1500mm 有効高1800mm						
調査単価	1	個				
レジンマンホール 直壁ブロック 径1500mm 有効高2400mm						
調査単価	2	個				
レジンマンホール 頂版ブロック 径1500mm 有効高160mm						
調査単価	1	個				
レジンマンホール 中間スラブ FRP製 径1660mm						
調査単価	1	個				
レジンマンホール 調整リング 径900mm 有効高100mm						
調査単価	1	個				

科目内訳表

施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
マンホール調整金具 調整高45mmまで	1	組			
削孔代 3号レジン用 削孔径252mm~304mm	3	箇所			
調査単価 組立マンホール工 3号(内径1500mm) 5m超	1	箇所			施工 第0-0057号表
*** 単位当り ***	1	箇所			

施工名称など	数量	単位	単価	金額	備	箇所 考
レジンマンホール 直壁ブロック(塗装費) 径1500mm 有効高900mm						
調査単価	1	個				
レジンマンホール 直壁ブロック(塗装費) 径1500mm 有効高1800mm						
調査単価	1	個				
レジンマンホール 直壁ブロック(塗装費) 径1500mm 有効高2400mm						
調査単価	2	個				
*** 単位当り ***	1	箇所				

内副管

科目内訳表

科目 第0012号表

頁0-0040

1 箇所

施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
硬質塩化ビニール管・接着 受口 径200mm 厚6.5mm 長4.0m	1	本			
内副管用マンホール継手 リブ付塩ビ管用 250-200 調査単価	1	個			
内副管固定バンド 径200mm 調査単価	2	個			
下水道用塩ビ管VU カラー - 本管用 200	1	個			
下水道用塩ビ管VU曲管 (接着)90° 200	1	個			
内副管取付工 段差 2.5~3.0m未満、取付材料含む	1	箇所			施工 第0 -0058号表
*** 単位当り ***	1	箇所			

鋼製さや管ボ-リング式一重ケーシング方式

科目内訳表

科目 第0013号表

頁0-0041

さや管径400mm 本管径250mm

27

m

施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
鋼製さや管推進ボ-リング式一重ケーシング方式 打撃式掘削方式 径400mm	1	式			施工 第0 -0059号表
仮設備工	1	式			施工 第0 -0074号表
*** 合計 ***	27	m			
*** 単位当り ***	1	m			

ライナープレート式土留工及び土工

科目内訳表

頁0-0042

円形ライナープレート 2500 t=2.7mm 発進立坑

科目 第0014号表

1

箇所

施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
ライナープレート掘削土留工 2000~3900mm(円形) 礫質土	4.0	m			施工 第0 -0083号表
ライナープレート掘削土留工 2000~3900mm(円形) 礫質土	1.6	m			施工 第0 -0086号表
発生土運搬工 DT4t積み 運搬距離1.3km 良好 BH クレーン付山積0.45m3(平積0.35m3)積込	30	m ³			施工 第0 -0088号表
H形鋼 250×250	0.24	t			
刊行物単価					
コンクリート 無筋・鉄筋構造物 養生無し 小型車割増なし 夜間割増なし 豪雪割増 工種条件と同じ バックホウ(クレーン機能付)打設	2	m ³			施工 第0 -0089号表
ライナープレート(円形)黒皮 板厚2.7mm 2500 残置	6.0	m			
刊行物単価					
グラウト注入工	4	m ³			施工 第0 -0090号表
*** 単位当り ***	1	箇所			

ライナープレート式土留工及び土工

科目内訳表

頁0-0043

科目 第0015号表

円形ライナープレート 2500 t=2.7mm マンホールポンプ立坑

1

箇所

施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
ライナープレート掘削土留工 2000~3900mm(円形) 礫質土	2.5	m			施工 第0 -0086号表
埋戻モルタル 1:3 普通	22	m ³			
構造物とりこわし 無筋構造物 機械施工 低騒音・低振動対策 不要	2	m ³			施工 第0 -0092号表
殻運搬 コンクリート(無筋)構造物とりこわし 機械積込 DID区間なし 10.9km以下	2	m ³			施工 第0 -0093号表
発生土運搬工 DT4t積み 運搬距離1.3km 良好 BH クレーン付山積0.45m ³ (平積0.35m ³)積込	10	m ³			施工 第0 -0088号表
ライナープレート(円形)黒皮 板厚2.7mm 2500 残置	1.0	m			
刊行物単価					
ライナープレート(円形)黒皮 板厚2.7mm 2500 損料	1.5	m			
刊行物単価					
ライナープレート取り除き工 1500~3000mm(円形) ライナープレート廃棄	1.9	m			施工 第0 -0094号表
鋼材切断工	8	m			施工 第0 -0023号表

ライナープレート式土留工及び土工

科目内訳表

頁0-0045

円形ライナープレート 1500 t=2.7mm 到達立坑

科目 第0016号表

1

箇所

施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
ライナープレート掘削土留工 (径1900mm以下) 礫質土	4.6	m			施工 第0 -0095号表
コンクリート 無筋・鉄筋構造物 養生無し 小型車割増なし 夜間割増なし 豪雪割増 工種条件と同じ バックホ(クレーン機能付)打設	0.1	m ³			施工 第0 -0089号表
埋戻モルタル 1:3 普通	4	m ³			
発生土運搬工 DT4t積み 運搬距離1.3km 良好 BH クレーン付山積0.45m ³ (平積0.35m ³)積込	8	m ³			施工 第0 -0088号表
ライナープレート(円形)黒皮 板厚2.7mm 1500 残置	3.5	m			
ライナープレート(円形)黒皮 板厚2.7mm 1500 損料	1.5	m			
ライナープレート取り除き工 1500~3000mm(円形) ライナープレート廃棄	1.9	m			施工 第0 -0094号表
鋼材切断工	5	m			施工 第0 -0023号表
グラウト注入工	2	m ³			施工 第0 -0090号表

施工内訳表

機械投入埋戻工 BH山積0.28m3 (平積0.2)
礫質土

施工 第0 -0019号表

100 m3 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	2.500	人			
普通作業員	3.800	人			
埋戻土	133.000	m3			
バックホウ運転 (機-1) クローラ型・標準 山積0.28m3 排出ガス対策型2次基準	7.600	時間			施工 第0-0017号表
タンバ締め	100.000	m3			施工 第0-0020号表
諸雑費	1	式			
*** 合計 ***	100	m3			
*** 単位当り ***	1	m3			
バックホウ規格：バックホウ投入 山積0.28m3 (平積0.2m3) 土質区分：レキ質土 バックホウ機種：排出ガス対策型2次基準				埋戻土単価(円/m3)： 土量の変化率：ほぐした土量/締め後の土量(L/C) 豪雪割増(バックホウ)：豪雪割増 工種条件と同じ	

タンパ締固め

施工内訳表

施工 第0 -0020号表

頁0-0067

1 m3 当り

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
タンパ(ランマ)賃料 質量60~80kg	1.17%	日		タンパ(ランマ)賃料		
特殊作業員	51.21%	人		特殊作業員		
普通作業員	45.95%	人		普通作業員		
ガソリン レギュラー スタンド	1.67%	L		ガソリン レギュラー スタンド		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						

機械構成比: 1.17%

労務構成比: 97.16%

材料構成比: 1.67%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

施工内訳表

ダンプトラック運転 (機 - 22)
オンロード・ディーゼル 4t積級

施工 第0 -0022号表

1 日 当り

名称・規格など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 4 t 積級	1.290	供用日			
運転手 (一般)	1.000	人			
軽油 小型ロ - リ - パトロール給油	32.000	L			
タイヤ損耗費 ダンプトラック 4 t 良好	1.290	供用日			
諸雑費	1	式			
*** 単位当り ***	1	日			
規格：オンロード・ディーゼル 4 t 積級 岩石割増：岩石割増なし 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ 一般運転手 (人 / 日) : 1 タイヤ損耗費 (供用日 / 日) : 1.29					タイヤ損耗費区分 (運搬路面状況) : 運搬路面状況 良好 供用日当運転時間 : 0 ダンプトラック (供用日 / 日) : 1.29 軽油 (L / 日) : 32

施工内訳表

たて込み簡易土留（建込工）

施工 第0 -0024号表

加-ラ型 山積0.28m3（平積0.2m3）

10 m 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
バックホウ運転（機-1） クローラ型・標準 山積0.28m3 排出ガス対策型2次基準	1.300	時間			施工 第0-0025号表
土木一般世話役	0.230	人			
特殊作業員	0.230	人			
普通作業員	0.470	人			
諸雑費	1	式			
*** 合計 ***	10	m			
*** 単位当り ***	1	m			
土の状態 [作業効率E] : 地山 バックホウ規格 : 加-ラ型 山積0.28m3（平積0.2m3） 豪雪割増 : 豪雪割増 工種条件と同じ				掘削深 (m) : 2.24 バックホウ機種 : 排出ガス対策型2次基準	

施工内訳表

頁0-0077

暗渠排水管
据付

施工 第0 -0030号表

1

m 当り

機械構成比： 0.00% 労務構成比： 16.42% 材料構成比： 83.58% 市場単価構成比： 0.00% 標準単価：

代表機材規格	構成比	単位	単価	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
普通作業員	11.53%	人		普通作業員		
土木一般世話役	4.89%	人		土木一般世話役		
暗渠排水管	83.58%	m		暗渠排水管 直管 ポリエチレン吸水管 300		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
作業区分：据付 呼び径：200～400mm				管種別：直管 費用の内訳：全ての費用		

施工内訳表

たて込み簡易土留（建込工）

施工 第0 -0031号表

加-ラ型 山積0.28m3（平積0.2m3）

10 m 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
バックホウ運転（機-1） クローラ型・標準 山積0.28m3 排出ガス対策型2次基準	1.300	時間			施工 第0-0025号表
土木一般世話役	0.230	人			
特殊作業員	0.230	人			
普通作業員	0.470	人			
諸雑費	1	式			
*** 合計 ***	10	m			
*** 単位当り ***	1	m			
土の状態 [作業効率E] : 地山 バックホウ規格 : 加-ラ型 山積0.28m3（平積0.2m3） 豪雪割増 : 豪雪割増 工種条件と同じ				掘削深 (m) : 2.14 バックホウ機種 : 排出ガス対策型2次基準	

施工内訳表

たて込み簡易土留（建込工）

施工 第0 -0035号表

加-ラ型 山積0.28m3（平積0.2m3）

10 m 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
バックホウ運転（機-1） クローラ型・標準 山積0.28m3 排出ガス対策型2次基準	1.500	時間			施工 第0-0025号表
土木一般世話役	0.270	人			
特殊作業員	0.270	人			
普通作業員	0.540	人			
諸雑費	1	式			
*** 合計 ***	10	m			
*** 単位当り ***	1	m			
土の状態 [作業効率E] : 地山 バックホウ規格 : 加-ラ型 山積0.28m3（平積0.2m3） 豪雪割増 : 豪雪割増 工種条件と同じ				掘削深 (m) : 2.75 バックホウ機種 : 排出ガス対策型2次基準	

施工内訳表

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	0.160	人			
特殊作業員	0.160	人			
普通作業員	0.320	人			
トラッククレーン [油圧伸縮ジブ型] 賃料 4.9 t 吊 (燃料油脂費含む)	0.160	日			
諸雑費	1	式			
*** 合計 ***	10	m			
*** 単位当り ***	1	m			
掘削深 (m) : 2.75					

施工内訳表

たて込み簡易土留（建込工）

施工 第0 -0038号表

加-ラ型 山積0.28m3（平積0.2m3）

10 m 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
バックホウ運転（機-1） クローラ型・標準 山積0.28m3 排出ガス対策型2次基準	1.300	時間			施工 第0-0025号表
土木一般世話役	0.230	人			
特殊作業員	0.230	人			
普通作業員	0.470	人			
諸雑費	1	式			
*** 合計 ***	10	m			
*** 単位当り ***	1	m			
土の状態 [作業効率E] : 地山 バックホウ規格 : 加-ラ型 山積0.28m3（平積0.2m3） 豪雪割増 : 豪雪割増 工種条件と同じ				掘削深 (m) : 2.05 バックホウ機種 : 排出ガス対策型2次基準	

施工内訳表

施工 第0 -0041号表

たて込み簡易土留（建込工）

加-ラ型 山積0.28m3（平積0.2m3）

10 m 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
バックホウ運転（機-1） クローラ型・標準 山積0.28m3 排出ガス対策型2次基準	1.100	時間			施工 第0-0025号表
土木一般世話役	0.200	人			
特殊作業員	0.200	人			
普通作業員	0.400	人			
諸雑費	1	式			
*** 合計 ***	10	m			
*** 単位当り ***	1	m			
土の状態 [作業効率E] : 地山 バックホウ規格 : 加-ラ型 山積0.28m3（平積0.2m3） 豪雪割増 : 豪雪割増 工種条件と同じ				掘削深 (m) : 1.61 バックホウ機種 : 排出ガス対策型2次基準	

施工内訳表

たて込み簡易土留（建込工）

施工 第0 -0045号表

加-ラ型 山積0.28m3（平積0.2m3）

10 m 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
バックホウ運転（機-1） クローラ型・標準 山積0.28m3 排出ガス対策型2次基準	1.100	時間			施工 第0-0025号表
土木一般世話役	0.200	人			
特殊作業員	0.200	人			
普通作業員	0.400	人			
諸雑費	1	式			
*** 合計 ***	10	m			
*** 単位当り ***	1	m			
土の状態 [作業効率E] : 地山 バックホウ規格 : 加-ラ型 山積0.28m3（平積0.2m3） 豪雪割増 : 豪雪割増 工種条件と同じ				掘削深 (m) : 1.65 バックホウ機種 : 排出ガス対策型2次基準	

施工内訳表

施工 第0 -0049号表

コンクリート 小型構造物

一般養生 小型車割増なし

夜間割増なし 豪雪割増 工種条件と同じ

人力打設

1

m3 当り

機械構成比: 0.00% 労務構成比: 41.15%

材料構成比: 58.85%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

代表機材規格	構成比	単位	単価	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
普通作業員	22.25%	人		普通作業員		
土木一般世話役	9.19%	人		土木一般世話役		
特殊作業員	7.69%	人		特殊作業員		
生コン 18 - 8 - 40 - BB (W/C = 60%以下)	58.85%	m3		生コンクリート 24 - 12 - 25 高炉 W/C 55%		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						

施工内訳表

頁0-0099

モルタル練

セメント(普通ポルトランド)バラ

機械構成比: 0.00%

労務構成比: 82.04%

材料構成比: 17.96%

市場単価構成比: 0.00%

施工 第0 -0051号表

1
標準単価:

m3 当り

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
普通作業員	54.42%	人		普通作業員		
土木一般世話役	27.46%	人		土木一般世話役		
セメント(普通ポルトランド) バラ	12.48%	t		セメント(高炉B) 25kg袋入		
コンクリート用骨材 砂 細目(洗い)	5.48%	m3		コンクリート用骨材 砂 細目(洗い)		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						

施工内訳表

施工 第0 -0061号表

推進工（ボーリング式一重ケーシング方式）
 打撃式掘削方式 径400mm

3 m 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	1.0	人			
特殊作業員	1.0	人			
普通作業員	1.0	人			
とび工	1.0	人			
溶接工	1.0	人			
トラック運転（機 - 18） クレーン装置付 4～4.5 t積 2.9 t吊	1.0	日			施工 第0-0062号表
機械損料	1.0	日			施工 第0-0063号表
機械・器具損料	1.0	日			施工 第0-0064号表
機械・器具損料	1.0	日			施工 第0-0065号表
発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 排ガス1次 100 / 125 kVA	1.0	日			
空気圧縮機 [可搬式・エンジン・スクリュ] 排ガス1次 5.0 m ³ / 分	1.0	日			
空気圧縮機 [可搬式・エンジン・スクリュ] 排ガス1次 10.5 ~ 11.0 m ³ / 分	1.0	日			

管内清掃工（ずり出し工）

施工内訳表

施工 第0 -0067号表

頁0-0117

1m3 ÷ 0.4^2 / 4 = 8.0m/m3

15 m 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	1.0	人			
特殊作業員	1.0	人			
普通作業員	2.0	人			
機械損料 HR-400型	1.0	日			刊行物単価
器具損料	1.0	日			施工 第0-0068号表
トラック運転（機 - 18） クレーン装置付 4 ~ 4.5 t積 2.9 t吊	1.0	日			施工 第0-0062号表
発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 排ガス1次 100 / 125 kVA	1.0	日			
軽油 小型ロ - リ - パトロール給油	88	L			
諸雑費(インオイル等)	3	%			労務費の3%
*** 合計 ***	15	m			
*** 単位当り ***	1	m			

塩ビ管挿入工
250mm

施工内訳表

施工 第0 -0069号表

頁0-0119

27 m 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
硬質塩化ビニール管・接着 受口 径250mm 厚7.8mm 長4.0m	7	本			
下水道用塩ビ管VU カラー - 本管用 250	13	個			
スパーサー ベアリングタイプ	14	個			調査単価
スパーサー加工費 推進管径400mm	14	箇所			施工 第0-0070号表
可とう継手 VU 250mm 推進用	1	個			調査単価
可とう継手 VU 250mm 推進用(既設人孔到達用)	1	個			調査単価
本管挿入工 250mm	27	m			施工 第0-0071号表
*** 合計 ***	27	m			
*** 単位当り ***	1	m			

施工内訳表

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	1.0	人			
特殊作業員	2.0	人			
普通作業員	2.0	人			
グラウトポンプ [二筒複動ピストン式] 吐出量 37 ~ 100 L / 分	1.0	日			
グラウトミキサ [立型 1槽式] 攪拌容量 200 L x 1槽	1.0	日			
発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 排ガス 1次 100 / 125 kVA	1.0	日			
水槽 (一般工事用) [鋼板製簡易水槽] 5 m3	1.0	供用日			
注入用耐圧ホース 25mm 12m/本	1.0	日			刊行物単価
注入材料 (中込材)	5.0	m3			施工 第0-0073号表
諸雑費 (エンジンオイル等)	2	%			労務費の2%
*** 合計 ***	5	m3			
*** 単位当り ***	1	m3			

施工内訳表

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
電力料金 使用料金 臨時 低圧電力	2.700	kWh			
溶接棒(4301) 径4	0.400	kg			
土木一般世話役	0.010	人			
溶接工	0.076	人			
普通作業員	0.021	人			
電気溶接機[交流アーク式] 手動・電撃防止器内蔵型 250A	0.076	日			
諸雑費	30.000	%			
*** 単位当り ***	1	m			
電力区分: 低圧 臨時			豪雪割増: 豪雪割増	工種条件と同じ	

施工内訳表

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	4.5	人			
特殊作業員	10.5	人			
設備機械工	3.5	人			
普通作業員	6.5	人			
溶接工	2.5	人			
電工	3.5	人			
とび工	3.5	人			
移動式クレーン作業料金 16t吊り	2.0	日			刊行物単価
トラック運転 (機 - 18) クレーン装置付 4 ~ 4.5 t積 2.9 t吊	2.5	日			施工 第0-0062号表
発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 排ガス1次 100 / 125 kVA	3.0	日			
軽油 小型ロ - リ - パトロール給油	264	L			
電気溶接機 [交流アーク式] 手動・電撃防止器内蔵型 300A	2.0	日			

施工内訳表

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	0.4	人			
溶接工	0.4	人			
特殊作業員	0.8	人			
普通作業員	0.8	人			
トラック運転 (機 - 18) クレーン装置付 4 ~ 4.5 t積 2.9 t吊	0.4	日			施工 第0-0062号表
発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 排ガス1次 100 / 125 kVA	0.4	日			
軽油 小型ロ - リ - パトロール給油	35.2	L			
電気溶接機 [交流アーク式] 手動・電撃防止器内蔵型 300A	0.4	日			
諸雑費(溶接棒、インゴット、雑鋼材等)	3	%			労務費の3%
*** 単位当り ***	1	箇所			

施工内訳表

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	0.8	人			
溶接工	1.6	人			
特殊作業員	0.8	人			
普通作業員	1.6	人			
トラック運転（機 - 18） クレーン装置付 4～4.5t積2.9t吊	0.8	日			施工 第0-0062号表
先導体組立整備費 345,000円×0.9×(180-27)/180	1	式			調査単価
諸雑費(酸素、アセレン)	2	%			労務費の2%
*** 単位当り ***	1	箇所			

施工内訳表

施工 第0 -0083号表

ライナ - プレ - ト掘削土留工
2000~3900mm(円形)

礫質土

1 m 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	0.610	人			
トンネル特殊工	1.830	人			
普通作業員	0.610	人			
バックホウ運転 (機 - 18) クローラ型・標準 山積0.45m ³ 排出ガス対策型1次基準	0.610	日			施工 第0-0084号表
トラック運転 (機 - 18) クレーン装置付 4~4.5t積2.9t吊	0.610	日			施工 第0-0085号表
諸雑費	1	式			
*** 単位当り ***	1	m			
土質区分：礫質土 掘削積込の機種：バックホウ 平積0.35m ³ 吊機械の機種：トラック(クレーン装置付)4t積 2.9t吊					径・短辺幅(mm)：2000~3900mm(円形) バックホウ機種：排出ガス対策型1次基準 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ

施工内訳表

ライナ - プレ - ト掘削土留工
2000~3900mm(円形)

礫質土

施工 第0 -0086号表

1 m 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	0.610	人			
トンネル特殊工	1.830	人			
普通作業員	0.610	人			
クラムシェル運転 (機 - 18) テレスコピック式 0.4m3	0.610	日			施工 第0-0087号表
トラック運転 (機 - 18) クレーン装置付 4~4.5t積2.9t吊	0.610	日			施工 第0-0085号表
諸雑費	1	式			
*** 単位当り ***	1	m			
土質区分：礫質土 掘削積込の機種：クラムシェル 平積0.4m3(深堀用) 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ					径・短辺幅(mm)：2000~3900mm(円形) 吊機械の機種：トラック(クレーン装置付)4t積2.9t吊

施工内訳表

施工 第0 -0089号表

コンクリート 無筋・鉄筋構造物

養生無し 小型車割増なし

夜間割増なし 豪雪割増 工種条件と同じ

バックホ(クレーン機能付)打設

1

m3 当り

機械構成比: 3.60% 労務構成比:

33.17%

材料構成比: 63.23%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

代表機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
バックホウ [クローラ型・クレーン付] 賃料 ~ 排ガス 2014 山積 0.8m3	3.40%	日		バックホウ [クローラ型・クレーン付] 賃料		
特殊作業員	10.34%	人		特殊作業員		
普通作業員	7.85%	人		普通作業員		
運転手 (特殊)	6.58%	人		運転手 (特殊)		
土木一般世話役	6.53%	人		土木一般世話役		
生コン 18 - 8 - 40 - BB (W / C = 60%以下)	61.44%	m3		生コンクリート 24 - 12 - 25 高炉 W / C 55%		

施工内訳表

施工 第0 -0089号表

コンクリート 無筋・鉄筋構造物

養生無し 小型車割増なし

夜間割増なし 豪雪割増 工種条件と同じ

バックホ(クレーン機能付)打設

1

m3 当り

機械構成比: 3.60% 労務構成比:

33.17% 材料構成比:

63.23% 市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
軽油 小型口 - リ - パトロール給油	1.69%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
構造物種別: 無筋・鉄筋構造物 養生工の種類: 養生無し コンクリート規格: 18-8-40(W/C=60%以下) 生コンクリート夜間割増: 夜間割増なし				打設工法: バックホ(クレーン機能付)打設 コンクリート種別: 高炉(BB) 生コンクリート小型車割増: 小型車割増なし 豪雪割増: 豪雪割増 工種条件と同じ		

施工内訳表

施工 第0 -0093号表

殻運搬

コンクリート(無筋)構造物とりこわし

機械積込 DID区間なし 10.9km以下

1

m3 当り

機械構成比: 40.77% 労務構成比:

44.82% 材料構成比: 14.41%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 10 t 積級	40.77%	供用日		ダンプトラック [オンロード・ディーゼル]		
運転手 (一般)	44.82%	人		運転手 (一般)		
軽油 小型口 - リ - パトロール給油	14.41%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
殻発生作業: コンクリート(無筋)構造物とりこわし DID区間の有無: DID区間なし 豪雪割増: 豪雪割増 工種条件と同じ				積込工法区分: 機械積込 運搬距離: 10.9km以下		

施工内訳表

ライナープレート取り除き工
1500~3000mm(円形)

ライナープレート廃棄

施工 第0-0094号表

1 m 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	0.290	人			
特殊作業員	0.290	人			
普通作業員	0.580	人			
トラック運転 (機-18) クレーン装置付 4~4.5t積2.9t吊	0.290	日			施工 第0-0085号表
諸雑費	1	式			
1m当り		m			
*** 単位当り ***	1	m			
径・短辺幅(mm): 1500~3000(円形) 豪雪割増: 豪雪割増 工種条件と同じ					ライナープレート区分: ライナープレート廃棄

施工内訳表

二重管ストレーナ工法
2セット 土被り長1.2m

1本当り注入量982L

2500 側壁部

施工 第0-0096号表

1 本 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	0.145	人			
特殊作業員	0.436	人			
普通作業員	0.290	人			
注入材	982.000	L			
ボーリングマシン [油圧式] 5.5kW級	0.290	日			
薬液注入施工機器 [薬液注入ポンプ] 5~20L/分×2(9.8MPa)	0.290	日			
削孔消耗材料費 レキ質土	4.000	m			施工 第0-0097号表
注入消耗材料費	0.982	kL			施工 第0-0098号表
諸雑費	22.000	%			
*** 単位当り ***	1	本			
セット数：2セット 砂質土の削孔長 L02(m)：0 土被り長 L2(m)：1.2				レキ質土の削孔長 L01(m)：4 粘性土の削孔長 L03(m)：0 1本当り注入量 Qs(L)：982	
水ガラス積算流量計の有無：水ガラス積算流量計なし 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ				特許料金：特許料金計上なし 注入材料単価(円/L)：	

施工内訳表

二重管ストレーナ工法
2セット 土被り長1m

1本当り注入量933L

1500 側壁部

施工 第0 -0099号表

1 本 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	0.137	人			
特殊作業員	0.412	人			
普通作業員	0.275	人			
注入材	933.000	L			
ボーリングマシン [油圧式] 5 . 5 kW級	0.275	日			
薬液注入施工機器 [薬液注入ポンプ] 5 ~ 2 0 L / 分 × 2 (9 . 8 MP a)	0.275	日			
削孔消耗材料費 レキ質土	3.700	m			施工 第0-0097号表
注入消耗材料費	0.933	k L			施工 第0-0098号表
諸雑費	22.000	%			
*** 単位当り ***	1	本			
セット数：2セット 砂質土の削孔長 L 0 2 (m) : 0 土被り長 L 2 (m) : 1				レキ質土の削孔長 L 0 1 (m) : 3.7 粘性土の削孔長 L 0 3 (m) : 0 1本当り注入量 Qs (L) : 933	
水ガラス積算流量計の有無：水ガラス積算流量計なし 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ				特許料金：特許料金計上なし 注入材料単価 (円 / L) :	

施工内訳表

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	2	人			
特殊作業員	2.6	人			
普通作業員	3.7	人			
トラック運転（機 - 1） クレーン装置付 4～4.5 t積 2.9 t吊	14.5	時間			施工 第0-0101号表
トラック [普通型] 4～4.5 t積	2	日			
諸雑費	1	式			
小計					
トラック損料（注入時）	4.86	日			施工 第0-0102号表
*** 単位当り ***	1	現場			

施工内訳表

掘削
土砂

施工 第0 -0103号表

1 m3 当り

現場制約あり

機械構成比： 0.00% 労務構成比： 100.00% 材料構成比： 0.00% 市場単価構成比： 0.00% 標準単価：

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
普通作業員	100.00%	人		普通作業員		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
土質：土砂 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ				施工方法：現場制約あり		

施工内訳表

機械投入埋戻工 BH山積0.28m3 (平積0.2)
砂

施工 第0 -0104号表

100 m3 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	2.500	人			
普通作業員	3.800	人			
埋戻土	126.000	m3			
バックホウ運転 (機 - 1) クローラ型・標準 山積0.28m3 排出ガス対策型2次基準	7.600	時間			施工 第0-0017号表
タンバ締固め	100.000	m3			施工 第0-0020号表
諸雑費	1	式			
*** 合計 ***	100	m3			
*** 単位当り ***	1	m3			
バックホウ規格：バックホウ投入 山積0.28m3 (平積0.2m3) 土質区分：砂 バックホウ機種：排出ガス対策型2次基準				埋戻土単価 (円/m3) : 土量の変化率：ほぐした土量 / 締固め後の土量 (L / C) 豪雪割増 (バックホウ)：豪雪割増 工種条件と同じ	

施工内訳表

頁0-0157

舗装版切断
アスファルト舗装版
機械構成比： 15.05%

労務構成比： 58.43%

15cm以下

材料構成比： 26.52%

市場単価構成比： 0.00%

施工 第0 -0105号表

1
標準単価：

m 当り

代表機材規格	構成比	単位	単価	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
コンクリートカッタ [バキューム式・湿式] 超低騒音 切削深20cm級 B径56cm	10.24%	供用日		コンクリートカッタ [バキューム式・湿式] 超低騒音		
特殊作業員	19.96%	人		特殊作業員		
土木一般世話役	10.88%	人		土木一般世話役		
普通作業員	8.92%	人		普通作業員		
ブレード (コンクリートカッタ) 径18インチ (45cm)	22.39%	枚		ブレード (コンクリートカッタ) 径18インチ (45cm)		
ガソリン レギュラー スタンド	2.81%	L		ガソリン レギュラー スタンド		

施工内訳表

舗装版切断
アスファルト舗装版

施工 第0 -0105号表

15cm以下

1

m 当り

機械構成比： 15.05% 労務構成比： 58.43%

材料構成比： 26.52%

市場単価構成比： 0.00%

標準単価：

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
舗装版種別：アスファルト舗装版 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ				アスファルト舗装版厚：15cm以下		

施工内訳表

施工 第0 -0106号表

舗装版破碎
アスファルト舗装版
機械構成比： 12.85%

労務構成比： 81.24%

障害等なし

材料構成比： 5.91%

市場単価構成比： 0.00%

標準単価： 1

m 2 当り

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
バックホウ [クローラ・後方超小旋回] 賃料 ～超低・～排ガス3次 山積0.45m ³	12.85%	日		バックホウ [クローラ・後方超小旋回] 賃料		
土木一般世話役	29.54%	人		土木一般世話役		
運転手 (特殊)	27.52%	人		運転手 (特殊)		
普通作業員	24.18%	人		普通作業員		
軽油 小型口 - リ - パトロール給油	5.91%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		

施工内訳表

舗装版破碎
アスファルト舗装版

施工 第0 -0106号表

障害等なし

1

m2 当り

機械構成比： 12.85% 労務構成比：

81.24%

材料構成比： 5.91%

市場単価構成比： 0.00%

標準単価：

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
*** 単位当り ***						
舗装版種別：アスファルト舗装版 騒音振動対策：騒音振動対策不要 積込作業の有無：積込作業あり				障害等の有無：障害等なし 舗装版厚：15cm以下 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ		

施工内訳表

施工 第0 -0107号表

殻運搬

舗装版破碎 DID区間なし 11.5km以下

機械積込(騒音対策不要、舗装版厚15cm以下) 現場~共和リテック8.2km

1

m3 当り

機械構成比: 44.05% 労務構成比: 39.87%

材料構成比: 16.08% 市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 10 t 積級	44.05%	供用日		ダンプトラック [オンロード・ディーゼル]		
運転手 (一般)	39.87%	人		運転手 (一般)		
軽油 小型口 - リ - パトロール給油	16.08%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
殻発生作業: 舗装版破碎 DID区間の有無: DID区間なし 豪雪割増: 豪雪割増 工種条件と同じ				積込工法区分: 機械積込(騒音対策不要、舗装版厚15cm以下) 運搬距離: 11.5km以下		

施工内訳表

頁0-0162

表層（車道・路肩部）

1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mm以下)

平均仕上り厚30mm

施工 第0 -0108号表

1

m2 当り

機械構成比： 0.43% 労務構成比： 44.34%

材料構成比： 55.23%

市場単価構成比： 0.00%

標準単価：

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
振動ローラ（舗装用）[ハンドガイド式] 運転質量0.5～0.6t	0.24%	供用日		振動ローラ（舗装用）[ハンドガイド式]		
振動コンパクタ[前進型] 機械質量40～60kg	0.13%	供用日		振動コンパクタ[前進型]		
特殊作業員	19.57%	人		特殊作業員		
普通作業員	14.05%	人		普通作業員		
土木一般世話役	4.28%	人		土木一般世話役		
再生アスファルト混合物 密粒度(13F)[再生材混入率50%以下]	50.52%	t		アスファルト混合物 密粒度(20)		

施工内訳表

頁0-0163

表層（車道・路肩部）

1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mm以下)

平均仕上り厚 30 mm

施工 第0 -0108号表

1

m² 当り

機械構成比： 0.43%

労務構成比： 44.34%

材料構成比： 55.23%

市場単価構成比： 0.00%

標準単価：

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	4.48%	L		アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用		
ガソリン レギュラー スタンド	0.17%	L		ガソリン レギュラー スタンド		
軽油 小型口 - リ - パトロール給油	0.03%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
平均幅員：1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mm以下) 標準締固め後密度：2.35t/m ³ 材料：再生 密粒度(13F) アスファルト混合物小型車割増：小型車割増なし 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ				1層当り平均仕上り厚(mm)：30 瀝青材料種類：プライムコート 瀝青材料種類：プライムコート PK-3 アスファルト混合物夜間割増：夜間割増なし		

施工内訳表

頁0-0164

上層路盤（車道・路肩部）

粒度調整砕石

機械構成比： 11.57%

労務構成比： 37.08%

全仕上り厚 110 mm

材料構成比： 51.35%

市場単価構成比： 0.00%

施工 第0 -0109号表

標準単価： 1

m² 当り

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
モータグレーダ[土工用] 排ガス2014 ブレード幅3.1m	7.99%	供用日		モータグレーダ[土工用] 排ガス2014		
ロードローラ[マカダム]賃料 ~超低・~排ガス2次 質量10~12t	1.00%	日		ロードローラ[マカダム]賃料		
タイヤローラ賃料 質量13~14t	0.99%	日		タイヤローラ賃料		
運転手(特殊)	16.31%	人		運転手(特殊)		
普通作業員	5.97%	人		普通作業員		
特殊作業員	5.32%	人		特殊作業員		

施工内訳表

施工 第0 -0109号表

上層路盤(車道・路肩部)

粒度調整碎石

全仕上り厚 110 mm

1

m2 当り

機械構成比: 11.57%

労務構成比: 37.08%

材料構成比: 51.35%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

標準単価:

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
土木一般世話役	4.37%	人		土木一般世話役		
粒調碎石 25mm以下	47.84%	m ³		再生粒度調整碎石 RM-40		
軽油 小型口-リ- パトロール給油	3.03%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
材料: 粒度調整碎石 施工区分: 1層施工 豪雪割増: 豪雪割増 工種条件と同じ				全仕上り厚(mm): 110 材料(粒度調整碎石): 粒度調整碎石 M-25		

施工内訳表

施工 第0 -0110号表

下層路盤（車道・路肩部）

全仕上り厚200mm

1層施工

機械構成比： 5.72% 労務構成比： 18.33%

材料構成比： 75.95%

市場単価構成比： 0.00%

1 m2 当り 標準単価：

代表機材規格	構成比	単位	単価	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
モータグレーダ[土工用] 排ガス2014 ブレード幅3.1m	3.95%	供用日		モータグレーダ[土工用] 排ガス2014		
ロードローラ[マカダム]賃料 ~超低・~排ガス2次 質量10~12t	0.49%	日		ロードローラ[マカダム]賃料		
タイヤローラ賃料 質量13~14t	0.49%	日		タイヤローラ賃料		
運転手(特殊)	8.06%	人		運転手(特殊)		
普通作業員	2.95%	人		普通作業員		
特殊作業員	2.63%	人		特殊作業員		

施工内訳表

施工 第0 -0110号表

下層路盤（車道・路肩部）

全仕上り厚 200mm

1層施工

機械構成比： 5.72%

労務構成比：

18.33%

材料構成比： 75.95%

市場単価構成比： 0.00%

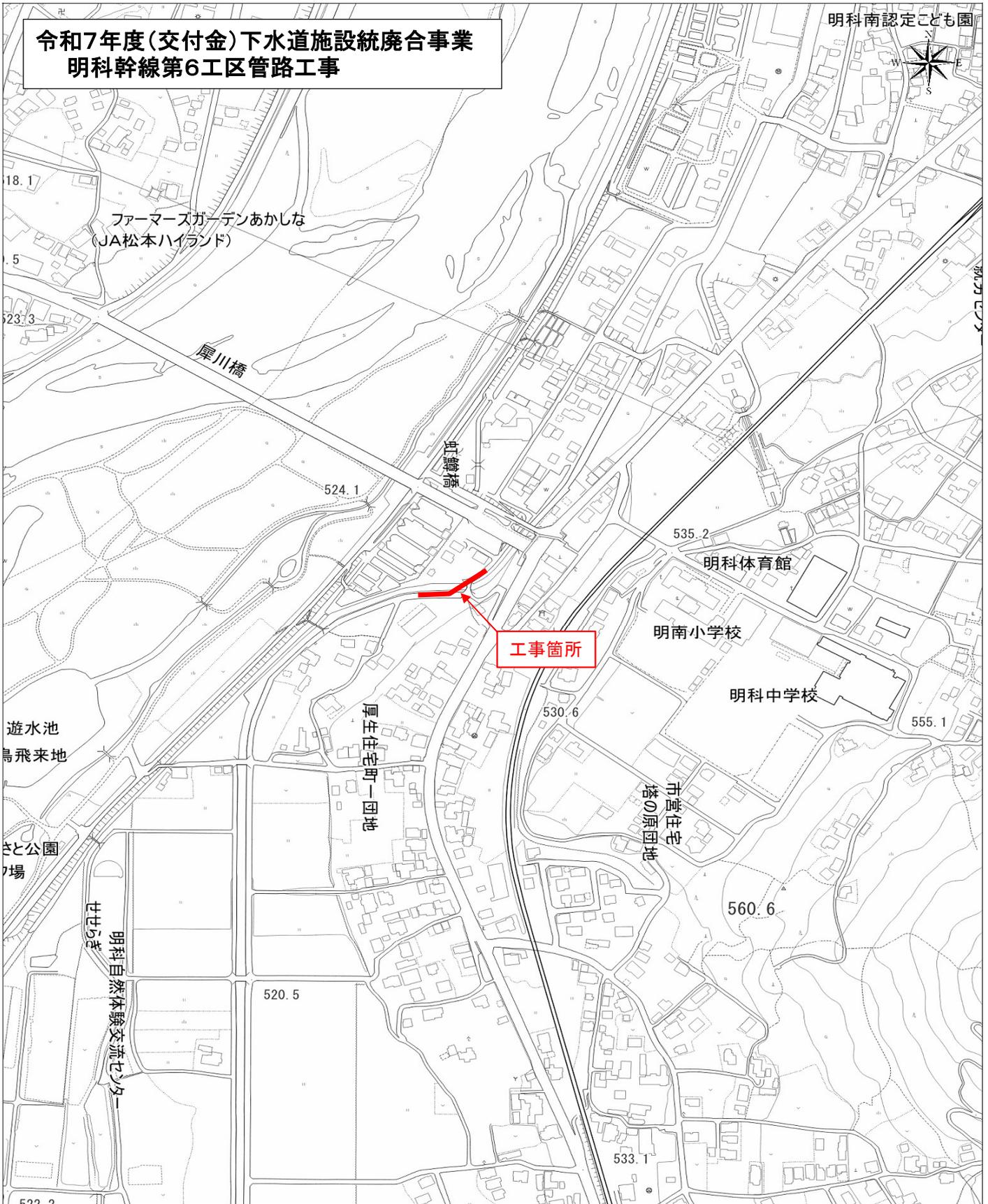
標準単価： 1

m² 当り

代表機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代表機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
土木一般世話役	2.16%	人		土木一般世話役		
再生クラッシャーラン 40mm以下	74.21%	m ³		クラッシャーラン C - 40		
軽油 小型口 - リ - パトロール給油	1.50%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
全仕上り厚(mm) : 200 材料 : 再生クラッシャーラン RC - 40				施工区分 : 1層施工 豪雪割増 : 豪雪割増 工種条件と同じ		

位置図

令和7年度(交付金)下水道施設統廃合事業
明科幹線第6工区管路工事



0 20 60m
1:5000

安曇野市下水道工事特記仕様書

施工条件明示

施工監理基準



令和7年11月

安曇野市上下水道部

目 次

安曇野市下水道工事特記仕様書	P. 3～16
施工条件明示	P. 17～19
別紙－1 排出ガス対策型建設機械の使用	P. 20～21
工事における提出書類一覧表	
開削工写真撮影一覧表	
出来形管理基準及び規格値（下水道）	

安曇野市下水道工事特記仕様書

第1章 総 則

(総 則)

- 1 安曇野市が発注する下水道工事の施工においては、下記に示す基準のほか、本特記仕様書によるものとする。
 - 「長野県土木工事共通仕様書」(長野県土木部)
 - 「長野県施工管理基準」(長野県土木部)
 - 「土木工事現場必携」(長野県土木部)
 - 「下水道工事施工の手引き(平成20年度版)」(長野県下水道公社)
 - 「下水道工事実施設計要領(1)一開削工編一」(長野県下水道公社)
 - 「道路土工 仮設構造物工指針」(社団法人日本道路協会)
 - 「たて込み簡易土留設計施工指針」(たて込み簡易土留協会)
 - 「安曇野市公共下水道工事施工基準」(安曇野市上下水道部下水道課)
 - 「水道事業実務必携」(全国簡易水道協議会) 令和5年改訂版
 - 「下水道用ダクタイトイル鉄管管路 設計と施工」(日本ダクタイトイル鉄管協会)
 - 「GX形ダクタイトイル鉄管 接合要領書」(日本ダクタイトイル鉄管協会)
 - 「安曇野市土木工事共通仕様書」(安曇野市都市建設部) 最新版
- 2 優先順位は、安曇野市下水道工事特記仕様書、長野県土木工事共通仕様書の順によるものとする。
- 3 該当しない工種については適用しないものとする。
- 4 個別の施工条件について、別紙のとおり定める。

(工程)

- 1 本工事は、余裕期間制度(フレックス方式)対象工事である。「安曇野市余裕期間制度試行実施要綱」に従い取り組むものとする。

本工事は、受注者の円滑な工事施行体制の確保を図るため、事前に建設資材、労働者確保等の準備を行うことができる余裕期間を設定した工事であり、発注者が示した工事の完成期限までの間で、受注者は工期の始期及び工期の終期を任意に設定できる。

なお、契約を締結するまでの間に、別に定める「工事開始日報告書」の様式により、工期の始期及び終期を報告すること。

工期の始期までの余裕期間内は、主任技術者又は監理技術者を設置することを要しない。

また、現場に納入しない資材等の準備を行うことができるが、資材の搬入、仮設物の設置、現場事務所の建設、測量等、工事の着手を行ってはならない。なお、余裕期間内に行う準備は受注者の責により行うものとする。

全体工期 契約締結の日から 318 日間

(余裕期間：契約締結の日から 60 日以内)

2 本工事は、週休2日工事の対象工事である。「安曇野市週休2日工事実施要領」に従い組むものとする。

また、工事契約後、週休2日対象期間において、受注者の責によらず現場作業を余儀なくされる期間が生じた場合は、受発注者間で協議して現場閉所による週休2日の対象外とする作業と期間を決定するものとする。

3 工期は雨天、休日等を見込んでいる。なお休日等には日曜日、祝日、夏季休暇、年末年始休暇のほか、作業期間内の全土曜日を含んでいる。

工期には、施工に必要な実日数（実働日数）以外に以下の事項を見込んでいる。

①準備期間 30日間 ②雨休率 0.77(実働工期日数に休日と悪天候により作業ができない日数を見込むための係数) 実働日数×係数 ③後片付け期間、その他の作業不能日に関しては見込んでいない。

4 受注者は、施工条件に示す関係機関と工事に対する協議等を行い、その結果を踏まえ工程計画を策定するものとする。

5 工事箇所又は工事箇所付近で別工事が施工されている場合、相互で工程調整を図り道路利用者の混乱を避けるよう努めるものとする。

(対外関係)

1 発注者は本工事着手後に沿線住民を対象とした下水道工事説明会を開催する。受注者は下水道工事説明会に出席し、発注者に提出する工程表とは別に住民向けの工程表を作成し、その内容を説明するものとする。

2 受注者は、通行制限を行うにあたり工事箇所沿線の宅地、事業所等の出入り及び車両の駐車場を確保しなければならない。また、沿線の宅地、事業所等に福祉車両、汲取車両、配達車両の出入りがある等特殊事情がある場合これに配慮しなければならない。

3 受注者は民地内での工事を行う場合、地権者の承諾を得て着手しなければならない。

4 受注者は、境界杭の保全には特に注意を払い、工事施工前に必ず境界杭の確認をするとともに必要に応じ控え杭、写真等に記録しなければならない。また工事の施工により境界杭を移動・破損または、亡失等させた場合は受注者の責において適切に復元しなければならない。

5 受注者は、民地内の土地、構造物、立木、施設に損傷を与えた場合は地権者及び管理者に直ちに報告するとともに協議の上復旧しなければならない。

6 受注者は、施行条件に示す関係機関との立会等の必要がある場合には、これにあたらなければならない。

7 関係機関、所有者、管理者並びにその他関係者との協議内容については、書面及び写真などで協議記録として残すこととする。なお、協議記録の書式については任意扱いとするが、協議事項、指示事項、対応事項及び必要事項については必ず明記し、監督員からの要請があった時は提出しなければならない。

(工事支障物件、占用物)

- 1 受注者は、工事施工箇所に占用物件が予想される場合には、工事の施工に先立って地下埋設物件等の調査を行わなければならない。
- 2 受注者は、工事の施工により道路附属物、河川管理施設、占用物件に損傷を与えた場合には、直ちに応急措置をとり監督員に報告するとともに、管理者及び占用者に連絡し復旧措置を講じなければならない。
- 3 受注者は、工事途中で管理者不明の占用物件を発見した場合には、監督員に報告し、その措置は予想される占用者の立会を得て管理者を明確にしたうえで処置しなければならない。

(環境対策)

- 1 排出ガス対策型建設機械の使用については別紙-1に示すとおりとする。
- 2 セメント及びセメント系固化材による地盤改良及び安定処理等の土砂とセメント及びセメント細化材の攪拌混合を行う土質を使用する場合は下記によるものとする。
 - (1) セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験実施要領(案)(平成13年4月23日国官技第18号)により六価クロム溶出試験を実施すること。
 - (2) 配合設計段階の試験結果が土壤環境基準(平成3年8月23日環境庁告示第46号)を超える場合は、基準内に納まるよう設計図書に関して監督員と協議するものとする。
- 3 受注者は工事の施工にあたり、掘削箇所の地下水を河川又は水路に放流する場合には、下記によるものとする。
 - (1) 流水断面及び下流域を調査し放流が可能な水量を放流するものとする。
 - (2) 放流に先立ち河川又は水路の管理者の承諾を得なければならない。
 - (3) 砂及び土砂を併せて放流してはならない。砂及び土砂を放流させた場合は河川又は水路管理者に報告するとともに、受注者の責によりこれを除去しなければならない。

(交通安全管理)

- 1 受注者は、工事の施工にあたり公衆の交通安全を確保しなければならない。
- 2 受注者は、安全管理については道路工事保安施設設置基準(平成18年4月1日国関整道管第65号)及び下記によるものとするが、工事現場の実状に応じた方法により交通管理を行わなければならない。
- 3 交通規制及び標識については、道路工事現場における標示施設等の設置基準(平成22年7月)に基づき適切に設置するものとする。ただし、これにより難しい場合は監督員と協議するものとする。
- 4 受注者は、夜間開放時には保安灯を設置するものとし、工事期間中は保安灯、バリケード、標識の保守点検を実施しなければならない。
- 5 受注者は、道路の交通規制を行う場合は、規制の計画を監督員に提出するとともに関係機関に所定の手続きをとらなければならない。

なお実施にあたっては、関係機関からの指示事項を順守しなければならない。

- 6 工事期間中に配置する交通誘導員は、施行条件に明示した配置人員とする。ただし道路管理者、交通管理者との協議条件などの社会的要件、現場精査に基づく配置人員の変更が必要になった場合は監督員と協議するものとする。
- 7 受注者は、通行規制に伴う迂回路を定めた場合、工事期間中は迂回路の保守、点検を行い公衆の安全な迂回を確保しなければならない。また、迂回路の損傷を発見した場合は直ちに監督員に報告しなければならない。
- 8 受注者は、道路に通勤車両及び建設資材を置いてはならない。
- 9 工事区間または、迂回路区間が小中学校の通学路に指定されている場合、契約締結後早急に学校教育課を通じて各小中学校と協議をしなければならない。通学路を変更する場合は、適切かつ安全な対策を講ずること。その他の福祉バス、巡回バス等の運行路線になっている時も同様に関係機関等と協議をすること。
- 10 工事区間内及び工事区間周辺に店舗がある場合は、店舗責任者及び管理者などと店舗への出入り口及び駐車場などについて事前協議すること。また、協議内容、対策等を現場着手前に監督員へ書面にて報告すること。

(その他)

- 1 契約額が 500 万円以上の工事については、工事实績情報サービス(CORINS)に基づき、受注時・変更時・完成時・訂正時(工期延長、現場代理人、主任技術者の変更)に工事实績情報として工事カルテを作成し、監督員の確認を受けた上で登録すること。また、登録完了書の写しを提出すること。各登録期限は、受注・変更時登録は契約後 10 日以内(土曜日、日曜日、祝日等を除く)、完成時登録はしゅん工後 10 日以内とする。ただし、変更時と完成時との間が 10 日間に満たない場合は、変更時登録を省略し、竣工時登録に併せ行うことが出来ることとする。
- 2 契約額が 800 万円以上の工事については、建設業者は、建退協制度の発注者用掛金収納書原本を発注者へ 1 ヶ月以内に提出すること。また、竣工書類の一部として収支表を提出すること。
- 3 建設業法第 26 条の規定により、受注者が工事現場ごとに設置しなければならない専任の主任技術者又は専任の監理技術者(以下、技術者と言う。)は、適切な資格、技術力を有する者(本工事現場に常駐し、専らその職務に従事する者で、受注者と直接的かつ恒常的な雇用関係にあるものに限る)を配置すること。(受注者と直接的かつ恒常的な雇用関係とは、本工事の入札執行日前に受注者と技術者との間に 3 ヶ月以上の雇用関係が必要である。)
- 4 本特記仕様書に疑義が生じた場合は、受注者と発注者が協議のうえ決定することとする。
- 5 本工事の現場技術業務を、公益財団法人長野県下水道公社に委託している。
現場技術員は工事請負者に対して適切な助言指導、施工監理を行い、設計の変更、現場の施工条件、施工方法等の変更が生じた時は、監督員と協議し工事請負者に通知する。
- 6 監督員、現場技術員は、別途指定し通知する。

第2章 施工

(起工測量)

- 1 本工事着手前に起工測量を実施し、成果を施工前に必ず提出すること。測量方法については水準測量などの適切な測量方法により行なうこと。測量を実施した際、規定値から外れているもの(スパン延長、マンホール設置地盤高、流出管底高など)があれば監督員と協議すること。また、施工後(マンホール鉄蓋設置後)上記内容を満たしていない場合は、鉄蓋の再設置(高さ修正)を依頼する場合があるので、事前調査を十分行なった上で施工すること。なお、図面に記載されているベンチマークの高さについても併せて確認作業を行ない監督員に報告すること。
- 2 起工測量結果に基づき、組立式マンホールの組合せ表を施工計画書又は施工協議書に添えて提出し、監督員の承認を得ること。なお、使用する組合せ部材に5cmの調整リングは使用しないこと。また、しゅん工時における組立式マンホールの組合せ表をしゅん工書類に添付すること。
- 3 現場施工については、『施工計画書・材料承認願い・起工測量結果・汚水柵調査表・下請負人通知書・その他必要書類など』の提出後とし、監督員の承認を得てから現場着手することとする。
- 4 水準測量において設置した仮ベンチマークは、施工途中で狂いが生じないように堅固に設けること。特に隣接工区工事が発注されている場合又は今後発注された場合には、隣接工区受注者とベンチマークの高さについて関連付けをすること。なお、本工事において設置した仮ベンチマーク(特に工事区間内周辺宅地、周辺水路脇など)は工事終了後遅滞なく撤去すること。

(自然流下管材料)

- 1 本管は、下水道用硬質塩化ビニル管(JSWAS. K-13)及び下水道用リブ付硬質塩化ビニル管(JSWAS. K-13)を使用する。
- 2 材料の運搬は丁寧に行い、材料の損傷を防ぐこと。現場において管を保管する際、曲がりや変形、リブの破損を防ぐため原則として屋内保管をすること。やむを得ず屋外保管をする時は、簡易屋根を設けるか不透明シートで管を覆い直射日光を避け、熱気がこもらないよう風通しの良い方向へ受口又は差口を向けること。また、接着剤などは冷暗所において保管すること。
- 3 取付管は、下水道用硬質塩化ビニル管(JSWAS. K-1 SRB)を使用すること。また、(社)日本下水道協会において認定している下水道用リサイクル三層硬質塩化ビニル管(認定資材類別『Ⅱ類』、認定資器材名『リサイクル硬質塩化ビニル管』、RS-SRB等)を使用する時は監督員と協議すること。
- 4 プラスチック製小型マンホールは、下水道用硬質塩化ビニル製小型マンホール(JSWAS. K-9)を使用すると共に、鉄蓋については下水道用铸铁防護蓋(JSWAS. G-3)を使用する。なお、内蓋については取手が上についたものを使用すること。なお、(社)日本下水道協会において認定している下水道用リサイクル三層硬質塩化ビニル製ます(認定資材類別『Ⅱ類』、認定資器材名『リサイクル硬質塩化ビニル製ます・継手』)を使用する時は監督員と協議すること。
- 5 使用する全ての材料について使用承認を得ること。ただし、(社)日本下水道協会の認定工場制度による工場製品の場合は、検査証明書(自主検査結果及び検査証明書並びに検査成績書)の

提出により立会い検査に代えることが出来る。この場合、事前に監督員の承認を得るとともに搬入された認定標章および製造年月日の確認をすること。

- 6 試掘により管基礎材として使用できる路盤材の有無を確認し、同時に土質試験資料の採取を行うこと。また、使用できる路盤材が確認されたときは、監督員と協議し可能な限り管基礎材として再利用できるように発生土と分けて保管すること。

(圧送管材料)

- 1 本管(圧送管)は、下水道用ダクタイル鋳鉄管(JSWAS. G-1)を使用する。
- 2 管、弁類を取り扱う場合は、その接合部及び塗装部分などに損傷を与えてはならない。
- 3 管、弁類の積みおろしをする場合は、台棒等を利用し、巻きおろすか又はクレーン等で2点吊りにより、管を損傷させないよう十分な注意をしなければならない。
- 4 管、弁類を運搬又は移動する場合は、クッション材を用いて行い、損傷、内面塗装を痛めないよう十分な注意をしなければならない。
- 5 管、弁類を保管又は一時仮置きする場合は、台棒、角材、板材等を敷いて、直接地面に接しないようにし、転がり止めを確実に行わなければならない。
- 6 材料の運搬は丁寧に行い、材料の損傷を防ぐこと。現場において管を保管する際、曲がりや変形を防ぐため原則として屋内保管をすること。やむを得ず屋外保管をする時は、簡易屋根を設けるか不透明シートで管を覆い直射日光を避け、熱気がこもらないよう風通しの良い方向へ受口又は差口を向けること。また、接着剤などは冷暗所において保管すること。
- 7 組立式マンホールと本管との接続は、設計書に記載の可とう継手を設計図にしたがって設置すること。
- 8 使用する全ての材料について使用承認を得ること。ただし、(社)日本下水道協会の認定工場制度による工場製品の場合は、検査証明書(自主検査結果及び検査証明書並びに検査成績書)の提出により立会い検査に代えることが出来る。この場合、事前に監督員の承認を得るとともに搬入された認定標章および製造年月日の確認をすること。
- 9 管渠の基礎に使用する材料は、埋戻し用砂を使用するものとする。
- 10 試掘により管基礎材として使用できる路盤材の有無を確認し、同時に土質試験資料の採取を行うこと。また、使用できる路盤材が確認されたときは、監督員と協議し可能な限り管基礎材として再利用できるように発生土と分けて保管すること。

(土工)

- 1 掘削にあたっては、設計幅以上とならないよう施工すること。なお、土質による設計変更は基本的に行わないものとする。建物、その他構造物等に接近した場合には、完全な防護を施した上で施工すること。
- 2 本工事により発生する残土は原則として指定処分とする。なお、残土処分量が確認できる資料をしゅん工書類に添付して報告すること。

施工計画書には現場から仮置場までの搬出経路、搬出距離及び運搬時間を明記し、仮置場から最終処分場までの搬出経路、搬出距離及び運搬時間も明記すること。なお、仮置場(現場発生

土、アスファルト殻など)の安全対策を講じたものを施工計画書に明記すること。

- 3 管上 10cm から 30cm までの良質土埋戻しは、レキ径 20 mm を超えない土砂とする。下水道実施設計要領(1)一開削工編一及び日本下水道協会(G-1)規格を確認し埋戻し材を決めること。埋戻し材を変更する場合には、変更理由、使用材料、施工方法などを監督員と協議すること
- 4 埋戻し材の土の含水比、締固め試験、修正 CBR 試験を報告すること。なお、品質基準値は、締固め度(90%以上)・修正 CBR(20%以上)とする。
- 5 埋戻し材は発生土の良質なものとし、埋戻しに適した含水比で埋戻すこと。軟弱土質等埋戻し材として不適当と判断された時は砂等で置き換えて施工すること。
- 6 埋戻しの施工にあたり、管渠その他の構造物の下部に空隙が生じないようにすること。また偏圧が作用しないよう左右均等に十分な締固めること。
- 7 埋戻し作業にあたり、管渠に影響を与えないよう土砂を投入し、一層の厚さが 30cm を超えない範囲で一層毎に不陸のないよう敷均し人力により十分締め固めること。路体の締固め密度は最大乾燥密度の 85%以上・路床は 90%以上を確保し、密度試験は 500 m³に 1 回の割合で行うこと。
- 8 受注者は施工後の路面の不等沈下や宅地の地盤沈下等が生じない様、入念に埋戻しを行うものとする。
- 9 掘削溝内に埋設物がある時は、埋設物管理者との協議に基づく防護を施し、埋設物付近が将来沈下しないようにすること。
- 10 路体部、路床部の密度試験実施箇所については、発注用の平面図へ試験実施箇所が分かるよう記載し監督員へ報告すること。
- 11 農地を残土置場又は資材置場などに使用する際は、契約締結後早急に農業委員会事務局<三郷総合支所内>と協議し、「農地の一時利用転用願」を提出すること。

(本管布設)

- 1 管の布設にあたっては「安曇野市公共下水道工事施工基準」によるものとする。
- 2 埋設物等があり設計書どおり施工できない場合は協議すること。(上水道管やその他構造物などとの離隔は交差時、並列時共 30cm を原則とする。)
- 3 ゴム輪接合において、ゴム輪が正確に溝にはまっているか確認すること。ゴム輪のねじれ・はみ出しがある場合は再装着すること。また、ゴム輪接合部に付着している泥土、水分、油分等は乾いた布などで清掃すること。
- 4 接着剤塗布後は、素早く差口を受口に挿入し所定の位置まで差し込みそのまましばらく保持すること。なお、呼び径 200 mm 以上は原則として挿入機を使用し、かけや等による叩き込みはしないこと。また、接着直後は接合部に無理な外力が加わらないように注意すること。
- 5 管の基礎については設計厚以上を確保すること。また、良質土埋戻しを管基礎の材料と同様のものに変更した場合も設計厚以上を確保すること。その際の写真撮影、出来形管理等は管基礎と同様の管理を行なうこと。
- 6 管の据付けに先立ち、十分管体検査を行い、亀裂、塗装のはがれ、その他の欠陥がないことを確認しなければならない。

- 7 管の吊り下ろしにあたって、土留用切梁を一時取り外す必要がある場合は、必ず適切な補強を施し、安全を確認の上作業しなければならない。
- 8 管の据付けにあたっては、管内部を十分清掃し、水平器、型板、水糸等を使用し、中心線及び高低を確定して移動しないように固定する。このとき、管体の表示記号を上に向けて据付けなければならない。
- 9 直管を使用して曲げ配管を行わなければならない場合は、監督員の承諾を得てから継手の持つ許容曲げ角度以内で行わなければならない。
- 10 一日の布設作業完了後は、管内に土砂、汚水等が流入しないような措置を行うとともに、管内には綿布及び工具類等を置き忘れないよう注意しなければならない。
- 11 さや管内へ管を布設する場合は、さや管と布設管が接触して塗装面が損傷しないように、押し込みには適切な器具等を取り付けなければならない。
- 12 配管作業に従事する技能者は、豊富な経験と知識を有する熟練した者でなければならない。

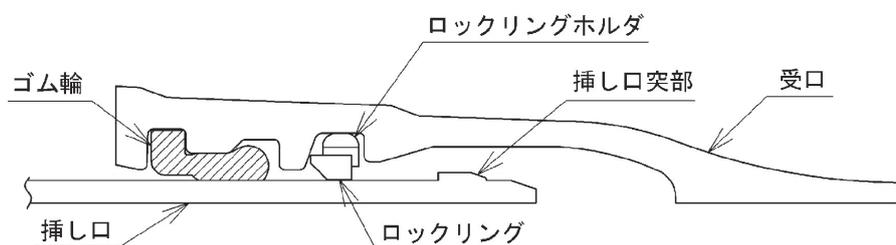
(管の切断)

- 1 管の切断にあたっては、所用の切り管長及び切断箇所を正確に定め、切断線の標線を管の全周にわたって入れる。
- 2 管の切断は、管軸に対して直角に入れること。
- 3 切り管が必要な場合には残管を照合調査し、極力残管を使用すること。
- 4 鋳鉄管の切断は切断機で行うことを標準とし、異形管を切断してはならない。
- 5 鋳鉄管の切断面は、ダクタイル切管鉄部用塗料で塗装し防食しなければならない。
- 6 鋼管は切断完了後、新管の開先形状に準じて丁寧に開先仕上げを行う。また、切断部分の塗装は、原則として新管と同様に仕上げること。

(管の接合)

G X形ダクタイル鋳鉄管の接合

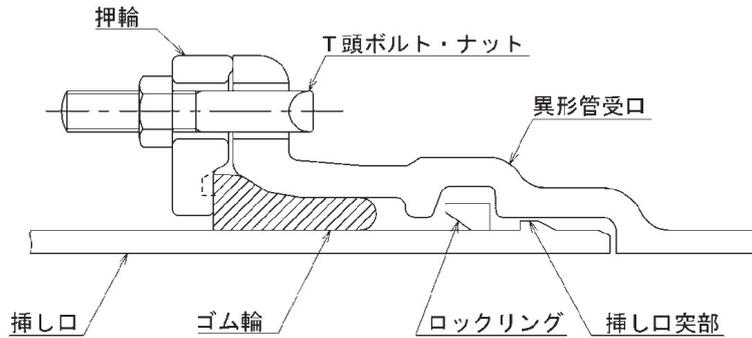
a. 直管の接合 : $\phi 75 \sim \phi 400$



- 1 管のメーカーマークを上にして、所定に位置に静かに吊りおろす。
- 2 管の受口溝とゴム輪の当たる面及び挿し口外面の異物除去と清掃を行う。
- 3 ロックリングとロックリングホルダの確認を行う。
- 4 ゴム輪を確認後清掃し、受口内面の所定の位置に装着する。
- 5 ゴム輪の内面と挿し口外面のテーパ部から所定の位置まで滑剤を塗布する。

- 6 管をクレーンなどで吊った状態にして、挿し口を受口に預ける。この時 2 本の管が一直線又は 2° 以内になるようにする。
- 7 レバーブロックを操作して挿し口を受口に挿入し、所定の位置まで受口端面にくるように合わせる。このとき、曲げ挿入は行わないこと。

b. 異形管の接合 : $\phi 75 \sim \phi 400$



- 1 挿し口外面と受口内面の清掃を行う。
- 2 接合部品(押輪及びゴム輪)を挿し口へ預け入れる。
- 3 受口内面、挿し口外面、ゴム輪外面に滑剤を塗布する。
- 4 挿し口を受口に挿入する。
- 5 ストッパーを取り外す。
- 6 挿し口突部がロックリングを通過しているか確認する。
- 7 ゴム輪、押輪をT頭ボルト・ナットで締め付ける。
- 8 押輪の施工管理用突部と受口端面がメタルタッチになっていることを確認する。

(管路山留め)

- 1 開削工事の土留工は、土工標準図に記載の土留め材で施工することを標準とし、これにより難しい場合は監督員と協議すること。
- 2 土留と地山に間隙が生じた場合は、砂詰め等を行い周辺地盤に影響が出ないように施工すること。
- 3 施工計画書に土留工の構造計算書を添付すること。その際、構造計算書には作成者の押印をすること。また、構造計算書の作成にあたり次の内容を守ること。土留め設置高及び掘削幅毎に計算書を作成し、土の単位体積重量は 20.0 (kN/m³)、載荷重 10.0 (kN/m²)、内部摩擦角を算出する際の N 値は 6 とする。なお、本条件と違う土質条件の場合には、参考資料、土質状況写真及びその他関係資料を添えて監督員と協議し、監督員の承認後構造計算書を作成すること。
- 4 建て込み簡易土留めの施工に当たっては、土留材の設置部を先掘りしながら所定の深さに設置しなければならない。先掘りは背面土砂が崩壊しない深さとし、30cm 以下で施工しなければならない。なお、全ての箇所において土留材は掘削底面と同じか又は深く設置しなければならない。
- 5 土留めを建て込む際に使用するバックホウは、クレーン仕様を原則とする。なお、クレーン

仕様が分かる写真を撮影し、しゅん工書類に添付すること。

- 6 バックホウによる吊り込み作業には、専用装置以外の装置を使用しないこと。また、バックホウでの打撃による建込は行わないこと。
- 7 機材の引き抜きは、トラッククレーン等により施工すること。
- 8 機材は締固め厚さ毎に引き抜き、パネル部分の埋戻しと締固めを十分行い、写真確認が後日できるように管理すること。
- 9 土留めパネル裏側に空隙が生じた場合、アスファルト舗装などを撤去し裏込め材を投入すること。また、土留めパネル引き抜き後は開削部分だけでなく空隙が生じた箇所も十分転圧すること。なお、転圧が不十分な場合には、道路面における地盤沈下があるので細心の注意を払って施工すること。

(立坑土留め)

- 1 立坑(マンホールポンプ設置部)に使用する土留めはライナープレートを標準とする。
- 2 使用するライナープレートは、地質条件及び掘削方式を検討の上、十分に安全なものを選定し、施工計画書に明記し監督員に提出しなければならない。
- 3 ライナープレート式土留工の施工は、周囲の状況を考慮し、掘削深さ、土質、地下水位、作用する土圧及び載荷重を十分検討し施工しなければならない。
- 4 ライナープレート式土留工の土留掘削に先立ち、溝掘り及び探針を行い、埋設物の有無を確認しなければならない。
- 5 ライナープレート土留掘削は、先行掘削になるため、地盤が自立していることを確認し順次掘下げていくこと。また、ライナープレートと地山との空隙を少なくするよう掘削しなければならない。
- 6 掘削は1リングごとに行い、地山の崩壊を防止するために速やかにライナープレートを設置しなければならない。
- 7 1リング組立て完了後、形状、寸法、水平度及び鉛直度等を確認し、ライナープレートを固定するため、頂部をコンクリート及びH鋼等で組んだ井桁による方法で堅固に固定し、移動や変形を防止しなければならない。
- 8 ライナープレートの組立てにおいて、継目が縦方向に通らないよう千鳥状に設置しなければならない。また、土留背面と掘削壁との間にエアーモルタル等で間隙が生じないようにグラウト注入し、固定しなければならない。
- 9 補強リングを用いる場合には、補強リングをライナープレートに仮止めしながら継手版を用いて環状に組立て、その後、下段のライナープレートを組立てるときに、円周方向のボルトで固定しなければならない。
- 10 ライナープレート埋戻しにおいて、ライナープレート存置は設計図書による。ただし、立坑上部については取りはずすこととし、その処置及び方法について監督員と協議しなければならない。
- 11 立坑内での作業員の昇降設備や立坑内への資機材の吊下しについては、安全を十分に確保したうえで作業を行わなければならない。

(マンホール設置工)

- 1 調整モルタルの打設は舗装復旧前を原則とする。
- 2 インバート形状は流入管底と流出管底を直線で結んだものとする。ただし、落差の大きい箇所副管を使用しない場合、または直角に曲がるインバートの場合は監督員と協議すること。
- 3 工区最下流並びに最上流マンホールのインバートは、設計書の数量計算書に基づくものとする。上流より流入計画のあるマンホール(平面図において確認すること。)については、原則としてインバートの施工はしないこと。ただし、副管の場合はこの限りではないので監督員と協議すること。
- 4 起点マンホールのインバートは流出管幅でマンホール内径全ての長さを円形に仕上げること。ただし、取付管流入がある場合は2の記載による。
- 5 1号マンホールのステップは原則として流出側に設置する。
- 6 マンホール鉄蓋の向きは、デザインの上部が流出管方向を向くよう設置すること。ただし、親子蓋の場合は、上記5と関連付けをすること。
- 7 マンホール深さが2mを超える時は、転落防止梯子付の鉄蓋を設置すること。
- 8 既設マンホールへ接続する際は、管の端面を内壁に一致させること。なお、供用開始後のマンホールへ接続する際には、酸素欠乏空気の危険性、有毒ガス発生の可能性等の有無について事前に調査すること。また、作業にあたっては関係法令等を遵守し作業の安全性を確保すること。
- 9 副管の本管への接続は本管勾配に対して直角に設置する。また管端が突出しないように鉛直に行うこと。
- 10 マンホール部材の吊り込みは、上下同時作業にならないように施工すること。また、マンホール周辺の埋戻しは、極力部材1個毎に行ない偏土圧による傾斜を防止するため、360度均一に行うこと。ただし、組立て完成写真を撮影するため施工方法、写真撮影時期について監督員と協議すること。
- 11 マンホール設置地盤高については特に留意し、周辺地盤高、道路勾配(縦断勾配、横断勾配)、周辺構造物などとの整合を図ること。

(補助地盤改良工(薬液注入))

- 1 薬液注入工事の着手前に下記について監督員の確認を得なければならない。
 - (1) 工法関係 ① 注入圧 管路編 2-11 ② 注入速度 ③ 注入順序 ④ ステップ長
 - (2) 材料関係 ① 材料(購入・流通経路等を含む) ② ゲルタイム ③ 配合
- 2 薬液注入工事は、「薬液注入工法による建設工事の施工に関する暫定指針(建設省通達)」の規定によること。
- 3 薬液注入工事の施工管理等は、「薬液注入工事に係る施工管理等について(建設省通達)」の規定によること。
- 4 注入工事の施工にあたっては、昭和52年4月21日付け建設省官技発第157号「薬液注入工法の管理について」に定められた技術者を注入責任技術者として届け出るとともに、注入作業中は常駐させるものとする。

- 5 注入工事に使用する薬液は、水ガラス系の薬液（主剤が珪酸ナトリウムである薬液をいう。）で、劇物またはフッ素化合物を含まないものに限る。ただし、工事施工中緊急事態が発生し、第二次災害を防ぐための応急措置として薬液注入工事を施工する場合は、監督員の承諾を得て現場の状況に応じて、劇物の少ない薬液を使用することができる。この場合においてもアクリルアミドは使用しないこと。
- 6 薬液注入工事を施工するにあたっては、注入箇所及びその周辺地域の地下水、公共用 水域、土質、地下埋設物、井戸、植物並びに農作物等について、あらかじめ調査をしなければならない。

（さや管推進工）

1 一般事項

- （1）推進工事施工に際しては、十分な知識と経験を有する技術指導員を現場に随時派遣し、作業者を指導しなければならない。
- （2）当該工事箇所の構造物等の管理者がいる場合は工事着手前に工程、施工方法等の打ち合わせをし、事故防止、工事進捗等に支障のないようにしなければならない。
- （3）地下埋設物等の支障物件については事前に調査を行い、関係者と調整、打ち合わせを行い、必要な措置を講じなければならない。

2 さや管

~~さや管は原則として、日本下水道協会規格 JSWAS-A2（下水道推進工法用鉄筋コンクリート）の標準管とする。ただし、その他の管を使用する場合は、あらかじめ監督員の承認を受けなければならない。~~

3 さや管推進工

- ① 工事に先立ち、土質調査資料等を十分検討し、推進方法及び補助工法等を選定する。
- ② 管の押込みにあたっては、設計図書に基づいて中心線及び高低を確認し、施工しなければならない。
- ③ 掘削の結果、管の押込みに対しての後方（地山）支持力が不十分な時は監督員と協議のうえ、必要に応じて適切な補強をしなければならない。
- ④ 管の押込みにあたっては、管先端部周囲の土砂の崩落を防ぐ工法で行い、管内に入った土砂だけを掘出し、先掘り等の周囲の土砂をゆるめることのないように施工しなければならない。
- ⑤ 管の接合は、地下水、細砂等が流入しないようにシーリング材充填等を行わなければならない。又押込み口には出水時の排水のための、水替え設備を準備しなければならない。
- ⑥ 監督員が指示した場合は、地質の変化があるごとに資料を採集し、地層の状態について地層図を作成し、監督員に提出しなければならない。
- ⑦ 押込み中に、障害物、湧水、土砂崩れ等が生じたときは、直ちに臨機の処置をとるとともに、監督員に報告しなければならない。

- ⑧ 管の周囲に空隙を生じた場合は、直ちにセメントグラウト等で裏込め充填しなければならない。
- ⑨ グラウトは管内面から行い、配合、注入圧力は監督員と協議し、承諾を得なければならない。又、施工については監督員の立会を原則とする。
- ⑩ 地盤改良を行う場合は監督員と協議し、承認を得なければならない。

4 押込み完了後の処置

- ① 地山補強等は配管工事に支障ないように、速やかに取り壊さなければならない。
- ② さや管の継手部は再確認し、必要あれば再度シーリング等の充填を行うこと。
- ③ 必要に応じて、管の周囲にセメントグラウトを行うが、工事箇所周囲の状況には十分注意し、井戸水等への影響がないようにしなければならない。

(仮設工)

- 1 本工事の仮設工は施工条件明示による。
- 2 受注者は、安曇野市景観条例(平成24年3月26日条例第10号)第12条3の規定に基づき、屋外における土石、廃棄物、再生資源その他物件の堆積が以下の値を超える場合は、安曇野市長に景観計画区域内における行為の届出を行為の30日前までに行うこと。
※面積100㎡又は堆積の高さが3m (届出先：都市建設部 建築住宅課 建築景観係)

(用地関係)

- 1 工事に伴い、現場事務所、材料置場、土砂置場等に要する敷地が必要な場合、敷地の借り受けその他必要な手続きは受注者の責任において行うものとする。
- 2 前項により用地処理したときは、その土地使用により生じた苦情、紛争等は受注者が責任を持って解決しなければならない。
- 3 工事に伴い、工事箇所に隣接する土地の境界杭や構造物が支障となる場合は、直ちに監督員と協議し、物件所有者と調整を図ること。

(付帯工)

- 1 本工事におけるアスファルト舗装復旧は仮復旧を原則とし、1路線毎随時復旧する。なお、設計幅以上の復旧は監督員の指示があるとき以外は原則として設計変更の対象としない。ただし、既設舗装の損傷及びその他地下埋設物の復旧跡などがある場合は事前に監督員に報告すること。また、アスファルト舗装を復旧する際には監督員の現地立会いを受けたあとに行なうこと。
- 2 下層路盤及び上層路盤の出来形管理は、設計掘削幅に対し管理すること。
- 3 路盤工の1層当たりの最大仕上げ厚は、上層路盤は15cm、下層路盤は20cmまでとする。
- 4 舗装復旧する際に使用した舗装止め型枠等は、舗装復旧終了後速やかに撤去及び片付けをすること。また、撤去した合材が農地や宅地に飛散した場合も同様に撤去及び片付けをすること。
- 5 舗装復旧(本復旧、仮復旧とも)をする場合には、建設機械などで道路上にある構造物(下水道

用マンホール鉄蓋、上水道用仕切弁、横断水路など)に影響を与えないようにすること。また、各構造物の高さ調整が必要となる場合には、協議書に図面及び現況写真等を添えて監督員と協議すること。なお、路肩にある構造物等も同様に整合を図ること。

- 6 舗装復旧は周辺の構造物及び路面と整合を図りながら平坦性を保ち施工する。
- 7 舗装施工中は温度管理に注意し、常に平坦性を考慮しながら仕上げを行なうこと。また、開放時の温度や外気温等にも注意し施工を行ない、温度管理同様写真管理を行なうこと。
- 8 舗装終了後は、マンホール鉄蓋に付着したアスファルト合材を除去すること。
- 9 本工事において消失した路面表示は、施工前の状態に復旧するものとする。この場合設計の掘削幅のみ設計計上のみ変更対象影響とする。ただし、既存道路の路面状態が悪い場合や消失しかけた場合などの理由はこの限りではないので、現場作業着手前に監督員と現地立会いを実施し、工事後の路面状況により（本復旧又は仮復旧）路面表示等の各復旧方法についての対応を監督員と協議すること。
- 10 工事箇所周辺に水路等がある場合には、現地作業終了後水路清掃を行うこと。また、本工事において支障を与えた農地等の土手崩落及び舗装道路、砂利道の路肩崩落、迂回路の路面復旧等も現地作業終了後復旧すること。
- 11 宅地への出入り、農地等への出入りは土地所有者及び耕作者等と協議して施工すること。また、施工に際しては『施工前よりも施工後の出入り条件が悪くなった』などの苦情がないようにすること。ただし、土地所有者及び耕作者等と協議を進めていく中で、過剰なまでの要求があった場合には監督員と協議すること。
- 12 舗装コア採取箇所は監督員の指示により行い、舗装厚の確認を求めること。また、100%出来形図へ採取箇所を記載ししゅん工図書とともに提出すること。

（書類・検査）

- 1 本工における着手時、施工途中時、完成時の提出書類は「安曇野市公共下水道工事施工基準」に準じて作成すること。
 - 2 配管中は継手ごとに別途添付するチェックシートを用いて管理すること。
 - 3 配管中または配管後の検査として、継手接合時の作業検査、管路水圧試験が行われている。水圧の代わりに空気圧で試験を行うと、管が吹き飛ばされる恐れがあるため決して行ってはならない。
以下より管路水圧試験について示す。
- ① 管路の充水は、原則として管路の低い方から、管内空気の排出状況を確認しながら、ゆっくりと行うことが望ましい。
 - ② 管路の水圧試験は、管内の残留空気を少なくするために、充水後少なくとも一昼夜程度経過してから行うものとする。また、充水中は管路の異常の有無を点検して事故の防止に努める。
 - ③ 試験は、試験水圧まで加圧した後、一定時間保持し、その間の管路の異常の有無および圧力の変化を調べる。なお、試験水圧、保持時間および許容圧力低下量については使用水圧、管路延長、管種、付帯設備および施工条件などを考慮して適切な数値を設定する。
 - 4 出来形が80%に達したときは速やかに80%予想出来形展開図を提出すること。

- 5 マニフェストの写し(コピー)は、A表、B2表、D表、E表を搬出初日及び搬出最終日を添付し提出すること。なお、搬出量が大量にある場合(50t以上)は、搬出中間日も添付すること。その他の日は搬出初日から最終日まで分かるよう総括表を添付すること。
- 6 再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書については、用紙を各1枚ずつ添付し、入力した媒体(FD又はCD)も提出すること。
- 7 資機材料の納入伝票は、受注者において品目毎に取りまとめ管理すること。また、抜き取った舗装コアについても同様に管理ししゅん工検査時に持参すること。なお、しゅん工検査後は受注者において保管すること。この場合の保管年数は、工事完了年度より5年間とする。
- 8 デジタルカメラを使用する場合、有効画素数は200万画素以上とし、工事写真の大きさはサーベイス版サイズと同等とする。また、使用する用紙は白色度85%以上とし書面にて監督員へ報告すること。
- 9 写真撮影箇所、撮影時期などは設計図書のとおり行なうこと。また、品質管理や出来形管理も同様に行なうこと。

(後片付け)

- 1 工事を終了したときは、残材、廃材等を撤去し工事現場の後片付け及び清掃等を工期期限内に完了しなければならない。
- 2 工事中影響を与えた構造物、土地等は管理者の承諾のもと、受注者の責任により復旧すること。

第3章 安全対策、交通管理

(安全対策・交通管理)

- 1 受注者は労働災害及び公衆災害の防止に努めなければならない。
- 2 本工事区間内に農地(水田・畑等)がある場合には、土地所有者及び耕作者と協議し、耕作(田植え、稲刈り及び収穫など)等の作業の支障にならないようにすることとする。
- 3 工事中、関係者(住民、通行者等)が詳細な工事工程、交通規制方法(迂回路等)を理解出来るよう前もって連絡や表示を行うこととする。全面通行止めの場合は遅くとも10日前、片側交互通行の場合は7日前には設置することとする。
- 4 本工事において仮駐車場が必要となった場合は、受注者において確保、手配すること。また、仮駐車場として借用した土地については原形復旧し、土地所有者の確認を受けて返すこと。
- 5 現場管理費には、工事期間中、月一回半日以上の安全教育・研修訓練等の費用が含まれているので必ず実施しなければならない。また、実施計画を施工計画書に記載し、実施状況がわかる資料をしゅん工時に提出しなければならない。
- 6 受注者は、苦情等があった場合、丁重に対応し、直ちに工事監督員に報告しなければならない。

(施工条件明示)

注) 明示事項がない場合は、「無し」と記入する

工 事 件 名	令和7年度(交付金)下水道施設統廃合事業 明科幹線第6工区管路工事				
1. 工 程 関 係	<ul style="list-style-type: none"> 工期は、(令和一年一月一日)とする。258日間(標準工期) 上記期間には、休日数、作業不能日数、各種届出等期間、社会的制約条件等、作業編成、手直し期間等を含む。 本工事は下記の関係機関、地域住民と協議を要する。 				
	関係機関名	届出・協議事項	時期		
	道路管理者(市・維持管理課) 道路管理者(県安曇野建設事務所)	道路通行制限願ひ	着手前		
	安曇野警察署	道路使用許可	着手前		
	市学校教育課、小中学校、認定こども園、明科高校	小中学校通学路、バス運行、通園路、生徒の通学、各種行事調整	着手前		
	地元区・沿線住民・店舗、事業所	工事説明・交通規制等	着手前		
	水路管理者(土地改良・水利組合)	水止め・水替の放流	着手前		
	工事支障物件の管理者	占用物付近の施工について	着手前		
	安曇野市 環境課	ゴミステーションの移動・収集運搬業者の通行	着手前		
	公共交通機関(あづみん)	通行制限について	着手前		
	NTT、中部電力、あづみ野テレビ	電柱、架空線、地下埋設物等	着手前		
	その他	必要に応じて	適時適切に対応		
2. 用 地 関 係	無し				
3. 公 害 対 策 関 係	・指定工種において排出ガス対策型建設機械を使用すること。(別紙-1参照)				
4. 安 全 対 策 関 係	<ul style="list-style-type: none"> 本工事における交通整理員は、下記のとおり配置を計上している。 人工数は任意扱いの参考値であるため、入札にあたり留意すること。なお、近接工事などで交通量が著しく増減した場合や、道路管理者等からの要請により現場条件に著しい変更が生じた場合を除き原則として設計変更の対象としない。 				
	工種	配置場所	配置員数	実日数	備考
	管路工	起終点部	2名	昼	

5. 仮設備関係	任意仮設 (1)土留工 <ul style="list-style-type: none"> ・スライドレール式建て込み簡易土留工を想定している。また、土留材は、1セット30mを現場搬入とし、100%の設置としている。 ・小口止め及び土留の調整箇所は、軽量鋼矢板等を使用すること。 ・横断構造物等は、一時撤去・原形復旧とする。なお、事前協議を実施すると共に詳細図及び数量等の資料を提出すること。 				
6.建設副産物関係	本工事の施工において生じる特定建設資材の処分については、下記の処分を想定して、処分費、運搬費を計上している。(受注者の都合による処分先の変更は原則として設計変更しない。) ○建設発生土				
	搬出先の名称	処分費	運搬距離	処理施設の所在地	
	明科建材(株)	1,900 円/	1.3km	安曇野市明科 中川手 2058	
	○特定建設資材 (建設リサイクル法)				
	種 別	処分条件	処分先	数量	運搬距離
	アスファルト (掘削廃材)	再利用	共和リテック(株)	6.0 t	8.2km
	コンクリート (掘削廃材)	再利用	共和リテック(株)	4.0 t	8.2km
7. 工事支障物件等	・無し				
8. 排水工 (濁水処理含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・本工事により発生する排水は直接放流せず沈殿 (沈砂) 処理等を行い、各法令を守り自然環境等、悪影響を及ぼすことのないよう処理すること。 ・指示のある場合を除き、付近の公共用水域、排水用水路等に排水すること。 ・沈殿槽 (沈砂) は、定期的に清掃し放流先水路等への土砂堆積防止を図り、工事完了後は放流水路の清掃 (土砂上げ) を実施すること。 ・排水路下流に、ます池やわさび田があるので現地を十分確認し、管理者と協議、及び承諾を得ること。 				
9. 薬液注入関係	<ul style="list-style-type: none"> ・地下水の影響を受けるため、渇水期 (1月から3月) の施工ができるよう作業工程の調整を行うこと。 				

10. 占用条件関係	<ul style="list-style-type: none"> ・本工事は、<input checked="" type="checkbox"/> 車両通行止め を想定している。 ・長野県道路占用基準及び安曇野市掘削条件による。 ・掘削許可及び道路通行制限等の申請書の内容について、監督員による確認後、関係機関に提出すること。 ・掘削区間は出来るだけ短くし、事故防止等の対策を講じること。 ・舗装切断幅は、残舗装への影響が懸念されることから設計値とすること。なお、工事施工に伴う残舗装の破損は、受注者の責任において復旧すること。運搬経路も同様。 ・未舗装道路の路面復旧は設計書のとおりとする。
11. 環境保全	<ul style="list-style-type: none"> ・掘削工事は、周辺構造物や地表への影響が出ないように、適切に管理を行い、沈下や陥没等が生じた場合は公衆災害防止措置を直ちに講じるとともに、速やかに監督員に報告すること。また、その指示に従い対応に当たること。
12. その他	<ul style="list-style-type: none"> ・工事説明会 <input type="checkbox"/> 済 ・ <input type="checkbox"/> 有 (未定) ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 = 戸別説明 規制の伴う掘削開始は、施工計画書の決裁及び説明会終了後7日経過後とする。 ・現場を熟知した上、当該現場に合致した施工計画書の作成に心掛け提出すること。なお、規制の伴う現場掘削工事等は各種提出書類を監督員が受諾した後とする。

上記定めがない事項については、国土交通省「下水道土木工事共通仕様書（案）」、長野県土木部監修「土木工事共通仕様書」「現場管理の手引き」「現場管理における実務要覧」「下水道工事の手引き」「安曇野市下水道工事特記仕様書」によるものとする。

排出ガス対策型建設機械の使用

- 1 本工事において、下記 7 に示す建設機械を使用する場合は、「排出ガス対策型建設機械指定要領（平成 3 年 10 月 8 日付建設省経機発第 249 号）」に基づき指定された排出ガス対策型建設機械を使用するものとする。
- 2 排出ガス対策型建設機械を使用できない場合は、平成 7 年度建設技術評価制度公募課題「建設機械の排出ガス浄化装置の開発」、またはこれと同等の開発目標で実施された民間開発建設技術の技術審査・証明事業、あるいはこれと同等の開発目標で実施された建設技術審査証明事業により評価された排出ガス浄化装置を装着することで、排出ガス対策型建設機械と同等とみなす。
- 3 施工計画書に、排出ガス対策型建設機械あるいは排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用することを明記すること。ただし、これらを使用することができない場合は、下記 4 のとおり監督員と協議するものとする。
- 4 排出ガス対策型建設機械あるいは排出ガス浄化装置を装着した建設機械を調達できない場合とは、次を示す。
 - (1) 工事地域周辺の市町村にあるリース業者に、排出ガス対策型建設機械あるいは排出ガス浄化装置を装着した建設機械の在庫がない。
 - (2) 工事地域周辺のメーカーの販売店から排出ガス対策型建設機械あるいは排出ガス浄化装置を装着した建設機械を調達するのに大幅な時間がかかる。この場合は受注者が、上記 (1) (2) について、リース業者名又は販売店名を記入した上で、施工協議書を監督員へ提出すること。
- 5 排出ガス対策型建設機械あるいは排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用する場合、現場代理人は施工現場において、使用する建設機械の写真撮影を行い、監督員に提出するものとする。この写真は、機械の形式または指定ラベルあるいは認定ラベルが明瞭に写っているものであること。
- 6 下記 7 に示す機種について、上記 4 による施工協議で排出ガス未対策型建設機械（従来型）の使用が認められ場合、および上記 5 によって排出ガス対策型建設機械の使用が確認できない場合は、従来型へ設計変更する。

7 排出ガス対策型建設機械を原則使用とする機種

機 種	備 考
<p>一般工事中建設機械</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ バックホウ ・ トラクタショベル ・ ブルドーザ ・ 発動発電機（可搬式） ・ 空気圧縮機（可搬式） ・ 油圧ユニット <p>（以下に示す基礎工事中機械のうち、ベースマシンとは別に、独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載しているもの；</p> <p style="padding-left: 2em;">油圧ハンマ、バイブロハンマ、油圧式鋼管圧入・引抜機、油圧式杭圧入引抜機、アースオーガ、オールケーシング掘削機、リバースサーキュレーションドリル、アースドリル、地下連続壁施工機、前回転型オールケーシング掘削機）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ロードローラ、タイヤローラ、振動ローラ ・ ホイールクレーン 	<p>ディーゼルエンジン（エンジン出力7.5kW以上260kW以下）を搭載した建設機械に限る。</p>

資材単価等について

令和7年度（交付金）下水道施設統廃合事業 明科幹線第6工区管路工事に係る工事費の積算にあたっては、長野県建設部の「令和7年度実施設計単価表」や積算資料（財団法人経済調査会）及び建設物価（財団法人建設物価調査会）に設定されている単価により予定価格を算出しています。

また、見積もり等による単価は下記のとおりです。

なお、使用した単価は予定価格算出のものであり、特定の製品や民間取引を指定したものではありません。

見積等により決定している設計単価

(円)

製品名	規格	採用単価	単位	備考
下水道用グライコ製鋳鉄管 GX形短管1号	短管1号 φ200×7.5K	51,500	個	
仕切弁筐	φ75～φ200 DP=2.00m以下用	155,000	基	
伸縮可とう管	GX形 沈下量100mm φ200 U×S	1,250,000	個	
管明示テープ	W30	108	m	
接続バンド	レジン-VU φ250	105,000	個	
塩ビ管 45° 曲管 ゴム輪タイプ	φ250 45SR 250	65,000	個	
削孔（1号レジン用）	削孔径206mm～252mm	8,000	箇所	
削孔（1号レジン用）	削孔径252mm～304mm	9,060	箇所	
削孔（3号レジン用）	削孔径252mm～304mm	14,400	箇所	
内副管用マンホール継手 リップ付き塩ビ管用	φ250-200 MRL-UC-PPP	109,000	個	
可とう継手	VU φ250 推進用(既設人孔到達用)	67,000	個	
可とう継手	VU φ250 推進用	48,900	個	
レジンマンホール 調整リング	RM60(K)-50	17,400	個	
レジンマンホール 調整リング	RM60(K)-100	28,900	個	
レジンマンホール 調整リング	RM90(K)-100	45,100	個	
レジンマンホール円形90(1号) 頂版	RMH90(A)-120(60)	102,000	個	
レジンマンホール円形90(1号) 直壁(く体)	RMH90(B,C)-1200	226,000	個	
レジンマンホール円形90(1号) 直壁(く体)	RMH90(B,C)-1500	276,000	個	
レジンマンホール円形90(1号) 底版	RMH90(P)-90	92,900	個	
レジンマンホール円形150(3号) 頂版	RMH150(A)-160(90)	340,000	個	
レジンマンホール円形150(3号) 直壁(く体)	RMH150(B,C)-900	340,000	個	
レジンマンホール円形150(3号) 直壁(く体)塗装費	RMH150(B,C)-900	17,000	個	
レジンマンホール円形150(3号) 直壁(く体)	RMH150(B,C)-1800	595,000	個	
レジンマンホール円形150(3号) 直壁(く体)塗装費	RMH150(B,C)-1800	30,000	個	
レジンマンホール円形150(3号) 直壁(く体)	RMH150(B,C)-2400	776,000	個	
レジンマンホール円形150(3号) 直壁(く体)塗装費	RMH150(B,C)-2400	39,000	個	
レジンマンホール円形150(3号) 中間スラブ	RMH150(M)-160(90)	350,000	個	
レジンマンホール円形150(3号) 底版	RMH150(P)-160	389,000	個	

推進用鋼管	φ400mm(STK-400) t=9.5mm	23,100	m		
鋼管加工費	φ400mm L=1.0m	7,300	本		
スペーサー	ベアリングタイプ	5,310	個		
止水器	φ400mm	111,000	個		
推進機本体	油圧ユニット・油圧ホース含む	16,000	時間		
送風機	0.8kw	140	日		
動力噴霧器	8~16L/min	1,480	日		
動力噴霧器	19~42L/min	2,270	日		
ラインオイラー	エアーハンマー2台分	334	台		
先導体損料	400mm 推進管用	16,000	m		
特殊エアーホース	38mm 6m/本	263	m		
特殊エアーホース	25mm 12m/本	111	m		
特殊送水ホース	25mm 12m/本	111	m		
滑剤注入プラント		13,100	日		
注入用耐圧ホース	38mm 6m/本	263	m		
マッドオイル	推進工法用 潤滑剤	16	L		
ハイゲル (アロン)	推進工事用増粘剤	2,500	kg		
機械損料	HR-400型	37,500	日		
スクレーパー	φ400mm用	4,570	日		
バケット	0.1m3	258	日		
注入用耐圧ホース	25mm 12m/本	1,340	日		
移動式クレーン作業料金	16t吊り	60,500	日		
先導体組立整備費		263,000	式		

明科地域下水道施設統廃合事業
接続管路実施設計業務委託

数量計算書
(明科6工区)

令和6年3月

安曇野市下水道課

1. 材料・労務（圧送管）

2. 土工事（压送管）

圧送管土工集計表

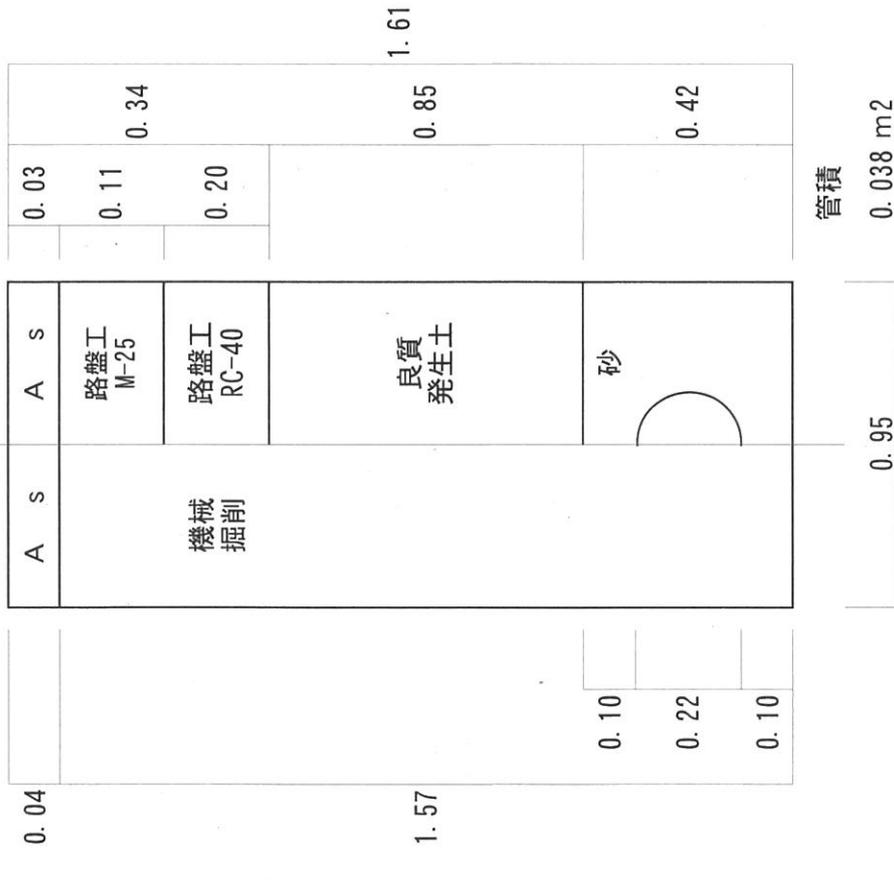
工 種		圧送管						合計
		1 土エタイプ① 市道車道As DIP-GXφ200 DP=1.29	2 土エタイプ② 市道車道As DIP-GXφ200 DP=1.73	3 土エタイプ③ 市道車道As DIP-GXφ200 DP=2.43				
舗装切断工 (As)	t ≤ 15cm	5.98	46.54	13.10				66 m
舗装版破砕工 (As)	t ≤ 10cm	2.84	22.11	8.52				33 m ²
掘削工	機械力 BH 0.2	4.46	44.43					49 m ³
掘削工	人力 (機械力)			22.70				23 m ³
埋戻工	発生土 BH0.2 (機械力)	2.41	28.52	16.57				48 m ³
埋戻工	埋戻し用砂 BH0.2 (機械力)	1.08	8.40	3.33				13 m ³
下層路盤工	RC-40 t=20cm	2.84	22.11	8.52				33 m ²
上層路盤工	M-25 t=11cm	2.84	22.11	8.52				33 m ²
舗装工	密粒度(表層) As t=3cm 人力	2.84	22.11	8.52				33 m ²
残土処理工	(土砂) BH 0.2 4t車 L=5.0km	2.05	15.91	6.13				24 m ³
残土処分費	土砂	2.05	15.91	6.13				24 m ³
残土処理工	As塊 BH 0.2 4t車 L=5.0km	0.11	0.88	0.34				1 m ³
建設廃材処分費	As塊	0.11	0.88	0.34				1 m ³
土留工	H=3.0m			6.55				7 m
土留工	H=2.5m		23.27					23 m
土留工	H=2.0m	2.99						3 m
土留工施工期間	H=3.0m							19 日
土留工施工期間	H=2.5m							11 日
土留工施工期間	H=2.0m							2 日

1. 圧送管DIP-GXφ200 市道車道As DP=1.29m

φ = 200 延長 L = 2.99 m
 土被り H = 1.29 m

BH0. 2

掘削 埋戻



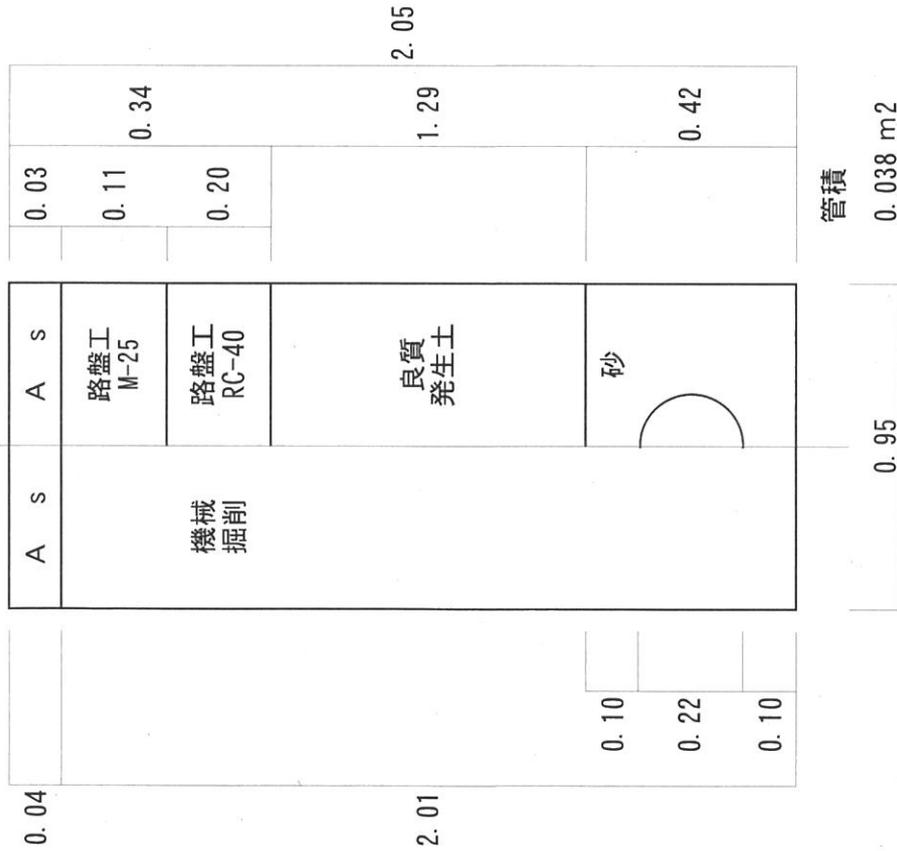
舗装切断工 (As) (t=15cm以下)	2.99 × 2	5.98 m
舗装版破碎工 (As) (t=10cm以下)	0.95 × 2.99	2.84 m ²
掘削工 (機械)	0.95 × 1.57 × 2.99	4.46 m ³
発生土埋戻し工	0.95 × 0.85 × 2.99	2.41 m ³
砂埋戻工	(0.95 × 0.42 - 0.038) × 2.99	1.08 m ³
下層路盤工 (RC-40 t=20cm)	0.95 × 2.99	2.84 m ²
上層路盤工 (M-25 t=11cm)	0.95 × 2.99	2.84 m ²
舗装工 (再生密粒度As t=3cm)	0.95 × 2.99	2.84 m ²
残土処理工 (土砂)	4.46 - 2.41	2.05 m ³
残土処分費 (土砂)		2.05 m ³
残土処理工 (As塊)	0.95 × 0.04 × 2.99	0.11 m ³
建設廃材処分費 (As塊)		0.11 m ³
土留工	H=2.0m	2.99 m

2. 圧送管DIP-GXφ200 市道車道As DP=1.73m

BH0.2

φ = 200 延長 L = 23.27 m
 土被り H = 1.73 m

掘削 埋戻

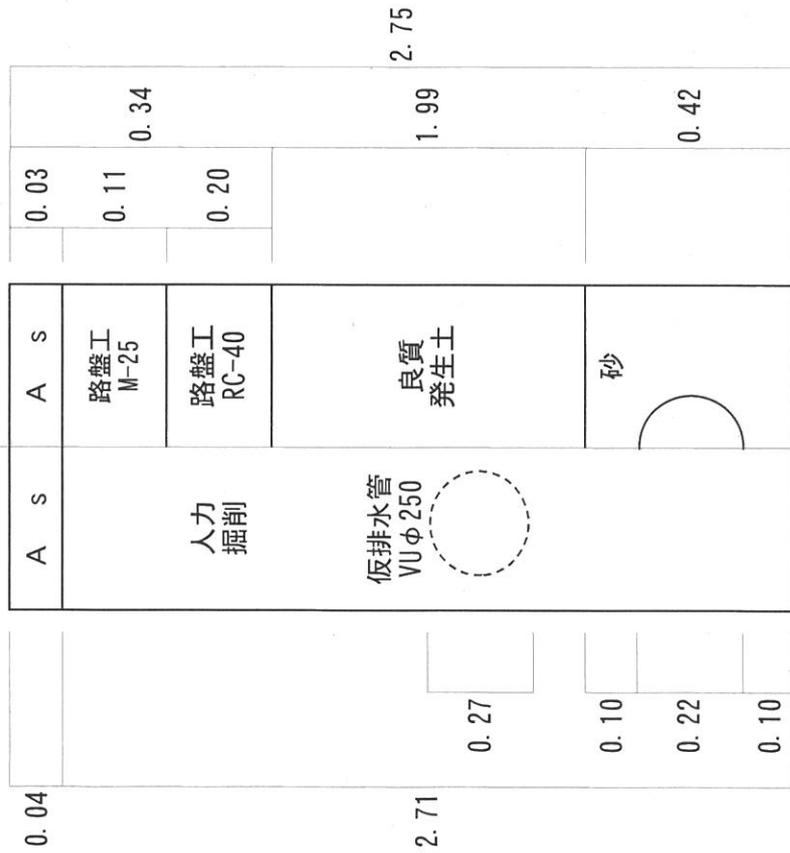


舗装切断工 (As) (t=15cm以下)	23.27 × 2	46.54 m
舗装版破碎工 (As) (t=10cm以下)	0.95 × 23.27	22.11 m ²
掘削工 (機械)	0.95 × 2.01 × 23.27	44.43 m ³
発生土埋戻し工	0.95 × 1.29 × 23.27	28.52 m ³
砂埋戻工	(0.95 × 0.42 - 0.038) × 23.27	8.40 m ³
下層路盤工 (RC-40 t=20cm)	0.95 × 23.27	22.11 m ²
上層路盤工 (M-25 t=11cm)	0.95 × 23.27	22.11 m ²
舗装工 (再生密粒度As t=3cm)	0.95 × 23.27	22.11 m ²
残土処理工 (土砂)	44.43 - 28.52	15.91 m ³
残土処分費 (土砂)		15.91 m ³
残土処理工 (As塊)	0.95 × 0.04 × 23.27	0.88 m ³
建設廃材処分費 (As塊)		0.88 m ³
土留工	H=2.5m	23.27 m

3. 圧送管 (仮排水管並走) DIP-GXφ200 市道車道As DP=2.43m BH0.2

φ = 200 延長 L = 6.55 m
 土被り H = 2.43 m

掘削埋戻



舗装切断工 (As) (t=15cm以下)	6.55 × 2	13.10 m
舗装版破砕工 (As) (t=10cm以下)	1.30 × 6.55	8.52 m ²
掘削工 (人力)	(1.30 × 2.71 - 0.057) × 6.55	22.70 m ³
発生土埋戻し工	(1.30 × 1.99 - 0.057) × 6.55	16.57 m ³
砂埋戻工	(1.30 × 0.42 - 0.038) × 6.55	3.33 m ³
下層路盤工 (RC-40 t=20cm)	1.30 × 6.55	8.52 m ²
上層路盤工 (M-25 t=11cm)	1.30 × 6.55	8.52 m ²
舗装工 (再生密粒度As t=3cm)	1.30 × 6.55	8.52 m ²
残土処理工 (土砂)	22.70 - 16.57	6.13 m ³
残土処分費 (土砂)		6.13 m ³
残土処理工 (As塊)	1.30 × 0.04 × 6.55	0.34 m ³
建設廃材処分費 (As塊)		0.34 m ³
土留工	H=3.0m	6.55 m

3. 自然流下管管布設

数量集計表(自然流下管路布設)

工種	種別	規格・形状	計算	数量		
	路線延長	φ250mm		10.0	m	
	管渠延長	下水道用リブ付硬質塩化ビニル管250mm		9.1	m	
管布設工	下水道用リブ付硬質塩化ビニル管250mm	φ250×4.0m		2.3	本	
	可とう継手	φ250mm		1	個	
						個
	管布設工			9.0	m	
	埋設標示シート(茶)	W=400mm			m	
	埋設標示テープ(茶)	W=30mm			m	
	(土工事)					
	掘削工	0.2m3級 B. H			17	m ³
		0.35m3級 B. H				m ³
		0.6m3級 B. H				m ³
	砕石基礎工	(機械投入) 0.2m3級 B. H			3.9	m ³
		(機械投入) 0.35m3級 B. H				m ³
		(機械投入) 0.6m3級 B. H				m ³
		路盤材再利用(t=20cm)			-	m ³
砂基礎購入量	基礎用砂				m ³	
埋戻工	0.2m3級 B. H	発生土		9	m ³	
	0.35m3級 B. H	発生土			m ³	
	0.6m3級 B. H	発生土			m ³	
残土処分工	機械積込み 0.2m3級 B. H			7.9	m ³	
	機械積込み 0.35m3級 B. H				m ³	
	機械積込み 0.6m3級 B. H				m ³	
(山留工)	平均掘削深		1.65m	10.0	m	
建込み簡易土留	H=1.5型				m	
	H=2.0型		平均H=1.65	10.0	m	
	H=2.5型				m	
	H=3.0型				m	
	H=3.5型				m	
建込み簡易土留	H=4.0型				m	
	H=4.5型				m	
	H=5.0型				m	
建込み簡易土留	H=5.5型				m	
	H=6.0型				m	
土留材運搬	搬入及び搬出			12.0	t	

数量集計表(自然流下管路布設)

工種	種別	規格・形状	計算	数量		
マンホール設置工	(1号組立レジンマンホール)					
	マンホール鉄蓋	不法投棄防止、除雪対応型 T-14				組
		不法投棄防止、除雪対応型 T-25			1	組
	転落防止梯子(SUS)	仕様書による				個
	マンホール底板	外径1060*90			1	個
	底部工	砕石基礎 RC40-0	T=20cm	0.95㎡/箇所	1	㎡
		インパート工 18-8-40BB+モルタル(1:3)仕上げ			1	箇所
						箇所
	躯体ブロック	H=600				個
		H=900				個
		H=1200			1	個
		H=1500				個
		H=1800				個
	直壁ブロック	H=300				個
		H=600				個
		H=900				個
		H=1200				個
		H=1500				個
		H=1800				個
	頂版ブロック	H=60				個
		H=90				個
		H=120			1	個
	調整リング	t=5				個
		t=10			2	個
		t=15				個
		t=20				個
	削孔	200mm	DIP		1	箇所
		250mm				箇所
	ブロック据付工	H=3m以下			1	箇所
		H=3m超～H=4m以下				箇所
H=4m超～H=5m以下					箇所	

数量集計表(自然流下管路布設)

工種	種別	規格・形状	計算	数量	
	(副管設置工)	250×200			箇所
	直管	200mm			m
	支管	250×200			本
	カラー管	200mm			本
	曲管	200mm			本
	固定バンド		副管延長1mにつき1カ所		個
	コンクリート	18-8-40(BB) 1箇所当			3 m
	型枠	1箇所当			2 m
付帯工	表層工	密粒度As13F(再生材) t=3cm		10	2 m
		粗粒度アスコン20(再生材) t=5cm			2 m
		細粒度アスコン13F(再生材) t=3cm			2 m
	上層路盤工	M25-0 t=11cm		10	2 m
	下層路盤工	RC40-0 t=20cm		10	2 m
	路盤工	RC40-0 t=10cm			2 m
	凍上抑制層	RC40-0 t=15cm			2 m
	路面補修工	M25-0 t=10cm			3 m
	砕石埋戻工	M40 t=15cm			3 m
		M40 t=47cm			3 m
	As取壊し工	機械積込み 0.2m3級 B. H		10.0	2 m
		機械積込み 0.35m3級 B. H			2 m
	As切断工			20	m
	As処分工(運搬)			0.4	3 m
	As処分費			0.9	t

4. 立坑仮設

ライナープレート式立坑築造工総括表

工種	種別	細別	単位	発進立坑 推進立坑	MP立坑 MP立坑	到達人孔 推進立坑		合計
土 工	一次掘削工	BH 0.35m3(礫)	m³	---	---	---		---
		BH 0.35m3(粘土・砂)	m³	---	---	---		---
	掘削土留工 (砂質土・粘性土)	人力	m	---	---	---		---
		BH 0.35m3	m	---	---	---		---
	掘削土留工 (礫質土)	CR 0.40m3	m	---	---	---		---
		人力	m	---	---	4.60		4.600
	埋戻工	BH 0.35m3	m	3.96	---	---		3.960
		CR 0.40m3	m	1.59	2.50	---		4.090
		均しコンクリート	m³	0.00	0.00	0.09		0.09
	埋戻工	エアモルタル	m³	0.00	22.47	4.28		26.75
砂埋戻し		m³	0.00	0.00	0.00		0.00	
構造物とりこわし工	無筋	m³	---	1.89	---		1.89	
残土処分工	発生土		m³	27.25	12.28	8.14		47.67
			m³					
礎立 工基	支持架台設置	(H鋼250×250)	t	0.244	---	---		0.24
	基礎コンクリート工		m³	2.000	---	---		2.00
土 留 工	立坑形状			円形	円形	円形		
	立坑寸法			φ2.5	φ2.5	φ1.5		
	ライナープレート			t=2.7mm	t=2.7mm	t=2.7mm		
	設置高		m	6.00	2.50	5.00		13.50
	撤去高		m	0.00	1.91	1.86		3.77
	残置高		m	6.00	0.59	3.14		9.73
	設置重量	ライナープレート	t	1.560	0.650	0.81		3.020
		補強リング	t	---	---	---		---
	撤去重量	ライナープレート	t	0.000	0.402	0.25		0.653
		補強リング	t	---	---	---		---
スクラップ重量		t	0.000	0.012	0.01		0.020	
残置重量		t	1.560	0.248	0.56		2.367	
裏込注入工		m³	4.09	1.83	2.09		8.01	
支 保 工	桁材設置撤去重量	主部材	t	---	---	---		---
		副部材(A)	t	---	---	---		---
		副部材(B)	t	---	---	---		---
		合計	t	---	---	---		---
	運搬重量	往路	t	---	---	---		---
	復路	t	---	---	---		---	
薬 入 液 注	注入本数		本	19	---	15		34
舗 装 工	舗装切断工	As t=15cm以下	m	12.00	6.20	8.00		26.20
	舗装破碎工	As t=15cm以下	m²	9.00	1.05	4.00		14.05
	処分工	Asガラ(無筋)	m³	0.36	0.04	0.16		0.56
	舗装仮復旧工	表層工 As t=3cm	m²	0.00	9.41	3.72		13.13
		路盤工 RC-40 t=20cm	m²	0.00	9.41	3.72		13.13
	路盤工 M-25 t=11cm	m²	0.00	9.41	3.72		13.13	
既 設 管 接 続 工	接続管きよ延長	硬質塩化ビニル管φ250	m	---	1.00	---		1.00
	接続継手	レジン-VUφ250器定バンド	個	---	2	---		2
	管布設工		m	---	1.00	---		1.00
	可とう継手	VUφ250	個	---	2	---		2
	掘削工	BH 0.20m3	m³	---	4.70	---		4.70
	砂基礎工	BH 0.20m3	m³	---	0.85	---		0.85
	埋戻工	BH 0.20m3	m³	---	3.65	---		3.65
	残土処分工	BH 0.20m3	m³	---	1.05	---		1.05
	ライナープレート切削	ライナープレート	m	---	5.11	---		5.11
	スクラップ重量		t	---	0.05	---		0.05
建込み簡易土留	H=2.5型	m	---	2.00	---		2.00	
付 帯 工	既設管撤去延長	RP	m	---	2.50	---		2.50
	スクラップ重量	H-250×250	t	---	0.24	---		0.24

名 称	計 算 式					数 量
立坑築造工	φ2500	発進	立坑	立坑深さ	=	5.59 m
	先掘面積	A	=	3.000 × 3.000	=	9.00 m ²
	立坑面積	A	=	$\pi/4 \times 2.500^2$	=	4.91 m ²
1. 土 工						
1) 掘削工	機械掘削 BH0.35					
	H1	=	4.000 - 0.040	=	3.960 m	
	V1	=	4.91 × 3.960	=	19.44 m ³	
	人力掘削 H ≤ 6.0m					
	H2	=	-	=	m	
	t=2.7mm 砂質土・粘性土 H = m					
	礫質土 H = m					
	V2	=	×	=	m ³	
	クラムシェル掘削 BH 0.40m ³ (平積) H > 4.0m					
	H3	=	5.590 - 4.000	=	1.590 m	
	砂質土・粘性土 H = m					
	礫質土 H = 1.590 m					
	V3	=	4.910 × 1.590	=	7.81 m ³	
2) 埋戻し工	埋戻し工均しコンクリート 18-8-40					
	V	=	×	=	m ³	m ³
	埋戻し工 (人孔設置前) 再生砕石 RC-40					
	V	=	×	=	m ³	m ³
	埋戻し工 購入砂					
	H	=	-	-	=	m
	V2	=	×	-	=	m ³
	控除数量					
	1号マンホール	V =	×	×	=	m ³
	本管(上流)	V =	×	² ×	=	m ³
	本管(下流)	V =	×	² ×	=	m ³
	Σ V = m ³					
3) 処分工	発生土					
	V	=	19.44 + 7.81	=	27.25	27.25 m ³

名 称	計 算 式	数 量
2. 立坑基礎工	支持架台 (H鋼250×250) 設置	
	$W = 1.7 \times 2 \times 71.8 \text{ kg/m} = 244.12 \text{ kg}$	
	基礎コンクリート工 18-8-40	
	$V = \pi/4 \times 2.500^2 \times 0.385 = 2.00 \text{ m}^3$	
3. 土留工	ライナープレート	
	円形 ϕ 2.500 m	
	1) 掘削土留	
	砂質土および粘性土 H = m	
	礫質土 H = 5.590 m	
	設置高 H = 6.000 m	
	撤去高 H = m うち損料高 m	
	(t=2.7mm)	
	設置枚数 P-10 10.0 枚/m 26.0 kg/枚	
	2) 重 量	
	設置重量	
	$W = 6.00 \text{ m} \times 10.0 \text{ 枚} \times 26.0 \text{ Kg/枚} = 1,560 \text{ kg}$	
	スクラップ重量	
	$W = \pi/4 \times \quad^2 \times 33.1 \text{ kg/m}^2 \times 1 = \text{kg}$	
	$\pi/4 \times \quad^2 \times 33.1 \text{ kg/m}^2 \times 1 = \text{kg}$	
	$\times \quad \times 33.1 \text{ kg/m}^2 \times 1 = \text{kg}$	
	$\Sigma W = \text{kg}$	
	損料重量	
	$W = \text{m} \times 10.0 \text{ 枚} \times 26.0 \text{ Kg/枚} = \text{kg}$	
	撤去重量	
	$W = \text{kg} + \text{Kg} = \text{kg}$	
	残置重量	
	$W = 1,560 - = 1,560 \text{ kg}$	
	ボルト重量	
	P-10 $W = 10.0 \text{ 枚} \times 14.0 \text{ 本} \times 0.137 \text{ kg/本} = 19 \text{ kg}$	
	$\Sigma V = 19 \text{ kg}$	
	3) 裏込注入工	
	$V = 0.09 \times \pi \times (2.500 + 0.09) \times 5.590 = 4.09 \text{ m}^3$	
	参考	
	ライナープレート m^2 当たり重量 (P-10で換算)	
	$A = \frac{L}{H} \times \quad = 0.785 \text{ m}^2/\text{枚}$	
	$W = \frac{\text{kg/枚}}{\text{m}^2/\text{枚}} = 33.1 \text{ kg/m}^2$	

名 称	計 算 式								数 量
4. 路面覆工									
	1) 覆工板								
	覆工板面積								
	A	=	×		=	m ²		m ²	
	覆工板重量								
	W	=	×	t/m枚	=	t		t	
	2) 桁材重量								
	名 称	部 材	長 さ (m)	本数 (本)	単位重量 (t/m)	重 量 (t)	備 考		
	受桁								
	合 計								
	撤去重量				Σ W	=	t		t
	運搬重量	W	=	+		=	t		t
5. 舗装工	1) 舗装切断工 As t=15cm以下								
	L	=	3.00	×	4	=	12.00 m	12.00 m	
	2) 舗装破碎工 As t=15cm以下								
	A	=	3.00	×	3.00	=	9.00 m ²	9.00 m ²	
	3) 処分工 Asガラ (無筋)								
	V	=	9.00	×	0.04	=	0.36 m ²	0.36 m ²	
	4) 舗装恢復旧工								
	① 表層工 As t=3cm								
	A	=	-		蓋控除	=	m ²	m ²	
	② 路盤工 RC-40 t=20cm M-25 t=11cm								
	A	=	-		蓋控除	=	m ²	m ²	

名 称	計 算 式					数 量
立坑築造工	φ2500	MP	立坑	立坑深さ	=	8.09 m
	先掘面積	A	=	3.000 × 3.000	=	9.00 m ²
	立坑面積	A	=	$\pi/4 \times 2.500^2$	=	4.91 m ²
1. 土 工						
1) 掘削工	機械掘削 BH0.35					
	H1	=	-	=	m	
	V1	=	×	=	m ³	
	人力掘削 H ≤ 6.0m					
	H2	=	-	=	m	
	t=2.7mm 砂質土・粘性土 H = m					
	礫質土 H = m					
	V2	=	×	=	m ³	
	クラムシェル掘削 BH 0.40m ³ (平積) H > 4.0m					
	H3	=	8.090 - 5.590	=	2.500 m	
	砂質土・粘性土 H = m					
	礫質土 H = 2.500 m					
	V3	=	4.910 × 2.500	=	12.28 m ³	
2) 構造物とリこわし工	機械施工(無筋構造物)					
	V	=	4.910 × 0.385	=	1.890 m ³	
3) 埋戻し工	埋戻し工(立坑掘削分)エアモルタル					
	H	=	8.090 - 0.340	=	7.750 m	
	V2	=	4.91 × 7.750 - 15.58	=	22.47 m ³	22.47 m ³
	控除数量 3号マンホール V = $\pi/4 \times 1.600 \times 7.750 = 15.58 \text{ m}^3$					
	Σ V = 15.58 m ³					
4) 処分工	発生土					
	V	=	+ 12.28	=	12.28	12.28 m ³

名 称	計 算 式	数 量
2. 土留工	ライナープレート	
	円形 φ 2.500 m	
	1) 掘削土留	
	砂質土および粘性土 H= m	
	礫質土 H= 2.500 m	
	設置高 H= 2.500 m	
	撤去高 H= 1.910 m うち損料高 1.500 m (t=2.7mm)	
	設置枚数 P-10 10.0 枚/m 26.0 kg/枚	
	2) 重 量	
	設置重量	
	W = 2.50 m × 10.0 枚 × 26.0 Kg/枚 = 650 kg	
	既存設置	
	W = 6.00 m × 10.0 枚 × 26.0 Kg/枚 = 1,560 kg	
	Σ W = 2,210 kg	
	スクラップ重量	
	W = $\frac{\pi}{4} \times 0.220^2 \times 33.1 \text{ kg/m}^2 \times 1 = 1 \text{ kg}$	
	$\frac{\pi}{4} \times 0.406^2 \times 33.1 \text{ kg/m}^2 \times 1 = 4 \text{ kg}$	
	$\frac{\pi}{4} \times 0.284^2 \times 33.1 \text{ kg/m}^2 \times 2 = 4 \text{ kg}$	
	0.410 × π × 2.5 × 33.1 kg/m ² × 1 = 3 kg	
	Σ W = 12 kg	
	損料重量	
	W = 1.50 m × 10.0 枚 × 26.0 Kg/枚 = 390 kg	
	撤去重量	
	W = 390.00 kg + 12.0 Kg = 402 kg	
	残置重量	
	W = 650 - 402 = 248 kg	
	ボルト重量	
	P-10 W = 10.0 枚 × 14.0 本 × 0.137 kg/本 = 19 kg	
	Σ V = 19 kg	
	3) 裏込注入工	
	V = 0.09 × π × (2.500 + 0.09) × 2.500 = 1.83 m ³	
	参考	
	ライナープレートm ² 当たり重量 (P-10で換算)	
	A = $\frac{L}{H} \times 0.500 = 0.785 \text{ m}^2/\text{枚}$	
	W = $\frac{\text{kg/枚}}{\text{m}^2/\text{枚}} = 33.1 \text{ kg/m}^2$	

名 称	計 算 式	数 量
3. 舗装工	既設管接続部のみ計上 1) 舗装切断工 As t=15cm以下	
	$L = 1.55 \times 2 \times 2 = 6.20 \text{ m}$	6.20 m
	2) 舗装破碎工 As t=15cm以下	
	$A = 0.50 \times 1.05 \times 2 = 1.05 \text{ m}^2$	1.05 m ²
	3) 処分工 Asガラ(無筋)	
	$V = 1.05 \times 0.04 = 0.04 \text{ m}^3$	0.04 m ³
	4) 舗装仮復旧工	
	① 表層工 As t=3cm	
	$A = 1.05 + 9 - \text{蓋控除} 0.64 = 9.41 \text{ m}^2$	9.41 m ²
	② 路盤工 RC-40 t=20cm M-25 t=11cm	
$A = 1.05 + 9 - \text{蓋控除} 0.64 = 9.41 \text{ m}^2$	9.41 m ²	
4. 既設管接続工	数量根拠図より 1) 既設管接続延長	
	$L = 0.50 \times 2 = 1.00 \text{ m}$	1.00 m
	2) 既設管接続土工延長	
	$L = 1.00 \times 2 = 2.00 \text{ m}$	2.00 m
	3) 掘削工	
	$V = 1.00 \times \text{掘削深} 2.237 \times 1.05 \times 2 = 4.70 \text{ m}^3$	4.70 m ³
	4) 砂基礎工	
	$V = 2.00 \times 0.427 = 0.85 \text{ m}^3$	0.85 m ³
5) 埋戻工(発生土)		
$V = 2.00 \times 1.05 \times 1.736 = 3.65 \text{ m}^3$	3.65 m ³	
6) 残土処分工		
$V = 4.700 - 3.65 = 1.05 \text{ m}^3$	1.05 m ³	
7) ライナープレート切削		
$L = (1.08 + 0.737 \times 2) \times 2 = 5.11 \text{ m}$	5.11 m	
8) スクラップ(ライナープレート)		
$W = 0.796 \times 2 \times 33.1 \text{ kg/m}^2 = 52.695 \text{ kg}$	52.695 kg	
5. 付帯工	既設管撤去(レジンコンクリート管φ250)	
	$L = 2.50 = 2.50 \text{ m}$	2.50 m
	スクラップ(H鋼250×250)	
$W = 1.7 \times 2 \times 71.8 \text{ kg/m} = 244.12 \text{ kg}$	244.12 kg	

名 称	計 算 式	数 量
立坑築造工	$\phi 1500$ 到達 立坑 立坑深さ = 4.64 m	
	先掘面積 A = 2.000 × 2.000 = 4.00 m ²	
	立坑面積 A = $\pi/4$ × 1.500 ² = 1.77 m ²	
1. 土 工		
1) 掘削工	機械掘削 BH0.35	
	H1 = - = m	
	V1 = × = m ³	
	人力掘削 H ≤ 6.0m	
	H2 = 4.640 - 0.040 = 4.600 m	
	t=2.7mm 砂質土・粘性土 H = - m	
	礫質土 H = 4.600 m	
	V2 = 1.77 × 4.600 = 8.14 m ³	
	クラムシェル掘削 BH 0.40m ³ (平積) H > 4.0m	
	H3 = - = m	
	砂質土・粘性土 H = - m	
	礫質土 H = m	
	V3 = × = m ³	
2) 埋戻し工	埋戻し工 (人孔設置前) 敷モルタル	
	H1 = 0.050 - - = 0.050 m	
	V1 = 0.05 × 1.770 - = 0.09 m ³	0.09 m ³
	埋戻し工 エアモルタル	
	H2 = 4.640 - 0.340 = 4.300 m	
	V2 = 1.77 × 4.300 - 3.33 = 4.28 m ³	4.28 m ³
	控除数量 敷モルタル V = × × = 0.09 m ³	
	控除数量 人孔躯体 V = $\pi/4$ × 0.980 ² × 4.300 = 3.24 m ³	
	ΣV = 3.33 m ³	
3) 処分工	発生土	
	V = 8.14 = 8.14	8.14 m ³

名 称	計 算 式	数 量
2. 土留工	ライナープレート	
	円形 φ 1.500 m	
	1) 掘削土留	
	砂質土および粘性土 H= m	
	礫質土 H= 4.640 m	
	設置高 H= 5.000 m	
	撤去高 H= 1.860 m うち損料高 1.500 m (t=2.7mm)	
	設置枚数 P-6 10.0 枚/m 16.2 kg/枚	
	2) 重 量	
	設置重量	
	W = 5.00 m × 10.0 枚 × 16.2 Kg/枚 = 810 kg	
	スクラップ重量	
	W = $\frac{\pi}{4} \times 0.256^2 \times 34.4 \text{ kg/m}^2 \times 1 = 2 \text{ kg}$	
	$0.360 \times \pi \times 1.5 \times 34.4 \text{ kg/m}^2 \times 1 = 2 \text{ kg}$	
	$\frac{\pi}{4} \times 0.406^2 \times 34.4 \text{ kg/m}^2 \times 1 = 4 \text{ kg}$	
	$\Sigma W = 8 \text{ kg}$	
	損料重量	
	W = 1.50 m × 10.0 枚 × 16.2 Kg/枚 = 243 kg	
	撤去重量	
	W = 243.00 kg + 8.0 Kg = 251 kg	
	残置重量	
	W = 810 - 251 = 559 kg	
	ボルト重量	
	P-6 W = 10.0 枚 × 10.0 本 × 0.137 kg/本 = 14 kg	
	$\Sigma V = 14 \text{ kg}$	
	3) 裏込注入工	
	V = 0.09 × π × (1.500 + 0.09) × 4.640 = 2.09 m ³	
	参考	
	ライナープレートm ² 当たり重量 (P-6で換算)	
	A = $\frac{L}{kg/枚} \times \frac{H}{m^2/枚} = 0.942 \times 0.500 = 0.471 \text{ m}^2/枚$	
	W = $16.2 \div 0.471 = 34.4 \text{ kg/m}^2$	

名 称	計 算 式								数 量
3. 路面覆工									
1) 覆工板									
覆工板面積									
A = × =								m ²	m ²
覆工板重量									
W = × t/m枚 =								t	t
2) 桁材重量									
	名 称	部 材	長 さ (m)	本数 (本)	単位重量 (t/m)	重 量 (t)	備 考		
	受桁								
	合 計								
撤去重量					Σ W =	t			
運搬重量	W =	+	=	t					
4. 舗装工									
1) 舗装切断工 As t=15cm以下									
L = 2.00 × 4 =						8.00 m	8.00 m		
2) 舗装破碎工 As t=15cm以下									
A = 2.00 × 2.00 =						4.00 m ²	4.00 m ²		
3) 処分工 Asガラ(無筋)									
V = 4.00 × 0.04 =						0.16 m ³	0.16 m ³		
4) 舗装仮復旧工									
① 表層工 As t=4cm									
A = 4.00 - 0.28 =						3.72 m ²	3.72 m ²		
② 路盤工 RC-40 t=20cm M-25 t=11cm									
A = 4.00 - 0.28 =						3.72 m ²	3.72 m ²		

薬液注入工（二重管ストレーナ工法、複相式）数量計算書

施工場所		単位	発進立坑 φ2500 側部	MP立坑φ 2500 側部	到達立坑 φ1500 側部				小計
注入面積		m ²	18.850		14.137				32.987
削孔長	砂礫土	m	3.980		3.740				7.720
	砂質土	m							
	粘性土	m							
	削孔長計	m	3.980		3.740				7.720
注入長	砂礫土	10~50	2.750		2.750				5.500
		50以上							
	砂質土	0~10							
		10~30							
		30以上							
	粘性土	0~4							
		4~8							
注入長計	m	2.750		2.750				5.500	
引抜き長		m	1.230		0.990				2.220
注入量 (注入率)	砂礫土	10~50	18.662		13.997				32.659
		50以上							
	砂質土	0~10							
		10~30							
	粘性土	0~4							
		4~8							
	注入量計	kl	18.662		13.997				32.659
注入量 (比率)	瞬結材	砂礫土:10~	12.442		9.331				21.773
		砂礫土:50以上							
		砂質土:0~							
		砂質土:10~							
		砂質土:30以上							
		粘性土:0~							
		粘性土:4~							
	注入量(瞬結材)計	kl	12.442		9.331				21.773
	緩結材	砂礫土:10~	6.220		4.666				10.886
		砂礫土:50以上							
		砂質土:0~							
		砂質土:10~							
		砂質土:30以上							
		粘性土:0~							
粘性土:4~									
注入量(緩結材)計	kl	6.220		4.666				10.886	
注入本数		本	19		15				34
1本当り注入量	瞬結材	ℓ	655		622				
	緩結材	ℓ	327		311				
	計	ℓ	982		933				1915.35
準備時間		14	分	14.00		14.00			28.00
削孔時間	礫質土	8分/m	分	31.8		29.9			61.7
	砂質土	5分/m	分						
	粘性土	4分/m	分						
	削孔時間計	分	31.80		29.90				61.70
注入時間		16ℓ/min	分	61.39		58.32			119.71
引抜き時間		2分/m	分	2.46		1.98			4.44
1本当り施工時間		分	109.65		104.20				213.85
1箇所当り施工時間		分	2083.30		1563.00				3646.30
1日当り施工本数(2セット)		6.3h/日	本	6.89		7.26			14.15
1日当り施工本数(4セット)		6.3h/日	本	13.80		14.50			28.30

下水道用設計標準歩掛表(R6年度)－第1巻 管路－ P.60～65

※1.施工本数が100本未満の場合は2セット、100本以上の場合は4セットを標準とする。

2.水ガラス積算流量計は、総注入量500kℓ以上の場合に計上する。

二重管ストレーナ工法注入率表(複相方式)

分類	土質	N 値		間隙率	注入充填率	注入率
				ρ (%)	α (%)	(%)
1	砂礫土	ゆるい～中位	10～50	40	90	36.0
2		中位～締った	50以上	35	90	31.5
3	砂質土	ゆるい～中位	0～30	45	90	40.5
4		中位～締った	30以上	35	90	31.5
5	粘性土	ゆるい～中位	0～4	70	40	28.0
6		中位～締った	4～8	60	40	24.0

下水道用設計標準歩掛表(H25年度)－別冊 参考資料－ P.18

二重管スレーナ工法注入比率表(複相方式)

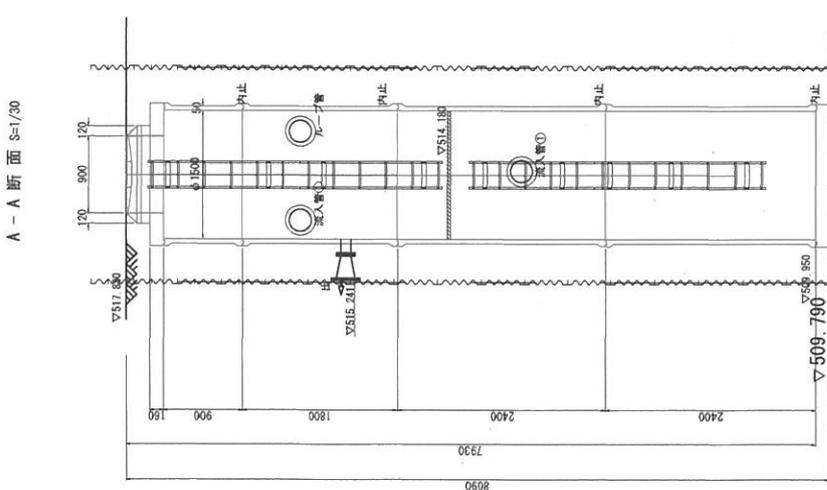
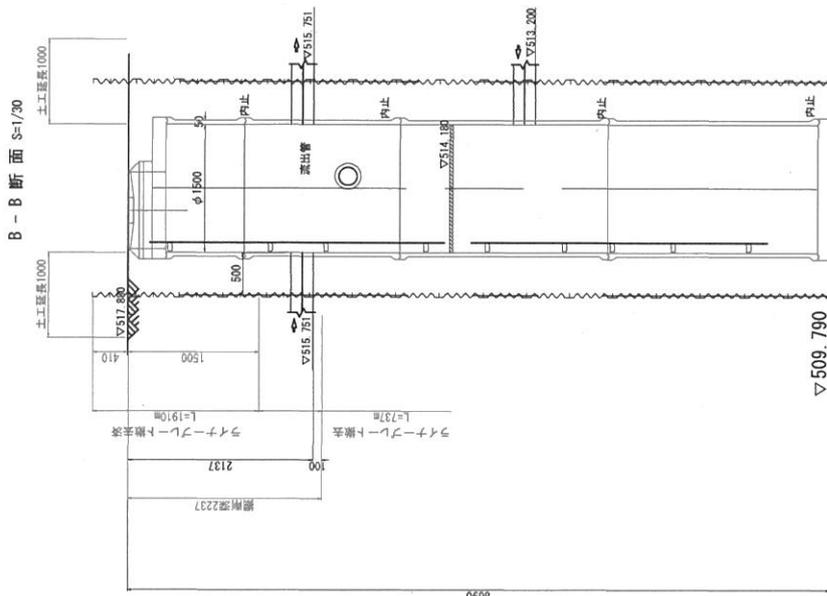
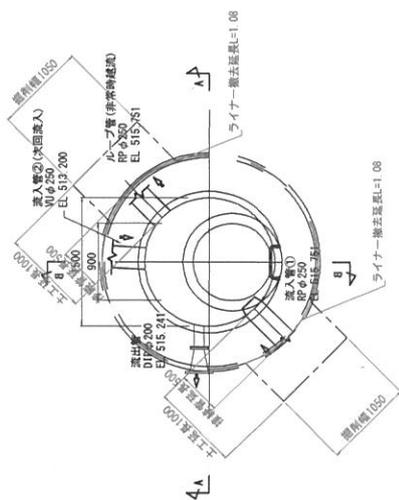
分類	土質	瞬結材:緩結材 (注入比率)		適用
1	砂礫土	1:0.5	0.5	細粒分が少ない場合 細粒分が多い場合又は止水を目的とする場合
2		1:1~2	1.5	
3	砂質土	1:1~2	1.5	ゆるい N値 0~10
4		1:2~3	2.5	中位 N値 10~30
5		1:3~4	3.5	締った N値 30~
6	粘性土	1:0	0	目的(止水・地盤強化)により選定する。
7		1:1	1.0	

下水道用設計積算要領(2015年度版) P.249~270

<トラック損料日数> 下水道用設計標準歩掛表(R2年度)-第1巻 管路- P.70

$$\begin{aligned}
 \text{日数} &= \text{総注入量}V(k\ell) \div (\text{1本当り注入量}Q_s(k\ell/\text{本}) \times \text{1日当り施工本数}) \times \alpha(\text{供用日の割増率}) \\
 &= 32.659 \div (1,915.350 \times 14.15) \times 1.0 \\
 &= 0.001 \text{ 日}
 \end{aligned}$$

既設管接続数量根拠図 図示



※レジマンホールの内面はクリーム色

事業名	明石地下下水道施設改善事業
図面名称	既設管接続数量根拠図
縮尺	図示
事業主	安曇野市

5. 推進工他

推進工集計表

管推進工 鋼管 φ400mm 内管 φ250mm (塩化ビニル管)

項目	細目	数量	単位	摘要
路線延長		29.2	m	
管体延長		28.0	m	
推進延長		27.2	m	
推進管	本管VU L=4.0	7	本	
	継手 本管用	13	個	
	400mmSTK L=2.0		本	
	400mmSTK L=1.0	28	本	
	400mmSTK L=0.6		本	
スパーサー	VU φ 250 ベアリングタイプ	14	個	
可とう継手	VU φ 250	1	個	
	VU φ 250 既設人孔到達用	1	個	
本管挿入工	VU φ 250	27.2	m	
中込注入		1.90	m ³	
残土		3.5	m ³	

組立マンホール工 レジンマンホール1号

項目	細目	数量	単位	摘要
マンホール鉄蓋	不法投棄防止、除雪対応型 T14		組	
	不法投棄防止、除雪対応型 T25	1	組	
転落防止梯子(SUS)		1	箇所	
マンホール底版	外径1060*90	1	箇所	
底部工	基礎		m ³	立坑埋戻しで集計
	インバート工I18-8-40BB*モルタル(1:3)仕上げ	0.2	m ³	
	モルタル上塗り工 配合1:2厚さ2cm	0.6	m ²	
躯体ブロック	H=600		個	
	H=900		個	
	H=1200		個	
	H=1500	1	個	
	H=1800		個	
直壁ブロック	H=600		個	
	H=900		個	
	H=1200	1	個	
	H=1500	1	個	
	H=1800		個	
頂版	H=60		個	
	H=120	1	個	
調整リング	t=5	1	個	
	t=10		個	
	t=15		個	
	t=20		個	
調整プレート	25mm	1	個	
	45mm		個	
削孔	200mm		箇所	
	250mm	1	箇所	
ブロック据付工	H=3m以下		箇所	
	H=3m超~H=4m以下		箇所	
	H=4m超~H=5m以下	1	箇所	
(内副管)				
直管	VU φ 200	2.6	m	
継手	リップ内副管継手	1	個	
ステンレスバンド	SUS304	2	個	
90° 曲管	VU φ 200	1	個	

組立マンホール工 レジンマンホール3号

項目	細目	数量	単位	摘要
マンホール鉄蓋	φ900/φ600親子蓋 不法投棄防止、除雪対応型 T14		組	
	φ900/φ600親子蓋 不法投棄防止、除雪対応型 T25	1	組	
転落防止梯子(SUS)		1	箇所	
マンホール底版	外径1660*160	1	箇所	
底部工	基礎		m ²	
	インパート工18-8-40BB'モルタル(1:3)仕上げ		箇所	
躯体ブロック	H=600		個	
	H=900		個	
	H=1200		個	
	H=1500		個	
	H=1800		個	
直壁ブロック	H=600 内面クリーム色		個	
	H=900 内面クリーム色	1	個	
	H=1200 内面クリーム色		個	
	H=1500 内面クリーム色		個	
	H=1800 内面クリーム色	1	個	
	H=2100 内面クリーム色		個	
	H=2400 内面クリーム色	2	個	
頂版	H=60		個	
	H=160	1	個	
中間スラブ	FRP製	1	個	
調整リング	t=5		個	
	t=10	1	個	
	t=15		個	
	t=20		個	
調整プレート	45mm		個	
	50mm	1	個	
削孔	200mm		箇所	
	250mm	3	箇所	
ブロック据付工	H=3m以下		箇所	
	H=3m超~H=4m以下		箇所	
	H=4m超~H=5m以下		箇所	
	H=6m超 H=7.93	1	箇所	

仮設備工

項目	細目	数量	単位	摘要
発進坑口工		1	箇所	
到達坑口工		1	箇所	
推進設備工		1	式	
鏡切り工		4	箇所	鋼材処分は立坑築造工に計上
	推進鋼管φ400	1.275	m	
	流出管φ200(DIP)	0.691	m	
	既設接続φ250(VU)	1.678	m	
立坑基礎工			箇所	立坑築造工に計上
			m ³	立坑築造工に計上

仮排水工

項 目	細 目	数 量	単 位	摘 要	
管布設工	路線延長	12.6	m		
	管渠延長	11.7	m		
	下水道用硬質塩化ビニル管 φ250 直管		3	本	
		φ250 45° 曲管	4	個	
	管布設工	11.6	m		
	掘削工	27.1	m ³		
	砂基礎工		m ³	仮設管のため基礎不要	
	埋戻工	発生土 0.20m ³ 級 BH	27.1	m ³	
	残土処分工	0.20m ³ 級 BH	0.1	m ³	
	建込簡易土留め工	H=2.5	12.6	m	
	土留材運搬		14.6	t	
止水プラグ	VU φ250用 全損	1	個		
マンホール設置工 (1号組立マンホール)	マンホール鉄蓋	1	組		
	転落防止梯子(SUS)	1	個		
	マンホール底版	外径1100*90	1	個	
	インパット工	18-8-40BB+モルタル(1:3)仕上げ	0.1	m ³	
	モルタル上塗り工	配合1:2厚さ2cm	0.4	m ²	
	躯体ブロック	H=1500	1	個	
	斜壁	H=600	1	個	
	調整リング	H=50	1	個	
	調整金具	H=45	1	個	
	削孔	250mm	5	箇所	馬蹄削孔は通常削孔2カ所分
ブロック据付工	H=3m以下	1	箇所		
既設管切削	レジンコンクリート管 φ250 密粒度As1 3F(再生材) t=3cm	0.9	m	半割	
付帯工	表層工	M25-0 t=11cm	13.2	m ²	
	上層路盤工	RC40-0 t=20cm	13.2	m ²	
	下層路盤工	機械積込み 0.20m ³ 級 BH	13.2	m ²	
	As取壊し工		13.2	m ²	
	As切断工		25.2	m	
	As処分工		0.5	m ³	
	As処分費		1.2	t	

推 進 工 計 算 書

内径 φ250 mm (鋼管さや管推進 鋼管φ400)

立坑番号	土留寸法	人孔	線路延長	人孔減長	立坑減長	管体延長	推進延長	内装管挿入	防護延長	坑内管体延長	本管VU	継ぎ手	可とう継手	400mmSTK	スペース	中込め注入	残土
	mm		m	m	m	m	m	m	m	m	本	個	個	本	個	m ³	m ³
発進立坑	2.50	有		0.75	1.250	路線延長 - 人孔減長	路線延長 - 立坑減長	鋼管延長	(立坑挿入 人孔外径)/2	0.500	L=4.00	本管用	上流	L=1.00	2m/個	$(0.4064 - 0.0032 \times 2) \times 2$ $- 0.267 \times \pi/4$ \times 鋼管延長	$0.4064 \times \pi/4$ \times 推進延長
到達立坑	1.50	有	29.20	0.45	0.750	28.00	27.20	27.20		0.300	7.0	13	1	28	14	1.90	
										0.800		1	1				
合計			29.20			28.00	27.20	27.20		0.80	7.0	13	1	28	14	1.90	3.5

6. 概算工事日数

概算工事日数算出表

実日数	60.83	日
供用日数	103.40	日

土留め区間施工日数算出表

名 称	形 状・寸 法	施工日数	設計数量	計 算 式		設計施工日数
				1m当り施工量		
配管工(圧送管)		3.1日	33.0m	$3.1日 \div 33.0m =$	0.094日/m	0.094日/m

名 称	形 状・寸 法	施工日数	設計数量	計 算 式		供用日当り
				施工日数		
自然流下土留め区間 H=2.0		0.041日/m	10.0m	$0.041日/m \times 10.0m =$ 土工日数 = ※ 土工事施工日数算出表(自然流下H=2.0m) より	0.4日 2.1日	5日
仮排水土留め区間 H=2.5		0.046日/m	12.6m	$0.046日/m \times 12.6m =$ 土工日数 = ※ 土工事施工日数算出表(自然流下H=2.5m) より	0.6日 3.1日	7日
既設管接続区間 H=2.5		0.046日/m	2.0m	$0.046日/m \times 2.0m =$ 土工日数 = ※ 土工事施工日数算出表(自然流下H=2.5m) より	0.09日 0.7日	2日
土留め区間 H=3.0m		0.094日/m	7.0m	$0.094日/m \times 7.0m =$ 土工日数 = ※ 土工事施工日数算出表(土留めH=2.5m) より	0.7日 10.2日	19日
土留め区間 H=2.5m		0.094日/m	23.0m	$0.094日/m \times 23.0m =$ 土工日数 = ※ 土工事施工日数算出表(土留めH=2.0m) より	2.2日 3.8日	11日
土留め区間 H=2.0m		0.094日/m	3.0m	$0.094日/m \times 3.0m =$ 土工日数 = ※ 土工事施工日数算出表(土留めH=2.0m) より	0.3日 0.4日	2日
土留めなし区間		0.094日/m	0.0m	$0.094日/m \times 0.0m =$ 土工日数 = ※ 土工事施工日数算出表(土留めH=2.0m) より	0.0日 0.0日	0日

矢板深さ 延長 掘削幅
2.5 1.00 1.05

日当たり施工量一覧表

工 種	数量	単位	日施工量	単位	実日数	摘要
管路土工						
管路掘削	4.70	m ³	0.01	日/m ³	0.06	
管路埋戻	3.65	m ³	0.04	日/m ³	0.14	
タンパ締固め	3.65	m ³	0.03	日/m ³	0.11	タンパ日数より
管布設工						
硬質塩化ビニル φ250	1.00	m	0.05	日/m	0.05	
管基礎工						
砂基礎	0.85	m ³	0.03	日/m ³	0.03	タンパ日数より
管路土留め工						
建込簡易土留め 建込込み H=2.5	2.00	m	0.047	日/m	0.09	
建込簡易土留め 引抜き H=2.5	2.00	m	0.027	日/m	0.05	
組立マンホール工						
1号マンホール H=≦3.0	0	箇所	0.250	日/箇所	0.00	
1号マンホール 3.0<H≦4.0	0	箇所	0.270	日/箇所	0.00	
ライナー切削工						
ライナープレート t=2.7	5.11	m	0.051	日/m	0.26	
				実日数合計	0.79	
				供用日数	1.35	

配管工事施工日数算出表

No.1

名 称	形 状・寸 法	单 位	設 計 数 量	单 位	歩掛かり (普通作業員)	計 算 式		設計施工 日数
						日当り施工量	施 工 日 数	
鑄鉄管吊込み据付工 (機械力)	φ 250				1人 ÷ (0.17人 ÷ 10m) =	58.82		
	φ 200		30.2		1人 ÷ (0.16人 ÷ 10m) =	62.50	30.2m × 0.16人 ÷ 10m	0.483
	φ 150	m		10m当り	1人 ÷ (0.15人 ÷ 10m) =	66.67		
	φ 100				1人 ÷ (0.13人 ÷ 10m) =	76.92		
	φ 75				1人 ÷ (0.13人 ÷ 10m) =	76.92		
鑄鉄管切断工	φ 250				1人 ÷ (0.10人 ÷ 1口) =	10.00		
	φ 200		5.0	1口当り	1人 ÷ (0.09人 ÷ 1口) =	11.11	5.0口 × 0.09人 ÷ 1口	0.450
	φ 150	口			1人 ÷ (0.08人 ÷ 1口) =	12.50		
	φ 100				1人 ÷ (0.06人 ÷ 1口) =	16.67		
	φ 75				1人 ÷ (0.06人 ÷ 1口) =	16.67		
鑄鉄管切断・溝切り工 (2工程)	φ 250				1人 ÷ (0.40人 ÷ 1口) =	2.50		
	φ 200				1人 ÷ (0.38人 ÷ 1口) =	2.63		
	φ 150	口		1口当り	1人 ÷ (0.36人 ÷ 1口) =	2.78		
	φ 100				1人 ÷ (0.34人 ÷ 1口) =	2.94		
	φ 75				1人 ÷ (0.33人 ÷ 1口) =	3.03		
鑄鉄管溝切り加工	φ 250				1人 ÷ (0.280人 ÷ 1口) =	3.57		
	φ 200				1人 ÷ (0.266人 ÷ 1口) =	3.76		
	φ 150	口		1口当り	1人 ÷ (0.252人 ÷ 1口) =	3.97		
	φ 100				1人 ÷ (0.238人 ÷ 1口) =	4.20		
	φ 75				1人 ÷ (0.231人 ÷ 1口) =	4.33		
GX継手接合工 (直管受口部)	φ 250				1人 ÷ (0.07人 ÷ 1口) =	14.29		
	φ 200		7.0	1口当り	1人 ÷ (0.06人 ÷ 1口) =	16.67	7.0口 × 0.06人 ÷ 1口	0.420
	φ 150	口			1人 ÷ (0.05人 ÷ 1口) =	20.00		
	φ 100				1人 ÷ (0.05人 ÷ 1口) =	20.00		
	φ 75				1人 ÷ (0.05人 ÷ 1口) =	20.00		
GX継手接合工 (異形管受口部)	φ 250				1人 ÷ (0.08人 ÷ 1口) =	12.50		
	φ 200		5.0	1口当り	1人 ÷ (0.07人 ÷ 1口) =	14.29	5.0口 × 0.07人 ÷ 1口	0.350
	φ 150	口			1人 ÷ (0.06人 ÷ 1口) =	16.67		
	φ 100				1人 ÷ (0.05人 ÷ 1口) =	20.00		
	φ 75				1人 ÷ (0.05人 ÷ 1口) =	20.00		
GX継手接合工 (P-Link部)	φ 250				1人 ÷ (0.091人 ÷ 1口) =	10.99		
	φ 200				1人 ÷ (0.078人 ÷ 1口) =	12.82		
	φ 150	口		1口当り	1人 ÷ (0.065人 ÷ 1口) =	15.38		
	φ 100				1人 ÷ (0.065人 ÷ 1口) =	15.38		
	φ 75				1人 ÷ (0.065人 ÷ 1口) =	15.38		
GX継手接合工 (G-Link部)	φ 250				1人 ÷ (0.128人 ÷ 1口) =	7.81		
	φ 200		6.0	1口当り	1人 ÷ (0.112人 ÷ 1口) =	8.93	6.0口 × 0.112人 ÷ 1口	0.672
	φ 150	口			1人 ÷ (0.096人 ÷ 1口) =	10.42		
	φ 100				1人 ÷ (0.080人 ÷ 1口) =	12.50		
	φ 75				1人 ÷ (0.080人 ÷ 1口) =	12.50		

配管工事施工日数算出表

No.2

名 称	形 状 ・ 寸 法	単 位	設 計 数 量	単 位	歩掛かり (普通作業員)	計 算 式		設 計 施 工 日 数
						日 当 り 施 工 量	施 工 日 数	
メカニカル継手工 (普通押輪)	φ 250				0.08人	1人 ÷ (0.08人 ÷ 1口) =	12.50	
	φ 200				0.07人	1人 ÷ (0.07人 ÷ 1口) =	14.29	
	φ 150	口		1口当り	0.06人	1人 ÷ (0.06人 ÷ 1口) =	16.67	
	φ 100				0.05人	1人 ÷ (0.05人 ÷ 1口) =	20.00	
	φ 75				0.05人	1人 ÷ (0.05人 ÷ 1口) =	20.00	
メカニカル継手工 (特殊押輪)	φ 250				0.092人	1人 ÷ (0.092人 ÷ 1口) =	10.87	
	φ 200				0.081人	1人 ÷ (0.081人 ÷ 1口) =	12.35	
	φ 150	口		1口当り	0.069人	1人 ÷ (0.069人 ÷ 1口) =	14.49	
	φ 100				0.058人	1人 ÷ (0.058人 ÷ 1口) =	17.24	
	φ 75				0.058人	1人 ÷ (0.058人 ÷ 1口) =	17.24	
メカニカル継手工 (離脱防止継手)	φ 250				0.104人	1人 ÷ (0.104人 ÷ 1口) =	9.62	
	φ 200				0.091人	1人 ÷ (0.091人 ÷ 1口) =	10.99	
	φ 150	口		1口当り	0.078人	1人 ÷ (0.078人 ÷ 1口) =	12.82	
	φ 100				0.065人	1人 ÷ (0.065人 ÷ 1口) =	15.38	
	φ 75				0.065人	1人 ÷ (0.065人 ÷ 1口) =	15.38	
硬質塩化ビニル管布設工	φ 200				0.49人	1人 ÷ (0.49人 ÷ 10m) =	20.41	
	φ 150				0.26人	1人 ÷ (0.26人 ÷ 10m) =	38.46	
	φ 100				0.20人	1人 ÷ (0.20人 ÷ 10m) =	50.00	
	φ 75				0.18人	1人 ÷ (0.18人 ÷ 10m) =	55.56	
	φ 50				0.18人	1人 ÷ (0.18人 ÷ 10m) =	55.56	
	φ 40	m		10m当り	0.14人	1人 ÷ (0.14人 ÷ 10m) =	71.43	
	φ 30				0.14人	1人 ÷ (0.14人 ÷ 10m) =	71.43	
	φ 25				0.12人	1人 ÷ (0.12人 ÷ 10m) =	83.33	
	φ 20				0.12人	1人 ÷ (0.12人 ÷ 10m) =	83.33	
	φ 13				0.10人	1人 ÷ (0.10人 ÷ 10m) =	100.00	
硬質塩化ビニル管切断工	φ 200				0.02人	1人 ÷ (0.02人 ÷ 1口) =	50.00	
	φ 150				0.02人	1人 ÷ (0.02人 ÷ 1口) =	50.00	
	φ 100				0.02人	1人 ÷ (0.02人 ÷ 1口) =	50.00	
	φ 75				0.02人	1人 ÷ (0.02人 ÷ 1口) =	50.00	
	φ 50				0.01人	1人 ÷ (0.01人 ÷ 1口) =	100.00	
	φ 40	口		1口当り	0.01人	1人 ÷ (0.01人 ÷ 1口) =	100.00	
	φ 30				0.01人	1人 ÷ (0.01人 ÷ 1口) =	100.00	
	φ 25				0.01人	1人 ÷ (0.01人 ÷ 1口) =	100.00	
	φ 20				0.01人	1人 ÷ (0.01人 ÷ 1口) =	100.00	
	φ 13				0.01人	1人 ÷ (0.01人 ÷ 1口) =	100.00	
硬質塩化ビニル管継手工 (RR継手)	φ 200				0.06人	1人 ÷ (0.06人 ÷ 1口) =	16.67	
	φ 150				0.06人	1人 ÷ (0.06人 ÷ 1口) =	16.67	
	φ 100	口		1口当り	0.05人	1人 ÷ (0.05人 ÷ 1口) =	20.00	
	φ 75				0.03人	1人 ÷ (0.03人 ÷ 1口) =	33.33	
	φ 50				0.03人	1人 ÷ (0.03人 ÷ 1口) =	33.33	

配管工事施工日数算出表

No.3

名 称	形 状・寸 法	単 位	設 計 数 量	単 位	歩掛かり (普通作業員)	計 算 式		設 計 施 工 日 数
						日 当 り 施 工 量	施 工 日 数	
硬質塩化ビニル管継手工 (TS継手)	φ200	口		2口当り	0.07人	$1人 \div (0.07人 \div 2口) =$	28.57	
	φ150				0.07人	$1人 \div (0.07人 \div 2口) =$	28.57	
	φ100				0.06人	$1人 \div (0.06人 \div 2口) =$	33.33	
	φ75				0.04人	$1人 \div (0.04人 \div 2口) =$	50.00	
	φ50				0.04人	$1人 \div (0.04人 \div 2口) =$	50.00	
	φ40				0.03人	$1人 \div (0.03人 \div 2口) =$	66.67	
	φ30				0.03人	$1人 \div (0.03人 \div 2口) =$	66.67	
	φ25				0.02人	$1人 \div (0.02人 \div 2口) =$	100.00	
	φ20				0.02人	$1人 \div (0.02人 \div 2口) =$	100.00	
	φ13				0.01人	$1人 \div (0.01人 \div 2口) =$	200.00	
離脱防止金具取付工 (RR継手)	φ200	口		1口当り	0.018人	$1人 \div (0.018人 \div 1口) =$	55.56	
	φ150				0.018人	$1人 \div (0.018人 \div 1口) =$	55.56	
	φ100				0.015人	$1人 \div (0.015人 \div 1口) =$	66.67	
	φ75				0.009人	$1人 \div (0.009人 \div 1口) =$	111.11	
	φ50				0.009人	$1人 \div (0.009人 \div 1口) =$	111.11	
	φ200				0.49人	$1人 \div (0.49人 \div 10m) =$	20.41	
	φ150				0.26人	$1人 \div (0.26人 \div 10m) =$	38.46	
	φ100				0.20人	$1人 \div (0.20人 \div 10m) =$	50.00	
	φ75				0.18人	$1人 \div (0.18人 \div 10m) =$	55.56	
	φ50				0.18人	$1人 \div (0.18人 \div 10m) =$	55.56	
ポリエチレン管布設工 (融着接合)	φ75	m		10m当り	0.18人	$1人 \div (0.18人 \div 10m) =$	55.56	
	φ50				0.18人	$1人 \div (0.18人 \div 10m) =$	55.56	
	φ40				0.14人	$1人 \div (0.14人 \div 10m) =$	71.43	
	φ30				0.14人	$1人 \div (0.14人 \div 10m) =$	71.43	
	φ25				0.12人	$1人 \div (0.12人 \div 10m) =$	83.33	
	φ20				0.12人	$1人 \div (0.12人 \div 10m) =$	83.33	
	φ13				0.10人	$1人 \div (0.10人 \div 10m) =$	100.00	
	φ200				0.02人	$1人 \div (0.02人 \div 1口) =$	50.00	
	φ150				0.02人	$1人 \div (0.02人 \div 1口) =$	50.00	
	φ100				0.02人	$1人 \div (0.02人 \div 1口) =$	50.00	
ポリエチレン管切断工	φ75	口		1口当り	0.01人	$1人 \div (0.01人 \div 1口) =$	100.00	
	φ50				0.01人	$1人 \div (0.01人 \div 1口) =$	100.00	
	φ40				0.01人	$1人 \div (0.01人 \div 1口) =$	100.00	
	φ30				0.01人	$1人 \div (0.01人 \div 1口) =$	100.00	
	φ25				0.01人	$1人 \div (0.01人 \div 1口) =$	100.00	
	φ20				0.01人	$1人 \div (0.01人 \div 1口) =$	100.00	
	φ13				0.01人	$1人 \div (0.01人 \div 1口) =$	100.00	
	φ200				0.13人	$1人 \div (0.13人 \div 1箇所) =$	7.69	
	φ150				0.09人	$1人 \div (0.09人 \div 1箇所) =$	11.11	
	φ100				0.07人	$1人 \div (0.07人 \div 1箇所) =$	14.29	

配管工事施工日数算出表

No.4

名 称	形 状・寸 法	単 位	設計数量	単 位	歩掛かり (普通作業員)	計 算 式		設計施工 日数
						日当り施工量	施 工 日 数	
ポリエチレン管継手工 (融着接合)	φ75	箇所		1箇所当り	0.05人	$1人 \div (0.05人 \div 1箇所) =$	20.00	
	φ50				0.04人	$1人 \div (0.04人 \div 1箇所) =$	25.00	
	φ200				0.091人	$1人 \div (0.091人 \div 1口) =$	10.99	
	φ150				0.063人	$1人 \div (0.063人 \div 1口) =$	15.87	
	φ100				0.049人	$1人 \div (0.049人 \div 1口) =$	20.41	
ポリエチレン管継手工 (融着接合)	φ75	口		1口当り	0.035人	$1人 \div (0.035人 \div 1口) =$	28.57	
	φ50				0.028人	$1人 \div (0.028人 \div 1口) =$	35.71	
	φ75				0.04人	$1人 \div (0.04人 \div 1口) =$	25.00	
	φ50				0.04人	$1人 \div (0.04人 \div 1口) =$	25.00	
	φ40				0.03人	$1人 \div (0.03人 \div 1口) =$	33.33	
ポリエチレン管継手工	φ30	口		1口当り	0.03人	$1人 \div (0.03人 \div 1口) =$	33.33	
	φ25				0.02人	$1人 \div (0.02人 \div 1口) =$	50.00	
	φ20				0.02人	$1人 \div (0.02人 \div 1口) =$	50.00	
	φ13				0.01人	$1人 \div (0.01人 \div 1口) =$	100.00	
	φ200				0.06人	$1人 \div (0.06人 \div 1口) =$	16.67	
ポリエチレン管メカニカル継手工 (融着接合)	φ150	口		1口当り	0.05人	$1人 \div (0.05人 \div 1口) =$	20.00	
	φ100				0.04人	$1人 \div (0.04人 \div 1口) =$	25.00	
	φ75				0.04人	$1人 \div (0.04人 \div 1口) =$	25.00	
	φ50				0.04人	$1人 \div (0.04人 \div 1口) =$	25.00	
	150A				0.35人	$1人 \div (0.35人 \div 10m) =$	28.57	
鋼管布設工 (人力)	100A	m		10m当り	0.25人	$1人 \div (0.25人 \div 10m) =$	40.00	
	80A				0.23人	$1人 \div (0.23人 \div 10m) =$	43.48	
	65A				0.20人	$1人 \div (0.20人 \div 10m) =$	50.00	
	50A				0.18人	$1人 \div (0.18人 \div 10m) =$	55.56	
	40A				0.16人	$1人 \div (0.16人 \div 10m) =$	62.50	
	32A				0.14人	$1人 \div (0.14人 \div 10m) =$	71.43	
	25A				0.13人	$1人 \div (0.13人 \div 10m) =$	76.92	
	20A				0.12人	$1人 \div (0.12人 \div 10m) =$	83.33	
	15A				0.10人	$1人 \div (0.10人 \div 10m) =$	100.00	
	150A				0.03人	$1人 \div (0.03人 \div 1口) =$	33.33	
鋼管切断工 (人力)	100A	口		1口当り	0.02人	$1人 \div (0.02人 \div 1口) =$	50.00	
	80A				0.02人	$1人 \div (0.02人 \div 1口) =$	50.00	
	65A				0.01人	$1人 \div (0.01人 \div 1口) =$	100.00	
	50A				0.01人	$1人 \div (0.01人 \div 1口) =$	100.00	
	40A				0.01人	$1人 \div (0.01人 \div 1口) =$	100.00	
	32A				0.01人	$1人 \div (0.01人 \div 1口) =$	100.00	
	25A				0.01人	$1人 \div (0.01人 \div 1口) =$	100.00	
	20A				0.01人	$1人 \div (0.01人 \div 1口) =$	100.00	
	15A				0.01人	$1人 \div (0.01人 \div 1口) =$	100.00	

配管工事施工日数算出表

No.5

名 称	形 状 ・ 寸 法	単 位	設 計 数 量	単 位	歩掛かり (普通作業員)	計 算 式		設 計 施 工 日 数				
						日 当 り 施 工 量	施 工 日 数					
鋼管ねじ切り工 (人力)	150A	口		1口当り	0.08人	$1人 \div (0.08人 \div 1口) =$	12.50					
	100A		0.06人		$1人 \div (0.06人 \div 1口) =$	16.67						
	80A		0.05人		$1人 \div (0.05人 \div 1口) =$	20.00						
	65A		0.05人		$1人 \div (0.05人 \div 1口) =$	20.00						
	50A		0.05人		$1人 \div (0.05人 \div 1口) =$	20.00						
	40A		0.04人		$1人 \div (0.04人 \div 1口) =$	25.00						
	32A		0.04人		$1人 \div (0.04人 \div 1口) =$	25.00						
	25A		0.03人		$1人 \div (0.03人 \div 1口) =$	33.33						
	20A		0.02人		$1人 \div (0.02人 \div 1口) =$	50.00						
	15A		0.02人		$1人 \div (0.02人 \div 1口) =$	50.00						
	鋼管ねじ込み接合工 (人力)		150A		口		2口当り	0.08人	$1人 \div (0.08人 \div 2口) =$	25.00		
			100A			0.06人		$1人 \div (0.06人 \div 2口) =$	33.33			
			80A			0.05人		$1人 \div (0.05人 \div 2口) =$	40.00			
			65A			0.05人		$1人 \div (0.05人 \div 2口) =$	40.00			
			50A			0.05人		$1人 \div (0.05人 \div 2口) =$	40.00			
40A		0.04人	$1人 \div (0.04人 \div 2口) =$	50.00								
32A		0.04人	$1人 \div (0.04人 \div 2口) =$	50.00								
25A		0.04人	$1人 \div (0.04人 \div 2口) =$	50.00								
20A		0.04人	$1人 \div (0.04人 \div 2口) =$	50.00								
15A		0.04人	$1人 \div (0.04人 \div 2口) =$	50.00								
フランジ継手工 (TWWA 7.5K)		φ250	口	1.0		1口当り		0.08人	$1人 \div (0.08人 \div 1口) =$	12.50		
		φ200						0.07人	$1人 \div (0.07人 \div 1口) =$	14.29		
		φ150						0.07人	$1人 \div (0.07人 \div 1口) =$	14.29		
		φ100						0.06人	$1人 \div (0.06人 \div 1口) =$	16.67		
		φ75(80A)						0.05人	$1人 \div (0.05人 \div 1口) =$	20.00		
	φ50	0.05人			$1人 \div (0.05人 \div 1口) =$		20.00					
	φ200 F×F	0.23人			$1人 \div (0.23人 \div 1基) =$		4.35					
	φ200 S×S	0.25人			$1人 \div (0.25人 \div 1基) =$		4.00					
	φ200 U×U	0.25人			$1人 \div (0.25人 \div 1基) =$		4.00					
	φ200 F×S	0.240人			$1人 \div (0.24人 \div 1基) =$		4.17					
	φ200 F×U	0.240人			$1人 \div (0.24人 \div 1基) =$		4.17					
	φ200 S×U	0.250人			$1人 \div (0.25人 \div 1基) =$		4.00					
	φ250	0.10人			$1人 \div (0.10人 \div 1基) =$		10.00					
	仕切弁設置工 (機械力)	φ200			基		1.0	1基当り	0.08人	$1人 \div (0.08人 \div 1基) =$	12.50	
		φ150							0.06人	$1人 \div (0.06人 \div 1基) =$	16.67	
φ100		0.05人	$1人 \div (0.05人 \div 1基) =$	20.00								
φ75(80A)		0.05人	$1人 \div (0.05人 \div 1基) =$	20.00								
φ75以下		0.19人	$1人 \div (0.19人 \div 1基) =$	5.26								
φ100		0.11人	$1人 \div (0.11人 \div 1基) =$	9.09								
φ75		0.11人	$1人 \div (0.11人 \div 1基) =$	9.09								
仕切弁設置工(人力) 空気弁設置工 (機械力)		φ250	基	2.0		1基当り			0.10人	$1人 \div (0.10人 \div 1基) =$	10.00	
		φ200							0.08人	$1人 \div (0.08人 \div 1基) =$	12.50	
		φ150							0.06人	$1人 \div (0.06人 \div 1基) =$	16.67	
伸縮可とう管設置工		φ200 F×F	基	1.0		1基当り			0.25人	$1人 \div (0.25人 \div 1基) =$	4.00	
		φ200 U×U							0.240人	$1人 \div (0.24人 \div 1基) =$	4.17	
		φ200 F×S							0.240人	$1人 \div (0.24人 \div 1基) =$	4.17	
伸縮可とう管設置工		φ200 F×U	基	2.0		1基当り			0.250人	$1人 \div (0.25人 \div 1基) =$	4.00	
		φ200 S×U							0.10人	$1人 \div (0.10人 \div 1基) =$	10.00	
	φ250	0.08人			$1人 \div (0.08人 \div 1基) =$		12.50					
仕切弁設置工(人力) 空気弁設置工 (機械力)	φ200	基	1.0	1基当り	0.06人	$1人 \div (0.06人 \div 1基) =$	16.67					
	φ150				0.05人	$1人 \div (0.05人 \div 1基) =$	20.00					
	φ100				0.05人	$1人 \div (0.05人 \div 1基) =$	20.00					
仕切弁設置工(人力) 空気弁設置工 (機械力)	φ75(80A)	基	2.0	1基当り	0.250人	$1人 \div (0.25人 \div 1基) =$	4.00					
	φ75以下				0.19人	$1人 \div (0.19人 \div 1基) =$	5.26					
	φ100				0.11人	$1人 \div (0.11人 \div 1基) =$	9.09					
仕切弁設置工(人力) 空気弁設置工 (機械力)	φ75	基	2.0	1基当り	0.11人	$1人 \div (0.11人 \div 1基) =$	9.09					
	φ75				0.11人	$1人 \div (0.11人 \div 1基) =$	9.09					
	φ75				0.11人	$1人 \div (0.11人 \div 1基) =$	9.09					

土工事施工日数算出表(土留めH=3.0m)

No.1

名 称	形 状・寸 法	単 位	設計数量	単 位	歩掛かり (普通作業員)	計 算 式		設計施工 日数		
						日当り施工量	施 工 日 数			
舗装版切断工	As t=15cm以下	m	13.0			C=	220.00	13.0m ÷ 220.00m/日 = 0.059	0.06	
	As t=15cmを越え40cm以下					C=	140.00			
	Co t=15cm以下					C=	170.00			
	Co t=15cmを越え30cm以下					C=	70.00			
	Co t=30cmを越え35cm以下					C=	40.00			
舗装版取壊し工 (バックホウ 0.35m3)	As t=10cm以下	m2				Q=	220.00			
	As t=10cmを越え15cm以下					Q=	186.00			
	Co t=10cm以下					Q=	810.00			
	Co t=10cmを越え15cm以下					Q=	560.00			
舗装版取壊し工 (バックホウ 0.20m3)	As t=10cm以下	m2	9.0			Q=	182.00	9.0m2 ÷ 182.00m2/日 = 0.049	0.05	
	As t=10cmを越え15cm以下					Q=	150.00			
	Co t=10cm以下					Q=	280.00			
	Co t=10cmを越え15cm以下					Q=	193.00			
舗装版取壊し工 (バックホウ 0.10m3)	As t=10cm以下	m2				Q=	155.00			
	As t=10cmを越え15cm以下					Q=	126.00			
	Co t=10cm以下					Q=	118.00			
	Co t=10cmを越え15cm以下					Q=	81.00			
舗装版取壊し工 (バックホウ 0.06m3)	As t=10cm以下	m2				Q=	135.00			
	As t=10cmを越え15cm以下					Q=	108.00			
	Co t=10cm以下					Q=	103.00			
	Co t=10cmを越え15cm以下					Q=	69.00			
床掘工 (機械)	バックホウ0.35m3	m3				Q=	60.00			
	バックホウ0.20m3					Q=	43.00			
	バックホウ0.10m3					Q=	32.00			
	バックホウ0.06m3					Q=	20.00			
床掘工(人力)	1人 ÷ (3.90人 ÷ 10m3) =	m3	23.0	10m3当り	3.90人	2.56	23.0m3 × 3.90人 ÷ 10m3	8.970	8.97	
	バックホウ0.35m3 タンハ締固め					3.00日	タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 =			33.33
	バックホウ0.20m3 タンハ締固め					3.00日	タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 =			33.33
	バックホウ0.10m3 タンハ締固め					3.00日	タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 =			33.33
	バックホウ0.06m3 タンハ締固め					3.00日	タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 =			33.33
	バックホウ0.35m3 タンハ締固め					3.00日	タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 =			33.33
	バックホウ0.20m3 タンハ締固め					3.00日	タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 =			33.33
	バックホウ0.10m3 タンハ締固め					3.00日	タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 =			33.33
	バックホウ0.06m3 タンハ締固め					3.00日	タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 =			33.33
	バックホウ0.35m3 タンハ締固め					3.00日	タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 =			33.33
埋戻し工 (機械) RC-40	バックホウ0.20m3 タンハ締固め	m3	17.0	100m3当り	3.00日	33.33	17.0m3 × 3.00人 ÷ 100m3	0.510	0.51	
	バックホウ0.10m3 タンハ締固め					3.00日	タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 =			33.33
	バックホウ0.10m3 タンハ締固め					3.00日	タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 =			33.33
	バックホウ0.06m3 タンハ締固め					3.00日	タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 =			33.33

土工事施工日数算出表(土留めH=3.0m)

No.2

名 称	形 状・寸 法	単 位	設計数量	単 位	歩掛かり (普通作業員)	計 算 式		設計施工 日数	
						日当り施工量	施 工 日 数		
埋戻し工(人力)	山砂 タンハ ^o 締固め	m3			2.30人	$1人 \div (2.30人 \div 10m3) =$	4.35		
	RC-40 タンハ ^o 締固め				2.30人	$1人 \div (2.30人 \div 10m3) =$	4.35		
	発生土 タンハ ^o 締固め				2.30人	$1人 \div (2.30人 \div 10m3) =$	4.35		
	RC-40 t=10cm				1層	Q= 222.22			
	RC-40 t=15cm				1層	Q= 222.22			
路盤工 (人力施工) 施工幅1.80m未満	RC-40 t=20cm	m2	9.0	100m2・1層当り	1層	Q= 222.22	$9.0m2 \div 222.22m2/日 \div 1層 =$	0.041	
	RC-40 t=60cm				3層	Q= 74.07			
	C-40 t=10cm				1層	Q= 222.22			
	C-40 t=15cm				1層	Q= 222.22			
	C-40 t=35cm				2層	Q= 111.11			
路盤工 (人力施工) 施工幅1.80m未満	C-40 t=60cm	m2		100m2・1層当り	3層	Q= 74.07			
	M-25 t=10cm				1層	Q= 222.22			
	M-25 t=11cm				1層	Q= 222.22	$9.0m2 \div 222.22m2/日 \div 1層 =$	0.041	
	M-25 t=35cm				2層	Q= 111.11			
	M-25 t=60cm				3層	Q= 74.07			
路盤工 (人力施工) 施工幅1.80m未満	MS-25 t=10cm	m2		100m2・1層当り	1層	Q= 222.22			
	MS-25 t=15cm				1層	Q= 222.22			
	MS-25 t=26cm				2層	Q= 111.11			
	MS-25 t=60cm				3層	Q= 74.07			
	RC-40 t=3cm程度の補足材				1層	Q= 217.39			
不陸整正工 (人力施工) 施工幅1.80m未満	C-40 t=3cm程度の補足材	m2		100m2・1層当り	1層	Q= 217.39			
	M-30 t=3cm程度の補足材				1層	Q= 217.39			
	MS-25 t=3cm程度の補足材				1層	Q= 217.39			
	再生密粒As t=3cm				1層	Q= 250.00	$9.0m2 \div 250.00m2/日 \div 1層 =$	0.036	
	再生密粒As t=4cm				1層	Q= 250.00			
アスファルト舗装工 (人力施工)	再生密粒As t=5cm	m2		1m2・1層当り	1層	Q= 250.00			
	再生密粒As t=7cm				1層	Q= 230.00			
	H=1.5m以下				0.35人	$1人 \div (0.35人 \div 10m) =$	28.57		
	H=2.0m以下				0.40人	$1人 \div (0.40人 \div 10m) =$	25.00		
	H=2.5m以下				0.47人	$1人 \div (0.47人 \div 10m) =$	21.28		
土留め工	H=3.0m以下	m	7.0	10m当り	0.54人	$1人 \div (0.54人 \div 10m) =$	18.52	$7.0m \times 0.54人 \div 10$	0.378
	Co t=5cm				6.38人	$1人 \div (6.38人 \div 100m2) =$	15.67		
	Co t=10cm				6.38人	$1人 \div (6.38人 \div 100m2) =$	15.67		
	Co t=15cm				6.38人	$1人 \div (6.38人 \div 100m2) =$	15.67		
土工計								10.18	

土工事施工日数算出表(土留めH=2.5m)

No.1

名	称	形状・寸法	単位	設計数量	単位	歩掛かり (普通作業員)	計 算 式		設計施工 日数	
							日当り施工量	施工日数		
舗装版切断工		As t=15cm以下	m	47.0			C=	220.00	47.0m ÷ 220.00m/日 = 0.214	0.21
		As t=15cmを越え40cm以下					C=	140.00		
		Co t=15cm以下					C=	170.00		
		Co t=15cmを越え30cm以下					C=	70.00		
		Co t=30cmを越え35cm以下					C=	40.00		
舗装版取壊し工 (バックホウ 0.35m3)		As t=10cm以下	m2				Q=	220.00		
		As t=10cmを越え15cm以下					Q=	186.00		
		Co t=10cm以下					Q=	810.00		
		Co t=10cmを越え15cm以下					Q=	560.00		
舗装版取壊し工 (バックホウ 0.20m3)		As t=10cm以下	m2	22.0			Q=	182.00	22.0m2 ÷ 182.00m2/日 = 0.121	0.12
		As t=10cmを越え15cm以下					Q=	150.00		
		Co t=10cm以下					Q=	280.00		
		Co t=10cmを越え15cm以下					Q=	193.00		
舗装版取壊し工 (バックホウ 0.10m3)		As t=10cm以下	m2				Q=	155.00		
		As t=10cmを越え15cm以下					Q=	126.00		
		Co t=10cm以下					Q=	118.00		
		Co t=10cmを越え15cm以下					Q=	81.00		
舗装版取壊し工 (バックホウ 0.06m3)		As t=10cm以下	m2				Q=	135.00		
		As t=10cmを越え15cm以下					Q=	108.00		
		Co t=10cm以下					Q=	103.00		
		Co t=10cmを越え15cm以下					Q=	69.00		
床堀工 (機械)		バックホウ0.35m3	m3	44.0			Q=	60.00		
		バックホウ0.20m3					Q=	43.00		
		バックホウ0.10m3					Q=	32.00		
		バックホウ0.06m3					Q=	20.00		
床堀工(人力)		バックホウ0.35m3 タンハ締固め	m3	10m3当り	3.90人	1人 ÷ (3.90人 ÷ 10m3) = 2.56		2.56		
		バックホウ0.20m3 タンハ締固め					3.00日	33.33		
		バックホウ0.10m3 タンハ締固め					3.00日	33.33		
		バックホウ0.06m3 タンハ締固め					3.00日	33.33		
		バックホウ0.35m3 タンハ締固め					3.00日	33.33		
		バックホウ0.20m3 タンハ締固め					3.00日	33.33		
		バックホウ0.10m3 タンハ締固め					3.00日	33.33		
		バックホウ0.06m3 タンハ締固め					3.00日	33.33		
		バックホウ0.35m3 タンハ締固め					3.00日	33.33		
		バックホウ0.20m3 タンハ締固め					3.00日	33.33		
		バックホウ0.10m3 タンハ締固め					3.00日	33.33		
		バックホウ0.06m3 タンハ締固め					3.00日	33.33		
埋戻し工 (機械) RC-40		バックホウ0.35m3 タンハ締固め	m3	8.0	100m3当り			33.33	8.0m3 × 3.00人 ÷ 100m3 = 0.240	0.24
		バックホウ0.20m3 タンハ締固め					3.00日	33.33		
		バックホウ0.10m3 タンハ締固め					3.00日	33.33		
		バックホウ0.06m3 タンハ締固め					3.00日	33.33		
埋戻し工 (機械) 発生土		バックホウ0.35m3 タンハ締固め	m3	29.0	100m3当り			33.33	29.0m3 × 3.00人 ÷ 100m3 = 0.870	0.87
		バックホウ0.20m3 タンハ締固め					3.00日	33.33		
		バックホウ0.10m3 タンハ締固め					3.00日	33.33		
		バックホウ0.06m3 タンハ締固め					3.00日	33.33		

土工事施工日数算出表(土留めH=2.5m)

No.2

名 称	形 状・寸 法	単 位	設計数量	単 位	歩掛かり (普通作業員)	計 算 式		設計施工 日数	
						日当り施工量	施 工 日 数		
埋戻し工(人力)	山砂 タンハ ^o 締固め	m3			2.30人	1人 ÷ (2.30人 ÷ 10m3) =	4.35		
	RC-40 タンハ ^o 締固め				2.30人	1人 ÷ (2.30人 ÷ 10m3) =	4.35		
	発生土 タンハ ^o 締固め				2.30人	1人 ÷ (2.30人 ÷ 10m3) =	4.35		
	RC-40 t=10cm				1層	Q= 222.22			
	RC-40 t=15cm				1層	Q= 222.22			
路盤工 (人力施工) 施工幅1.80m未満	RC-40 t=20cm	m2	22.0	100m2・1層当り	1層	Q= 222.22	22.0m2 ÷ 222.22m2/日 ÷ 1層 =	0.099	
	RC-40 t=60cm				3層	Q= 74.07			
	C-40 t=10cm				1層	Q= 222.22			
	C-40 t=15cm				1層	Q= 222.22			
	C-40 t=35cm				2層	Q= 111.11			
路盤工 (人力施工) 施工幅1.80m未満	C-40 t=60cm	m2		100m2・1層当り	3層	Q= 74.07			
	M-25 t=10cm				1層	Q= 222.22			
	M-25 t=11cm				1層	Q= 222.22	22.0m2 ÷ 222.22m2/日 ÷ 1層 =	0.099	
	M-25 t=35cm				2層	Q= 111.11			
	M-25 t=60cm				3層	Q= 74.07			
路盤工 (人力施工) 施工幅1.80m未満	MS-25 t=10cm	m2		100m2・1層当り	1層	Q= 222.22			
	MS-25 t=15cm				1層	Q= 222.22			
	MS-25 t=26cm				2層	Q= 111.11			
	MS-25 t=60cm				3層	Q= 74.07			
	RC-40 t=3cm程度の補足材				1層	Q= 217.39			
不陸整正工 (人力施工) 施工幅1.80m未満	C-40 t=3cm程度の補足材	m2		100m2・1層当り	1層	Q= 217.39			
	M-30 t=3cm程度の補足材				1層	Q= 217.39			
	MS-25 t=3cm程度の補足材				1層	Q= 217.39			
	再生密粒As t=3cm				1層	Q= 250.00	22.0m2 ÷ 250.00m2/日 ÷ 1層 =	0.088	
	再生密粒As t=4cm				1層	Q= 250.00			
アスファルト舗装工 (人力施工)	再生密粒As t=5cm	m2	22.0	1m2・1層当り	1層	Q= 250.00			
	再生密粒As t=7cm				1層	Q= 230.00			
	H=1.5m以下				0.35人	1人 ÷ (0.35人 ÷ 10m) =	28.57		
	H=2.0m以下				0.40人	1人 ÷ (0.40人 ÷ 10m) =	25.00		
	H=2.5m以下				0.47人	1人 ÷ (0.47人 ÷ 10m) =	21.28		
土留め工	H=3.0m以下	m	23.0	10m当り	0.54人	1人 ÷ (0.54人 ÷ 10m) =	18.52	23.0m × 0.47人 ÷ 10	1.081
	Co t=5cm				6.38人	1人 ÷ (6.38人 ÷ 100m2) =	15.67		
	Co t=10cm				6.38人	1人 ÷ (6.38人 ÷ 100m2) =	15.67		
	Co t=15cm				6.38人	1人 ÷ (6.38人 ÷ 100m2) =	15.67		
土工計									3.83

土工事施工日数算出表(土留めH=2.0m)

No.1

名 称	形 状・寸 法	単 位	設計数量	単 位	歩掛かり (普通作業員)	計 算 式	設計施工 日数
舗装版切断工	As t=15cm以下	m	6.0			C= 220.00	6.0m ÷ 220.00m/日 = 0.027
	As t=15cmを越え40cm以下					C= 140.00	
	Co t=15cm以下					C= 170.00	
	Co t=15cmを越え30cm以下					C= 70.00	
	Co t=30cmを越え35cm以下					C= 40.00	
舗装版取壊し工 (バックホウ 0.35m3)	As t=10cm以下	m2				Q= 220.00	
	As t=10cmを越え15cm以下					Q= 186.00	
	Co t=10cm以下					Q= 810.00	
	Co t=10cmを越え15cm以下					Q= 560.00	
舗装版取壊し工 (バックホウ 0.20m3)	As t=10cm以下	m2	3.0			Q= 182.00	3.0m2 ÷ 182.00m2/日 = 0.016
	As t=10cmを越え15cm以下					Q= 150.00	
	Co t=10cm以下					Q= 280.00	
	Co t=10cmを越え15cm以下					Q= 193.00	
舗装版取壊し工 (バックホウ 0.10m3)	As t=10cm以下	m2				Q= 155.00	
	As t=10cmを越え15cm以下					Q= 126.00	
	Co t=10cm以下					Q= 118.00	
	Co t=10cmを越え15cm以下					Q= 81.00	
舗装版取壊し工 (バックホウ 0.06m3)	As t=10cm以下	m2				Q= 135.00	
	As t=10cmを越え15cm以下					Q= 108.00	
	Co t=10cm以下					Q= 103.00	
	Co t=10cmを越え15cm以下					Q= 69.00	
床堀工 (機械)	バックホウ0.35m3	m3	4.0			Q= 60.00	4.0m3 ÷ 43.00m3/日 = 0.093
	バックホウ0.20m3					Q= 43.00	
	バックホウ0.10m3					Q= 32.00	
	バックホウ0.06m3					Q= 20.00	
床堀工(人力)	バックホウ0.35m3	m3	1.0	10m3当り	3.90人	1人 ÷ (3.90人 ÷ 10m3) = 2.56	
	バックホウ0.20m3					タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 = 33.33	
	バックホウ0.10m3					タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 = 33.33	
	バックホウ0.06m3					タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 = 33.33	
埋戻し工 (機械) 埋戻し用砂	バックホウ0.35m3	m3		100m3当り	3.00日	1.0m3 × 3.00人 ÷ 100m3	0.030
	バックホウ0.20m3					タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 = 33.33	
	バックホウ0.10m3					タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 = 33.33	
	バックホウ0.06m3					タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 = 33.33	
埋戻し工 (機械) RC-40	バックホウ0.35m3	m3		100m3当り	3.00日	33.33	
	バックホウ0.20m3					タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 = 33.33	
	バックホウ0.10m3					タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 = 33.33	
	バックホウ0.06m3					タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 = 33.33	
埋戻し工 (機械) 発生土	バックホウ0.35m3	m3	2.0	100m3当り	3.00日	33.33	2.0m3 × 3.00人 ÷ 100m3
	バックホウ0.20m3					タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 = 33.33	
	バックホウ0.10m3					タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 = 33.33	
	バックホウ0.06m3					タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 = 33.33	

土工事施工日数算出表(土留めH=2.0m)

No.2

名 称	形 状・寸 法	単 位	設計数量	単 位	歩掛かり (普通作業員)	計 算	式 式		設計施工 日数	
							日当り施工量	施 工 日 数		
埋戻し工(人力)	山砂 タンハ [※] 締固め	m3			2.30人	1人 ÷ (2.30人 ÷ 10m3) =	4.35			
	RC-40 タンハ [※] 締固め				2.30人	1人 ÷ (2.30人 ÷ 10m3) =	4.35			
	発生土 タンハ [※] 締固め				2.30人	1人 ÷ (2.30人 ÷ 10m3) =	4.35			
	RC-40 t=10cm				1層	Q= 222.22				
	RC-40 t=15cm				1層	Q= 222.22				
	RC-40 t=20cm				1層	Q= 222.22	3.0m2 ÷ 222.22m2/日 ÷ 1層 =	0.014		0.01
路盤工 (人力施工) 施工幅1.80m未満	RC-40 t=60cm	m2	3.0		3層	Q= 74.07				
	C-40 t=10cm				1層	Q= 222.22				
	C-40 t=15cm				1層	Q= 222.22				
	C-40 t=35cm				2層	Q= 111.11				
	C-40 t=60cm				3層	Q= 74.07				
	M-25 t=10cm				1層	Q= 222.22				
路盤工 (人力施工) 施工幅1.80m未満	M-25 t=11cm	m2	3.0		1層	Q= 222.22	3.0m2 ÷ 222.22m2/日 ÷ 1層 =	0.014	0.01	
	M-25 t=35cm				2層	Q= 111.11				
	M-25 t=60cm				3層	Q= 74.07				
	MS-25 t=10cm				1層	Q= 222.22				
	MS-25 t=15cm				1層	Q= 222.22				
	MS-25 t=26cm				2層	Q= 111.11				
路盤工 (人力施工) 施工幅1.80m未満	MS-25 t=60cm	m2			3層	Q= 74.07				
	RC-40 t=3cm程度の補足材				1層	Q= 217.39				
	C-40 t=3cm程度の補足材				1層	Q= 217.39				
	M-30 t=3cm程度の補足材				1層	Q= 217.39				
	MS-25 t=3cm程度の補足材				1層	Q= 217.39				
	再生密粒As t=3cm				1層	Q= 250.00	3.0m2 ÷ 250.00m2/日 ÷ 1層 =	0.012		0.01
アスファルト舗装工 (人力施工)	再生密粒As t=4cm	m2	3.0		1層	Q= 250.00				
	再生密粒As t=5cm				1層	Q= 250.00				
	再生密粒As t=7cm				1層	Q= 230.00				
	H=1.5m以下				0.35人	1人 ÷ (0.35人 ÷ 10m) =	28.57			
	H=2.0m以下				0.40人	1人 ÷ (0.40人 ÷ 10m) =	25.00	3.0m × 0.40人 ÷ 10m	0.120	0.12
	H=2.5m以下				0.47人	1人 ÷ (0.47人 ÷ 10m) =	21.28			
土留め工	H=3.0m以下	m	3.0		0.54人	1人 ÷ (0.54人 ÷ 10m) =	18.52			
	Co t=5cm				1人 ÷ (6.38人 ÷ 100m2) =	15.67				
	Co t=10cm				1人 ÷ (6.38人 ÷ 100m2) =	15.67				
	Co t=15cm				1人 ÷ (6.38人 ÷ 100m2) =	15.67				
					6.38人	1人 ÷ (6.38人 ÷ 100m2) =	15.67			
					6.38人	1人 ÷ (6.38人 ÷ 100m2) =	15.67			
土工計									0.38	

土工事施工日数算出表(土留めなし)

No.1

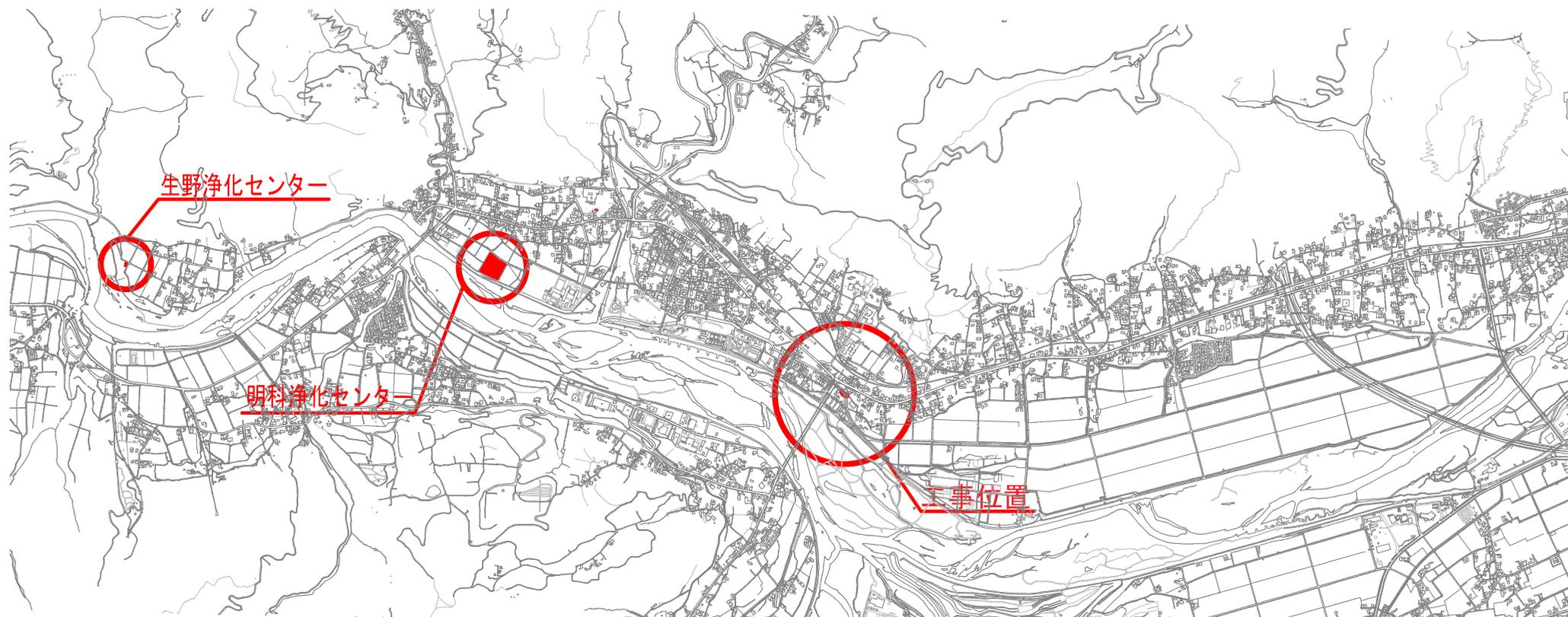
名	称	形状・寸法	単位	設計数量	単位	歩掛かり (普通作業員)	算式		設計施工 日数
							日当り施工量	施工日数	
舗装版切断工		As t=15cm以下	m					C = 220.00	
		As t=15cmを越え40cm以下						C = 140.00	
		Co t=15cm以下						C = 170.00	
		Co t=15cmを越え30cm以下						C = 70.00	
		Co t=30cmを越え35cm以下						C = 40.00	
舗装版取壊し工 (バックホウ 0.35m3)		As t=10cm以下	m2				Q = 220.00		
		As t=10cmを越え15cm以下					Q = 186.00		
		Co t=10cm以下					Q = 810.00		
		Co t=10cmを越え15cm以下					Q = 560.00		
舗装版取壊し工 (バックホウ 0.20m3)		As t=10cm以下	m2				Q = 182.00		
		As t=10cmを越え15cm以下					Q = 150.00		
		Co t=10cm以下					Q = 280.00		
		Co t=10cmを越え15cm以下					Q = 193.00		
舗装版取壊し工 (バックホウ 0.10m3)		As t=10cm以下	m2				Q = 155.00		
		As t=10cmを越え15cm以下					Q = 126.00		
		Co t=10cm以下					Q = 118.00		
		Co t=10cmを越え15cm以下					Q = 81.00		
舗装版取壊し工 (バックホウ 0.06m3)		As t=10cm以下	m2				Q = 135.00		
		As t=10cmを越え15cm以下					Q = 108.00		
		Co t=10cm以下					Q = 103.00		
		Co t=10cmを越え15cm以下					Q = 69.00		
床堀工 (機械)		バックホウ0.35m3	m3				Q = 60.00		
		バックホウ0.20m3					Q = 43.00		
		バックホウ0.10m3					Q = 32.00		
		バックホウ0.06m3					Q = 20.00		
床堀工(人力)		1人 ÷ (3.90人 ÷ 10m3) =	m3				2.56		
		バックホウ0.35m3 タンハ締固め					3.90人		
		バックホウ0.20m3 タンハ締固め					3.00日		
		バックホウ0.10m3 タンハ締固め					3.00日		
		バックホウ0.06m3 タンハ締固め					3.00日		
		バックホウ0.35m3 タンハ締固め					3.00日		
		バックホウ0.20m3 タンハ締固め					3.00日		
		バックホウ0.10m3 タンハ締固め					3.00日		
		バックホウ0.06m3 タンハ締固め					3.00日		
		バックホウ0.35m3 タンハ締固め					3.00日		
		バックホウ0.20m3 タンハ締固め					3.00日		
		バックホウ0.10m3 タンハ締固め					3.00日		
埋戻し工 (機械) RC-40		バックホウ0.35m3 タンハ締固め	m3				100m3 ÷ 3日 =		
		バックホウ0.20m3 タンハ締固め					100m3 ÷ 3日 =		
		バックホウ0.10m3 タンハ締固め					100m3 ÷ 3日 =		
		バックホウ0.06m3 タンハ締固め					100m3 ÷ 3日 =		
埋戻し工 (機械) 発生土		バックホウ0.35m3 タンハ締固め	m3				100m3 ÷ 3日 =		
		バックホウ0.20m3 タンハ締固め					100m3 ÷ 3日 =		
		バックホウ0.10m3 タンハ締固め					100m3 ÷ 3日 =		
		バックホウ0.06m3 タンハ締固め					100m3 ÷ 3日 =		

土工事施工日数算出表(土留めなし)

No.2

名 称	形 状・寸 法	単 位	設計数量	単 位	歩掛かり (普通作業員)	計 算 式		設計施工 日数
						日当り施工量	施 工 日 数	
埋戻し工(人力)	山砂 タンハ締固め	m3			2.30人	$1人 \div (2.30人 \div 10m3) =$	4.35	
	RC-40 タンハ締固め				2.30人	$1人 \div (2.30人 \div 10m3) =$	4.35	
	発生土 タンハ締固め				2.30人	$1人 \div (2.30人 \div 10m3) =$	4.35	
	RC-40 t=10cm				1層	Q=	222.22	
路盤工 (人力施工) 施工幅1.80m未満	RC-40 t=15cm	m2		100m2・1層当り	1層	Q=	222.22	
	RC-40 t=20cm				1層	Q=	222.22	
	RC-40 t=60cm				3層	Q=	74.07	
	C-40 t=10cm				1層	Q=	222.22	
路盤工 (人力施工) 施工幅1.80m未満	C-40 t=15cm	m2		100m2・1層当り	1層	Q=	222.22	
	C-40 t=35cm				2層	Q=	111.11	
	C-40 t=60cm				3層	Q=	74.07	
	M-25 t=10cm				1層	Q=	222.22	
路盤工 (人力施工) 施工幅1.80m未満	M-25 t=11cm	m2		100m2・1層当り	1層	Q=	222.22	
	M-25 t=35cm				2層	Q=	111.11	
	M-25 t=60cm				3層	Q=	74.07	
	MS-25 t=10cm				1層	Q=	222.22	
路盤工 (人力施工) 施工幅1.80m未満	MS-25 t=15cm	m2		100m2・1層当り	1層	Q=	222.22	
	MS-25 t=26cm				2層	Q=	111.11	
	MS-25 t=60cm				3層	Q=	74.07	
	RC-40 t=3cm程度の補足材				1層	Q=	217.39	
不陸整正工 (人力施工) 施工幅1.80m未満	C-40 t=3cm程度の補足材	m2		100m2・1層当り	1層	Q=	217.39	
	M-30 t=3cm程度の補足材				1層	Q=	217.39	
	MS-25 t=3cm程度の補足材				1層	Q=	217.39	
	再生密粒As t=3cm				1層	Q=	250.00	
アスファルト舗装工 (人力施工)	再生密粒As t=4cm	m2		1m2・1層当り	1層	Q=	250.00	
	再生密粒As t=5cm				1層	Q=	250.00	
	再生密粒As t=7cm				1層	Q=	230.00	
	H=1.5m以下				0.35人	$1人 \div (0.35人 \div 10m) =$	28.57	
土留め工	H=2.0m以下	m		10m当り	0.40人	$1人 \div (0.40人 \div 10m) =$	25.00	
	H=2.5m以下				0.47人	$1人 \div (0.47人 \div 10m) =$	21.28	
	H=3.0m以下				0.54人	$1人 \div (0.54人 \div 10m) =$	18.52	
	Co t=5cm				6.38人	$1人 \div (6.38人 \div 100m2) =$	15.67	
コンクリート舗装工 (人力舗設)	Co t=10cm	m2		100m2当り	6.38人	$1人 \div (6.38人 \div 100m2) =$	15.67	
	Co t=15cm				6.38人	$1人 \div (6.38人 \div 100m2) =$	15.67	
土工計								0.00

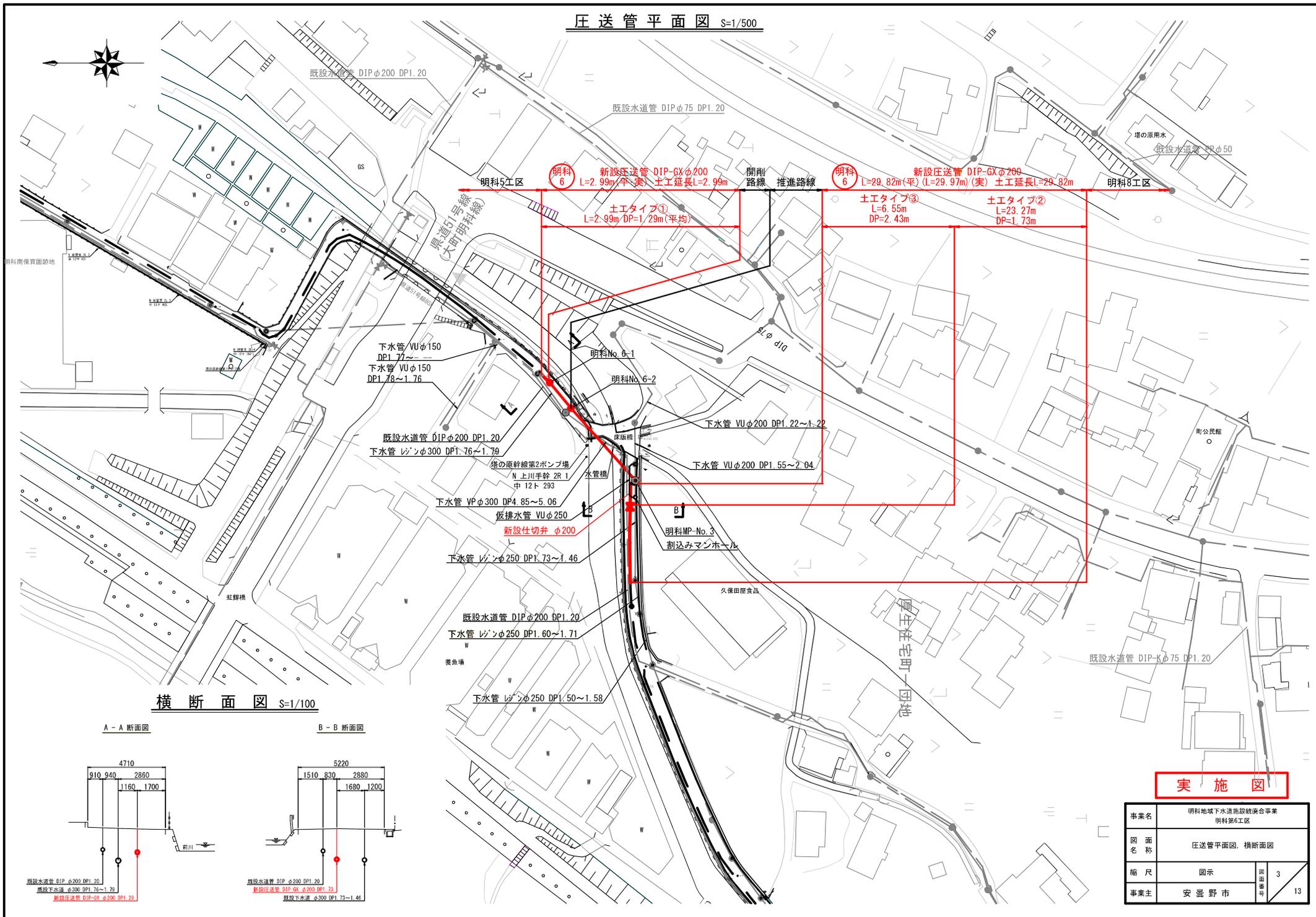
位置図 S=1/20,000



実施図

事業名	明科地域下水道施設統合事業 明科第6工区		
図面 名称	位置図 (明科6工区)		
縮尺	図示	図面 番号	1
事業主	安曇野市		13

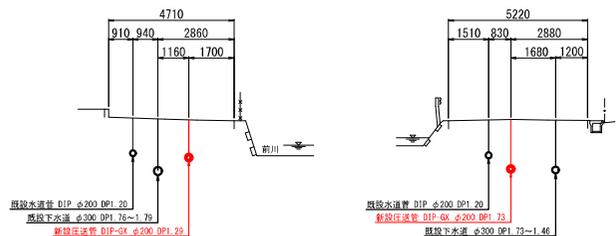
圧送管平面図 S=1/500



横断面図 S=1/100

A-A断面図

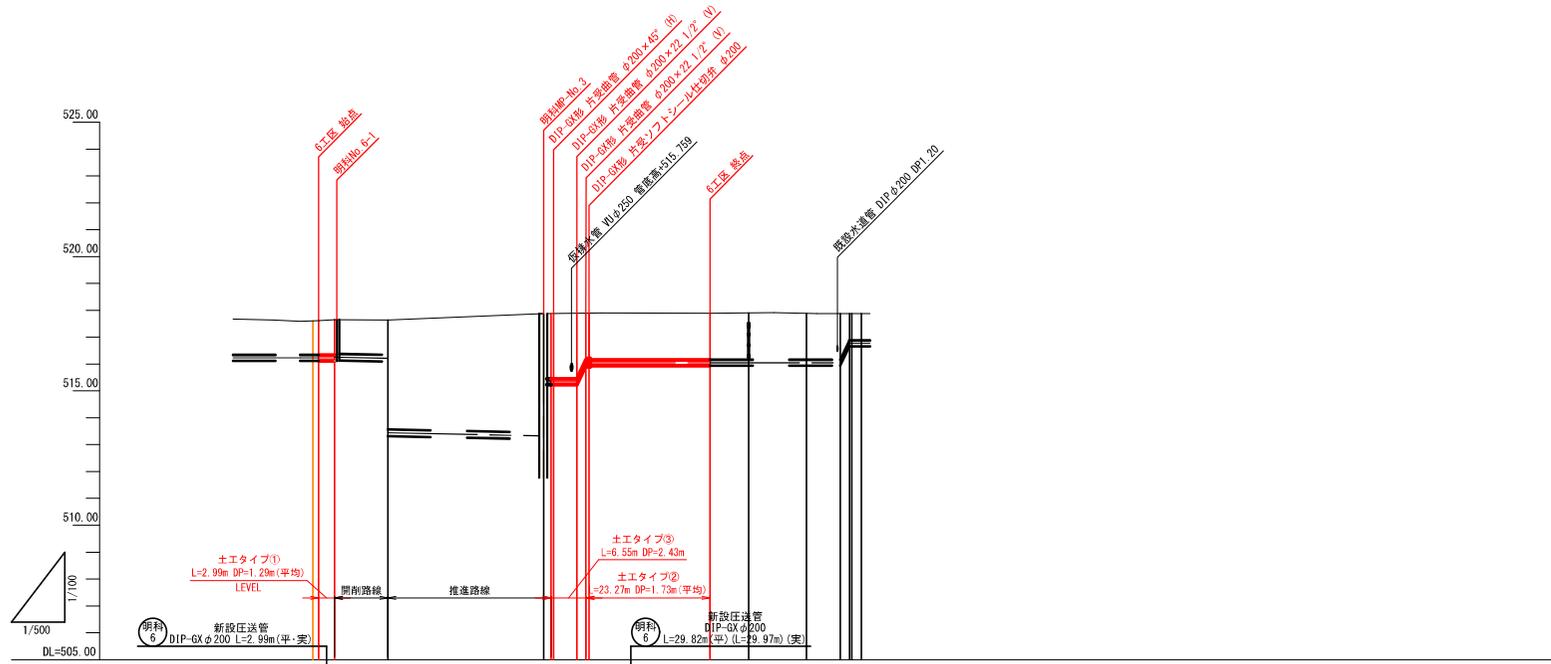
B-B断面図



実施図

事業名	明科地域下水道施設改善事業 明科第6工区		
図面 名称	圧送管平面図、横断面図		
縮尺	図示	深 度 縮 小 率	3
事業主	安曇野市		13

圧送管縦断面図 H=1/500
V=1/100

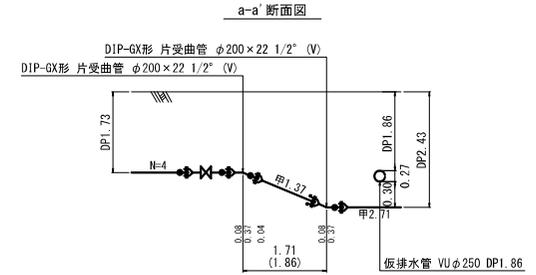
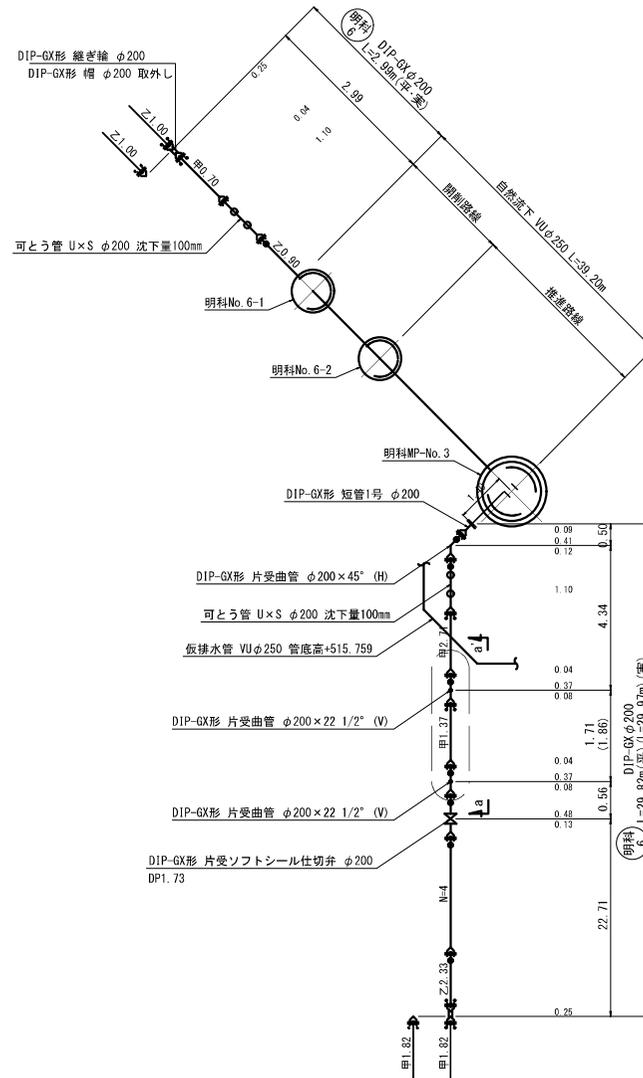


管径延長 管種	明科5工区		自然流下 VUφ250 L=39.20m		明科8工区	
土被り	1.27	1.31	2.43	2.43	1.73	1.74
掘削深	1.59	1.63	2.75	2.75	2.05	2.05
管底高	516.13	516.13	515.24	515.24	515.95	515.95
地盤高	517.61	517.65	517.88	517.88	517.89	517.89
水道平 追加距離	0.00	2.99	0.00	0.00	27.55	27.55
平 単 面 距離	0.00	2.99	0.00	0.00	22.71	22.71
平 追加距離 測	+0.00	+2.99	+0.00	+0.00	+27.55	+27.55

実施図

事業名	明科地域下水道施設統合事業 明科第6工区		
図名	圧送管縦断面図		
縮尺	図示	4	13
事業主	安曇野市		

圧送管詳細図 S=Free



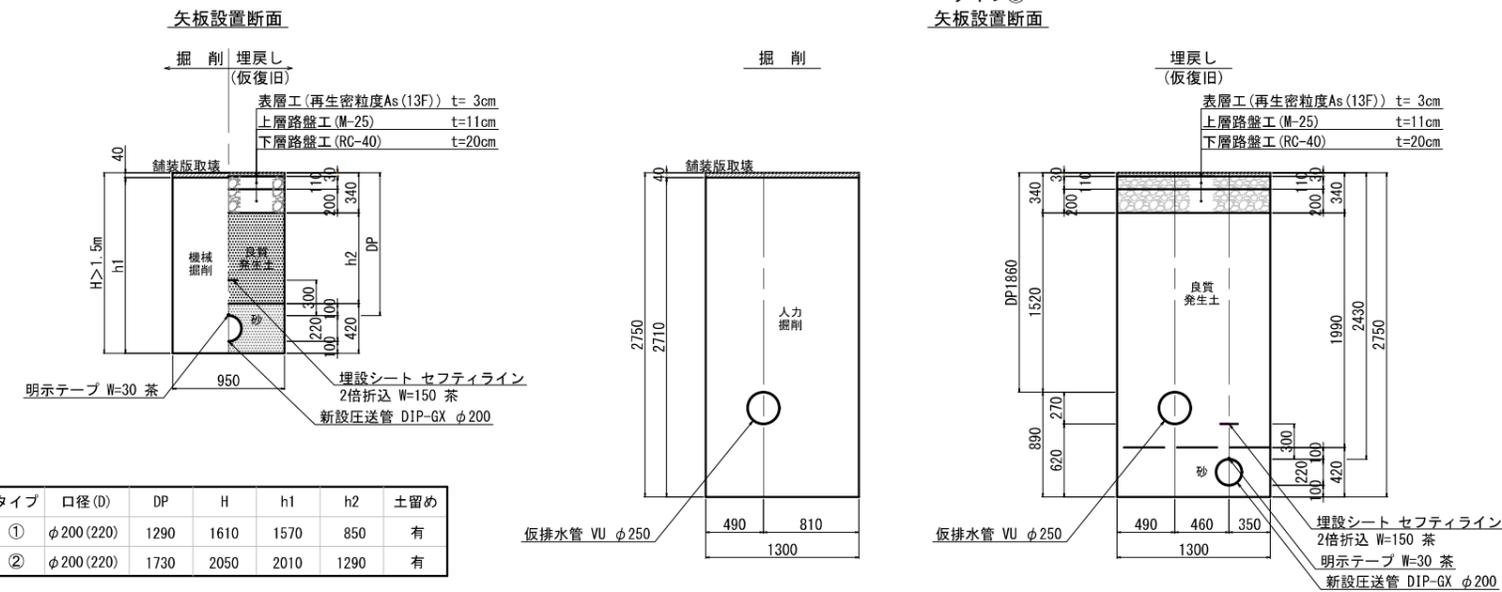
実施図

凡例
 (実)：実延長
 (平)：平面延長

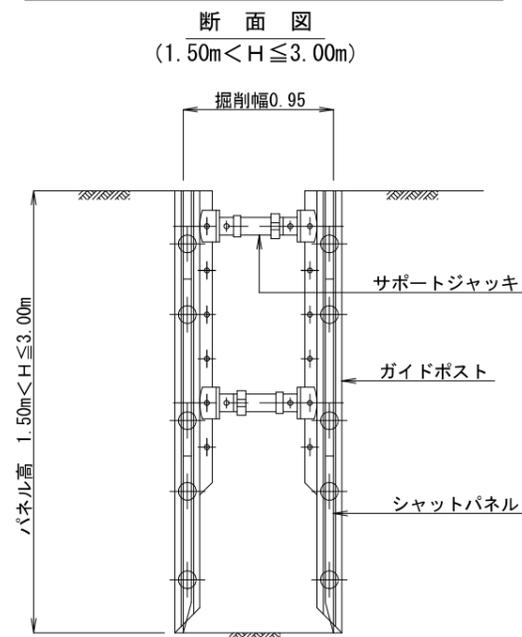
事業名	明科地域下水道施設統合事業 明科第6工区		
図面名称	圧送管詳細図		
縮尺	Free	図面番号	S
事業主	安曇野市	ページ	13

圧送管土工定規・舗装復旧工図 S=1/30

市道車道As舗装道

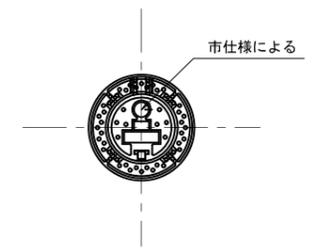


圧送管土留工標準構造図 S=1/20

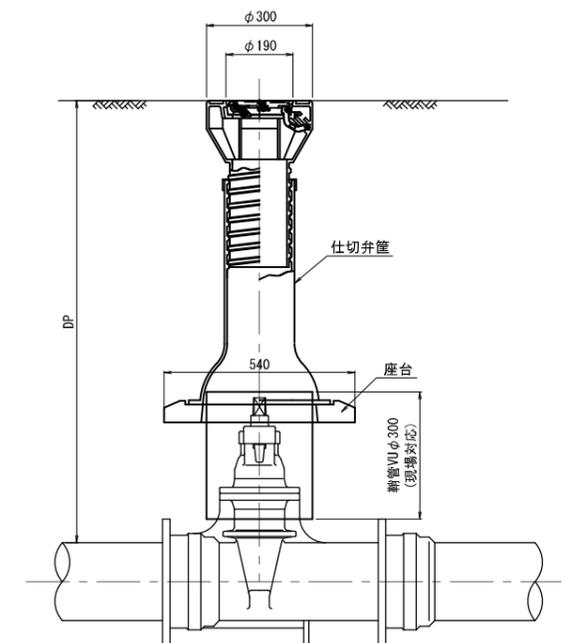


仕切弁筐設置標準図 S=1/10

平面図



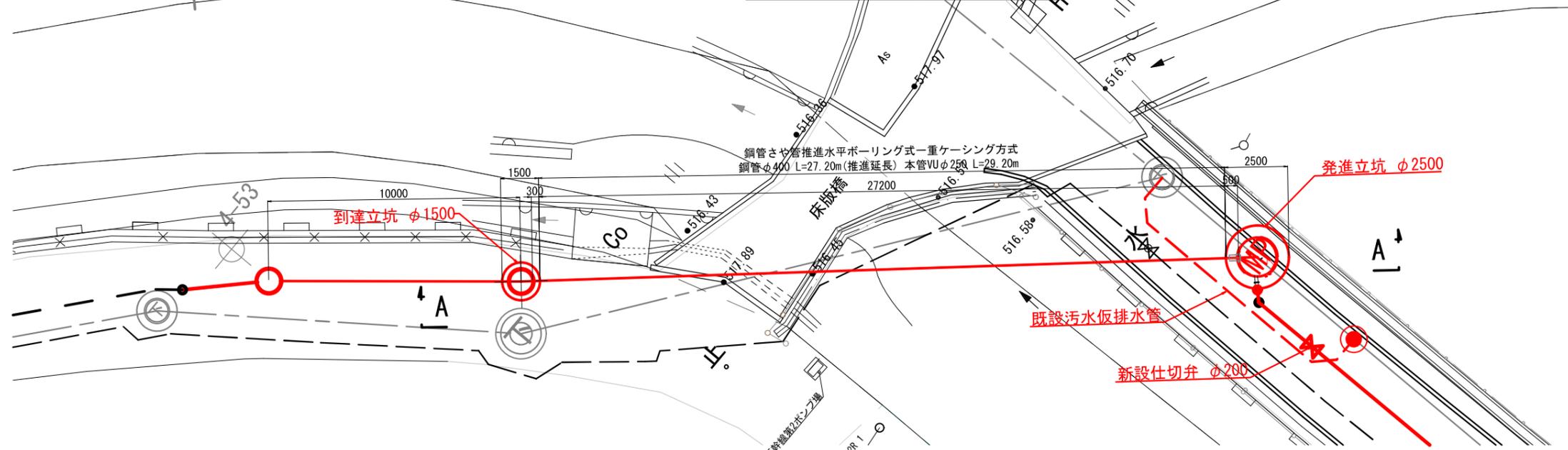
断面図



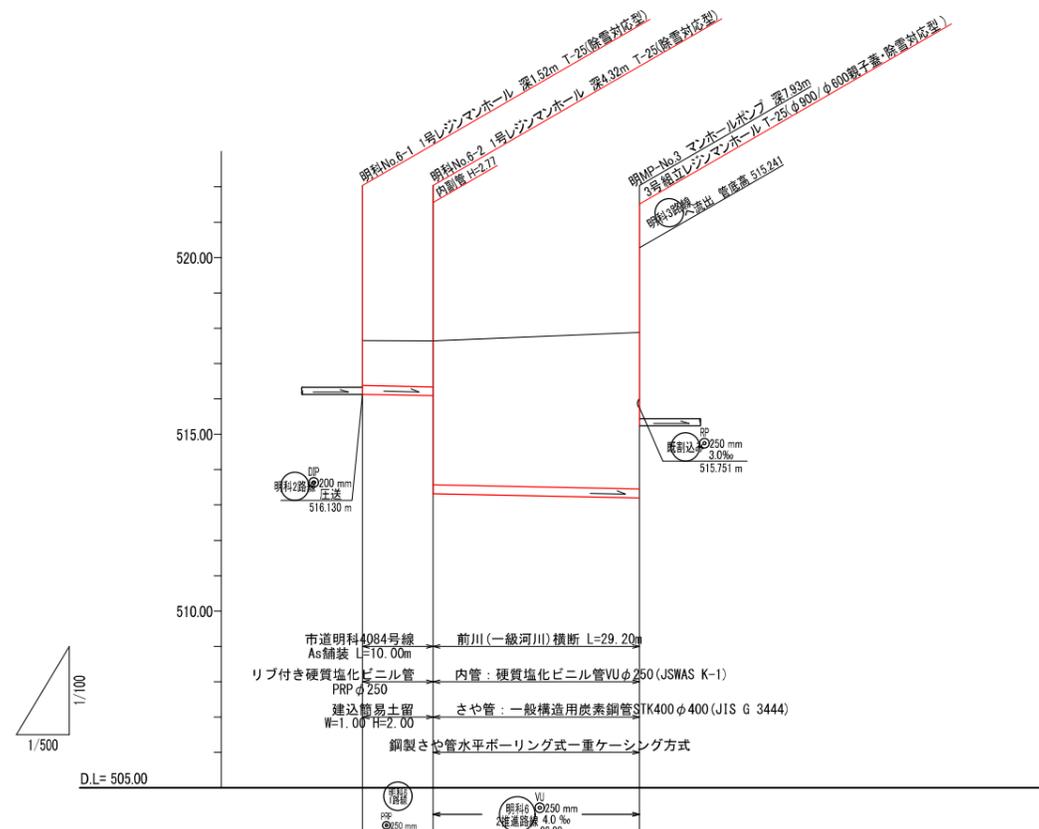
実施図

事業名	明科地域下水道施設統廃合事業 明科第6工区		
図面名称	圧送管土工定規・舗装復旧工図 仕切弁筐設置標準図		
縮尺	図示	図面番号	6
事業主	安曇野市	図面番号	13

自然流下平面図 S=1/400

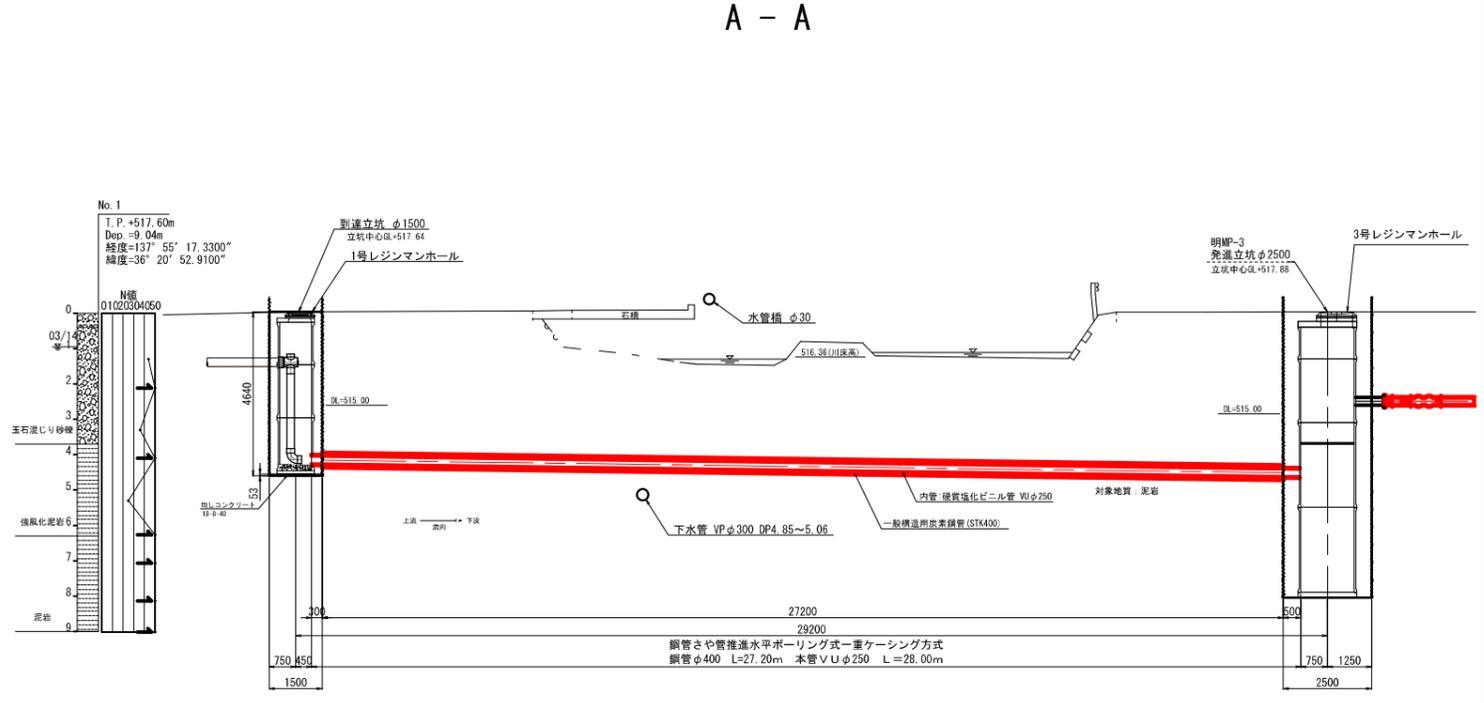


自然流下縦断図 S=1/100



地盤高	517.65	517.64	517.88
土被	1.27 (1.29)	1.30 4.06	4.42 (4.24)
管底高	516.130	516.090 513.317	513.200
掘削深	1.63 (1.65)	1.66 4.43	4.79 (推進区間)
追加距離	0.00	10.00	39.20

自然流下横断図 S=1/50

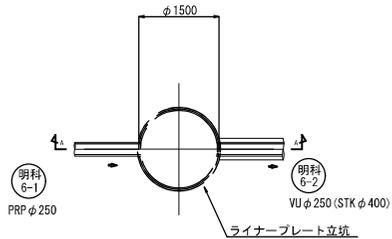


実施図

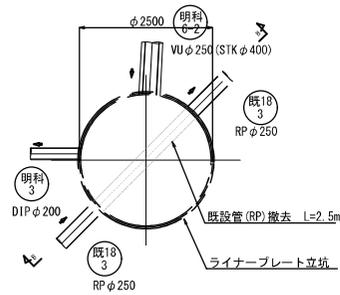
事業名	明科地域下水道施設統廃合事業 明科第6工区		
図面名称	自然流下平面図, 自然流下縦断図, 自然流下横断図		
縮尺	Free	図面番号	7
事業主	安曇野市	図面番号	13

推進立坑仮設図 S=1/50

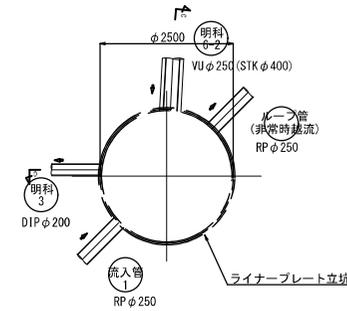
到達立坑φ1500



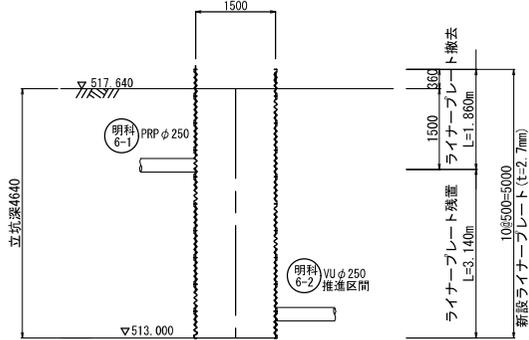
発進立坑φ2500(推進時)



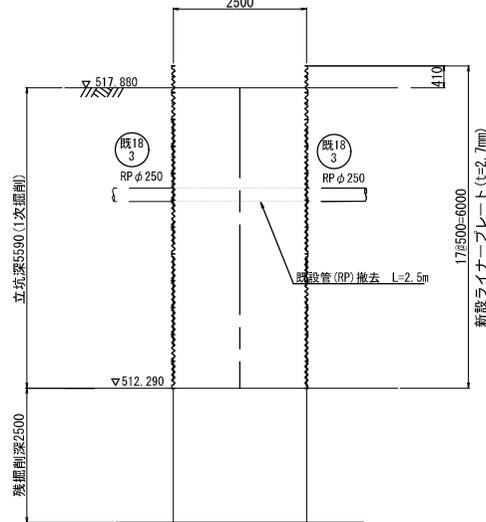
マンホールポンプ立坑φ2500(マンホール設置時)



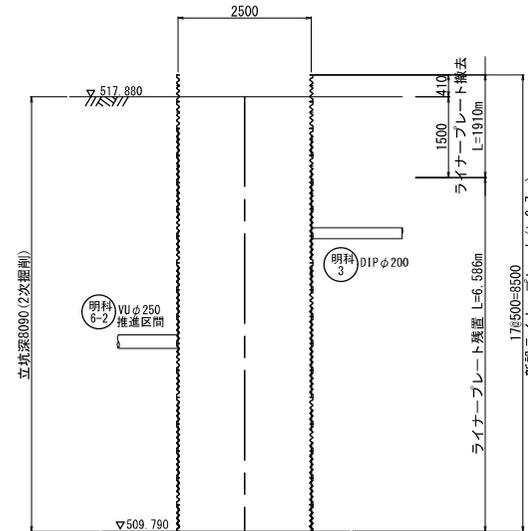
到達立坑
A - A



発進立坑
B - B



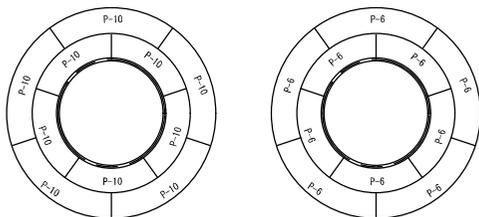
マンホールポンプ立坑
C - C



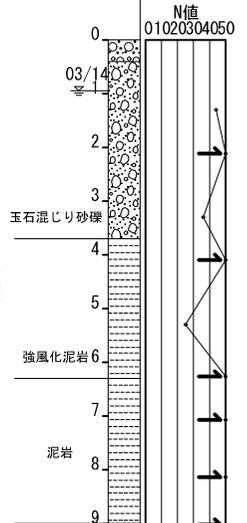
セクション構成図

発進立坑φ2500

到達立坑φ1500



No. 1
T. P. +517.60m
Dep. =9.04m
経度=137° 55' 17.3300"
緯度=36° 20' 52.9100"



※既18-3路線は、立坑構築時に立坑内管きよを撤去する。
撤去した上下流はマンホールポンプと接続し、供用開始後以下の通り用いる。
上流側：流入きよ・・・既存汚水系統の取込み 下流側：ループ管・・・非常時越流管

※発進立坑は、マンホールポンプ立坑としても利用する。
先に推進立坑、推進後にマンホールポンプ立坑として2段階の掘削を行う。

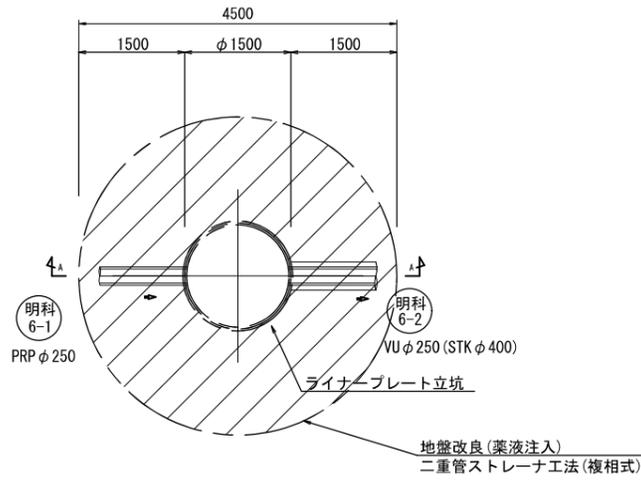
※強風化砂質泥岩および泥岩は、ボーリング調査より不透水層と判断した。

事業名	明科地下下水道施設組合事業 明科第6工区		
図面名称	推進立坑仮設図		
縮尺	図示	8	13
事業主	安曇野市		

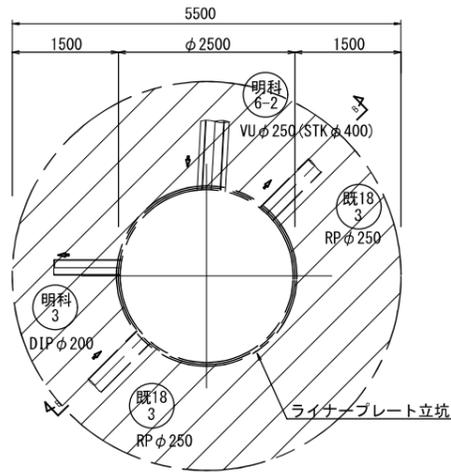
実施図

推進立坑地盤改良工図 S=1/50

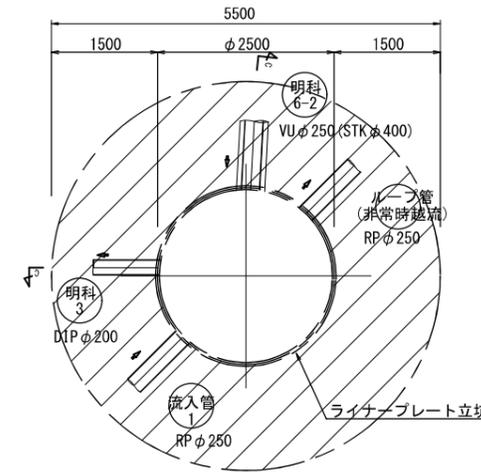
到達立坑φ1500



発進立坑φ2500(推進時)

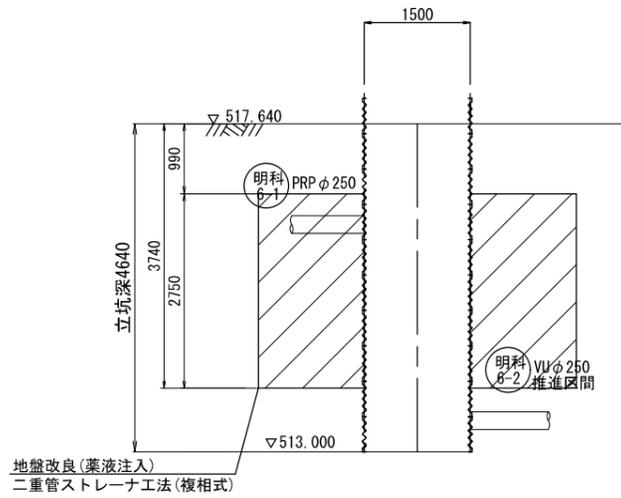


マンホールポンプ立坑φ2500(マンホール設置時)



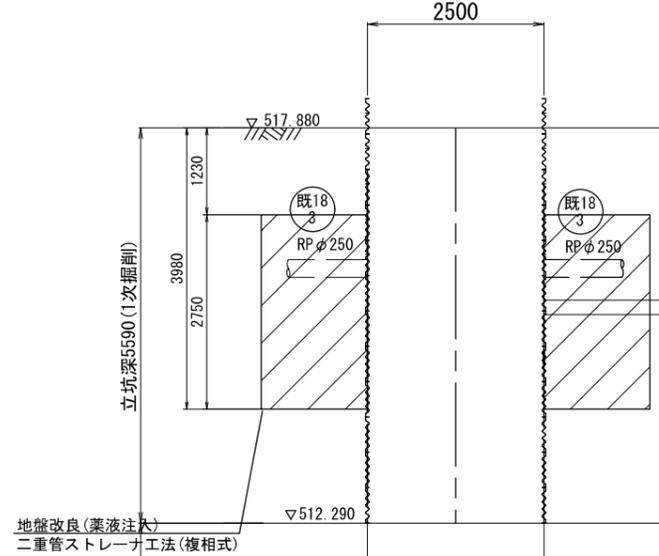
到達立坑

A - A



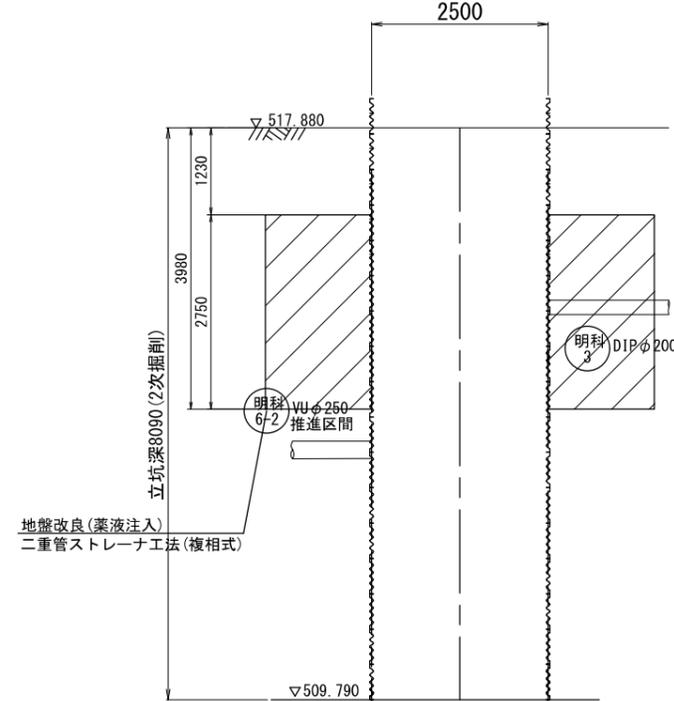
発進立坑

B - B



マンホールポンプ立坑

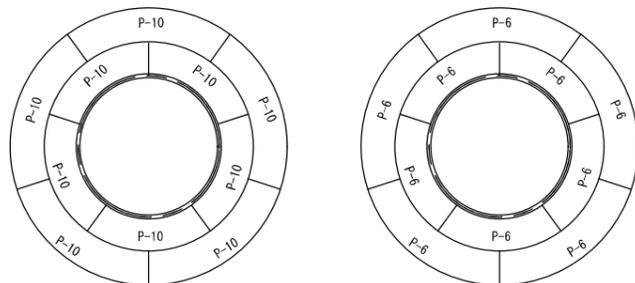
C - C



セクション構成図

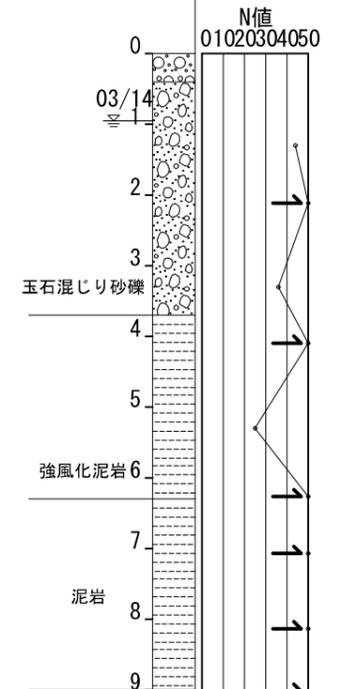
発進立坑φ2500

到達立坑φ1500



No. 1

T. P. +517.60m
Dep. =9.04m
経度=137° 55' 17.3300"
緯度=36° 20' 52.9100"



実施図

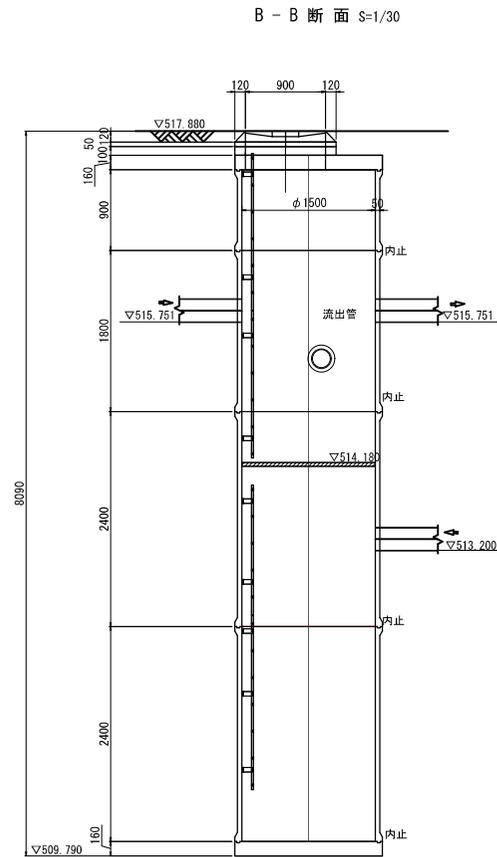
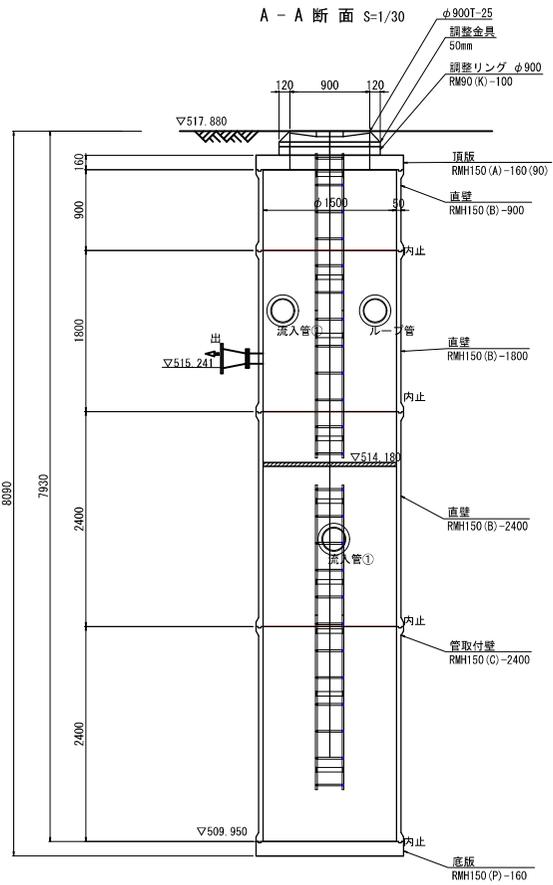
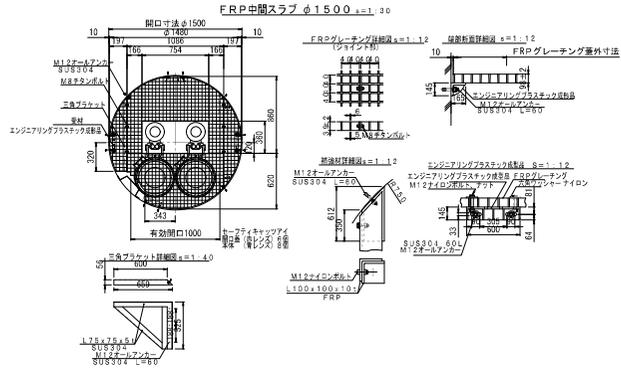
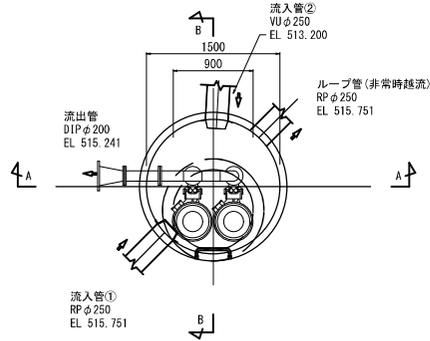
※既18-3路線は、立坑構築時に立坑内管きよを撤去する。
撤去した上下流はマンホールポンプと接続し、供用開始後以下の通り用いる。
上流側：流入きよ・・・既存汚水系統の取込み 下流側：ループ管・・・非常時越流管

※発進立坑およびマンホールポンプ立坑は同一箇所であり、一度の地盤改良で必要改良範囲を満たす。
そのため、発進立坑構築前の地盤改良のみとする。

※強風化砂質泥岩および泥岩は、ボーリング調査より不透水層と判断した。

事業名	明科地域下水道施設統廃合事業 明科第6工区		
図面名称	推進立坑地盤改良図		
縮尺	図示	図面番号	9
事業主	安曇野市	図面番号	13

明MP-3 3号組立レジンマンホール構造図 図示



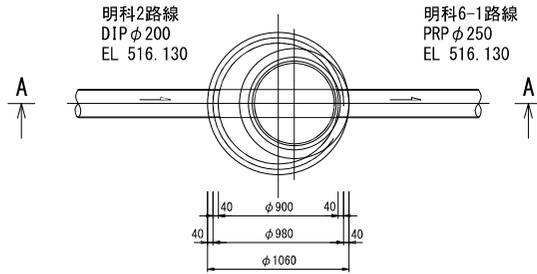
※レジンマンホールの内壁はクリーム色

実施図

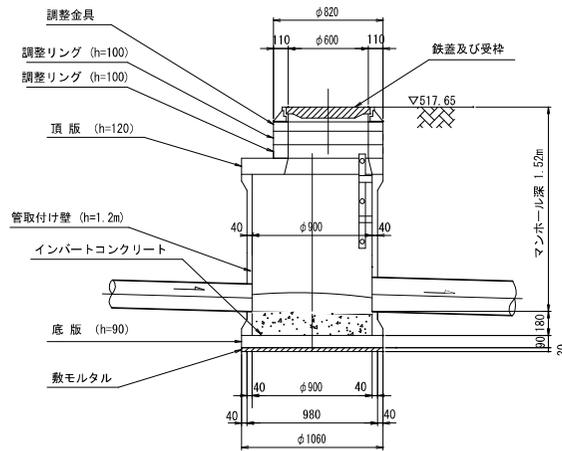
事業名	明科地域下水道施設整備事業 明科第6工区		
図名	明MP-3 3号組立レジンマンホール構造図		
縮尺	図示	10	13
事業主	安曇野市		

明科No. 6-1

平面図

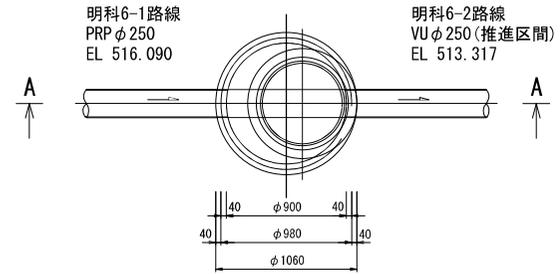


A-A 断面図

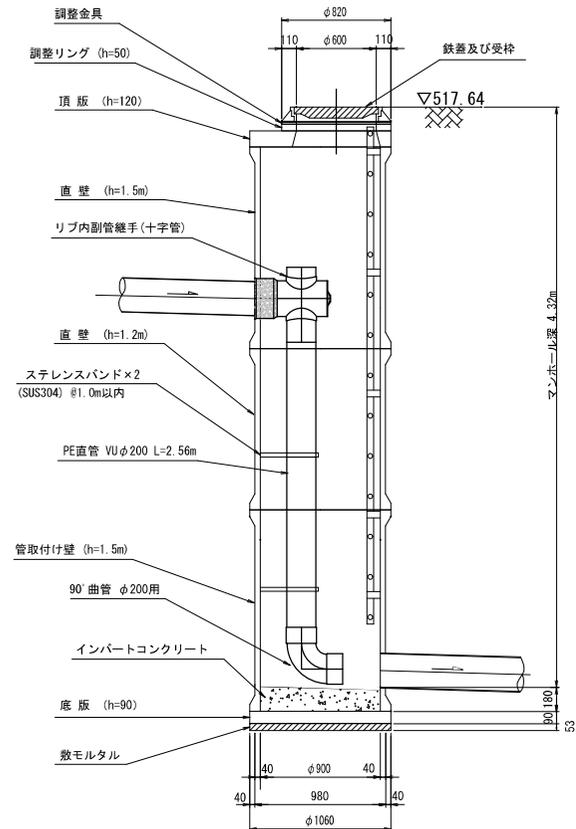


明科No. 6-2

平面図



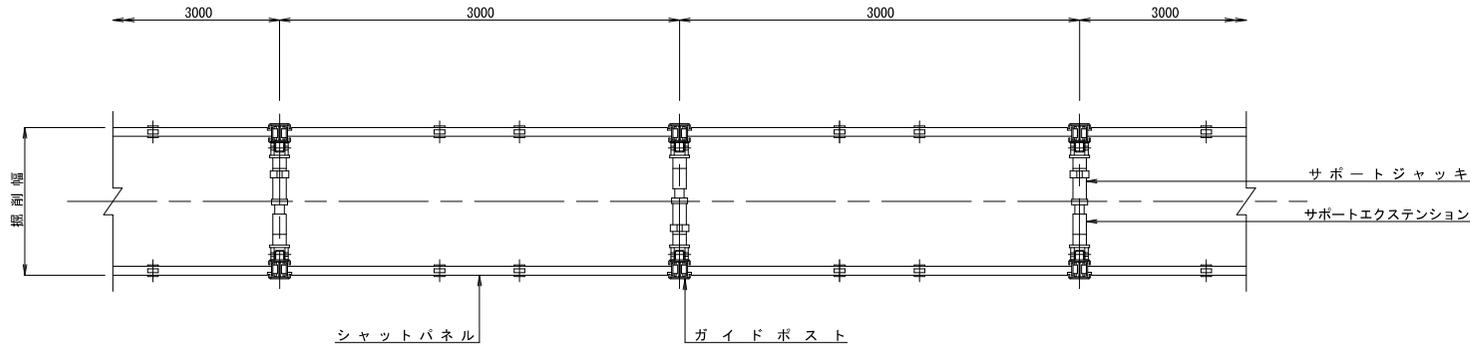
A-A 断面図



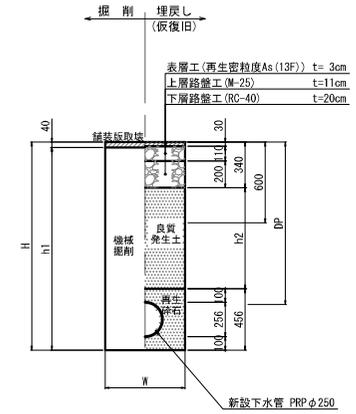
実施図

事業名	明科地域下水道施設整備事業 明科第6工区		
図名	1号組立レジンマンホール構造図 (明科No. 6-1、明科No. 6-2)		
縮尺	図示	図面番号	11
事業主	安曇野市	図面番号	13

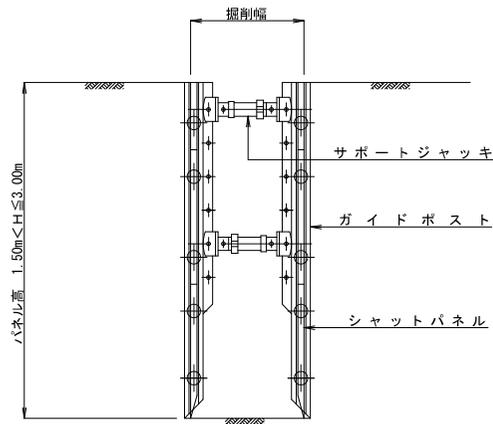
平面図



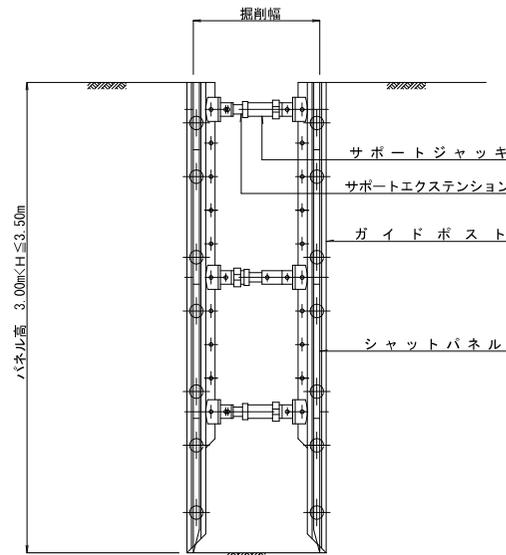
市道車道As舗装道



断面図
(1.50m < H ≤ 3.00m)



断面図
(3.00m < H ≤ 3.50)



掘削深と矢板長

掘削深 H (m)	矢板長 (m)	掘削幅 (m)
1.5 < H ≤ 3.0	3.0	1.05
3.0 < H ≤ 3.5	3.5	1.05

実施図

事業名	明科地域下水道施設統合事業 明科第6工区		
図名	建込簡易土留標準図 土工定規・舗装復旧工図		
縮尺	図示	図 12	13
事業主	安曇野市	図 13	

